

# 厚真町立地適正化計画

(別冊資料編)



# 目 次

第1章. 現状と課題.....	1
1-1 地勢.....	2
1-2 人口.....	3
1-3 土地利用.....	10
1-4 公共交通.....	20
1-5 都市機能.....	26
1-6 経済.....	47
1-7 財政.....	52
1-8 都市構造上の評価.....	60
第2章. アンケート調査結果.....	63
2-1 調査の概要.....	64
2-2 調査の結果.....	65



# 第1章. 現状と課題

1-1 地勢

当町は、北海道の南西部に位置し、南北に細長く、日本海と太平洋をつなぐ広大な平坦地である「道央圏」に位置しています。夕張山地から太平洋へと南流する延長 52.3 kmの厚真川の流域をほぼそのまま町域としており、厚真川流域とその周辺の丘陵地帯、及び勇払平野の東端に続く平地に大別されます。この流域に水田が形成され、一部畑地が混在しています。また、町域の約7割が山林で占められています。

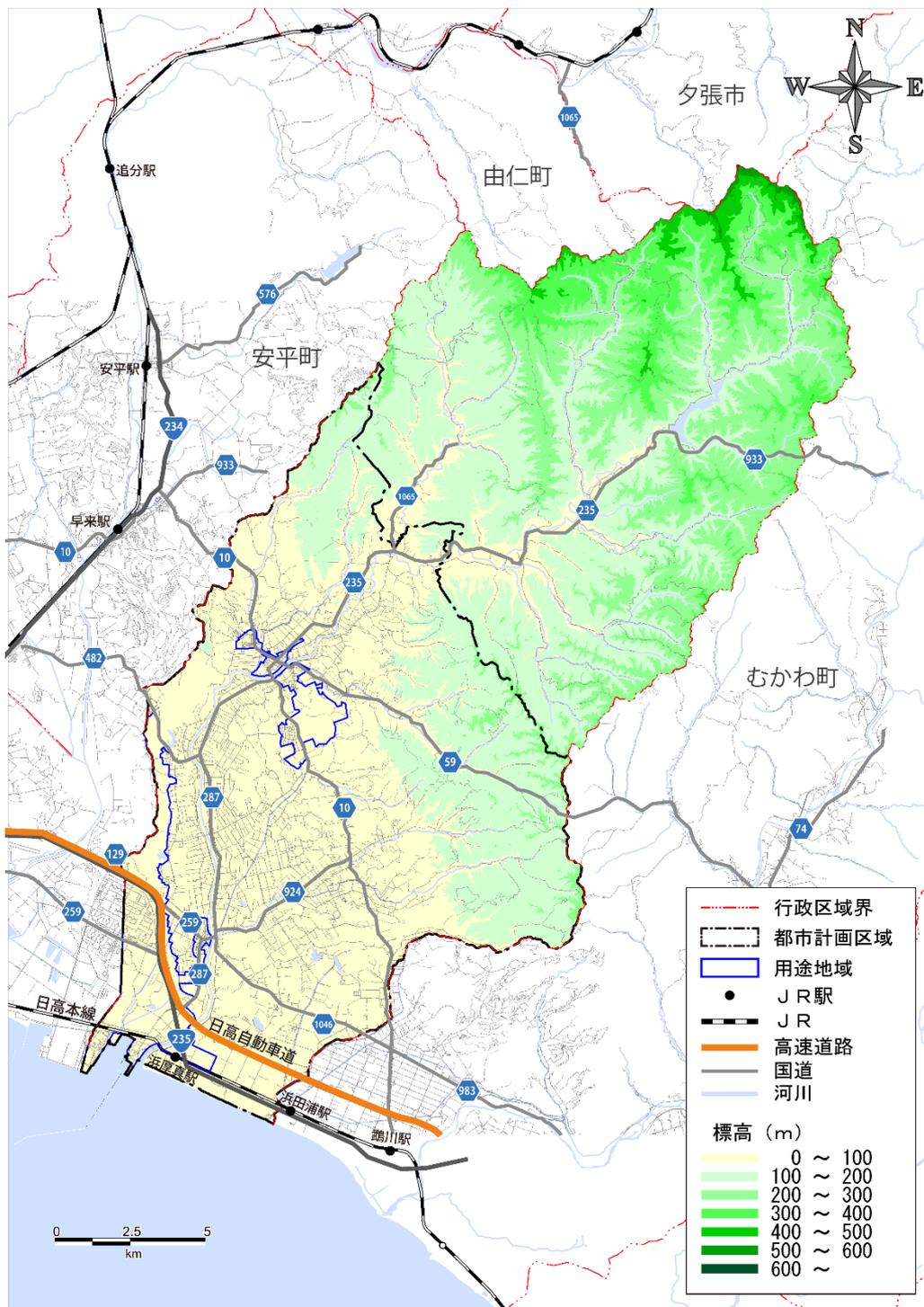


図 1-1 厚真町の地勢 (資料：国土地理院基盤地図情報)

1-2 人口

(1) 人口分布

500mメッシュ (25ha 当たり) ごとの人口分布によると、厚真市街地・上厚真市街地の人口が高くなっているほか、郊外部では豊川や鹿沼、幌内などにまとまった人口分布が見られます。

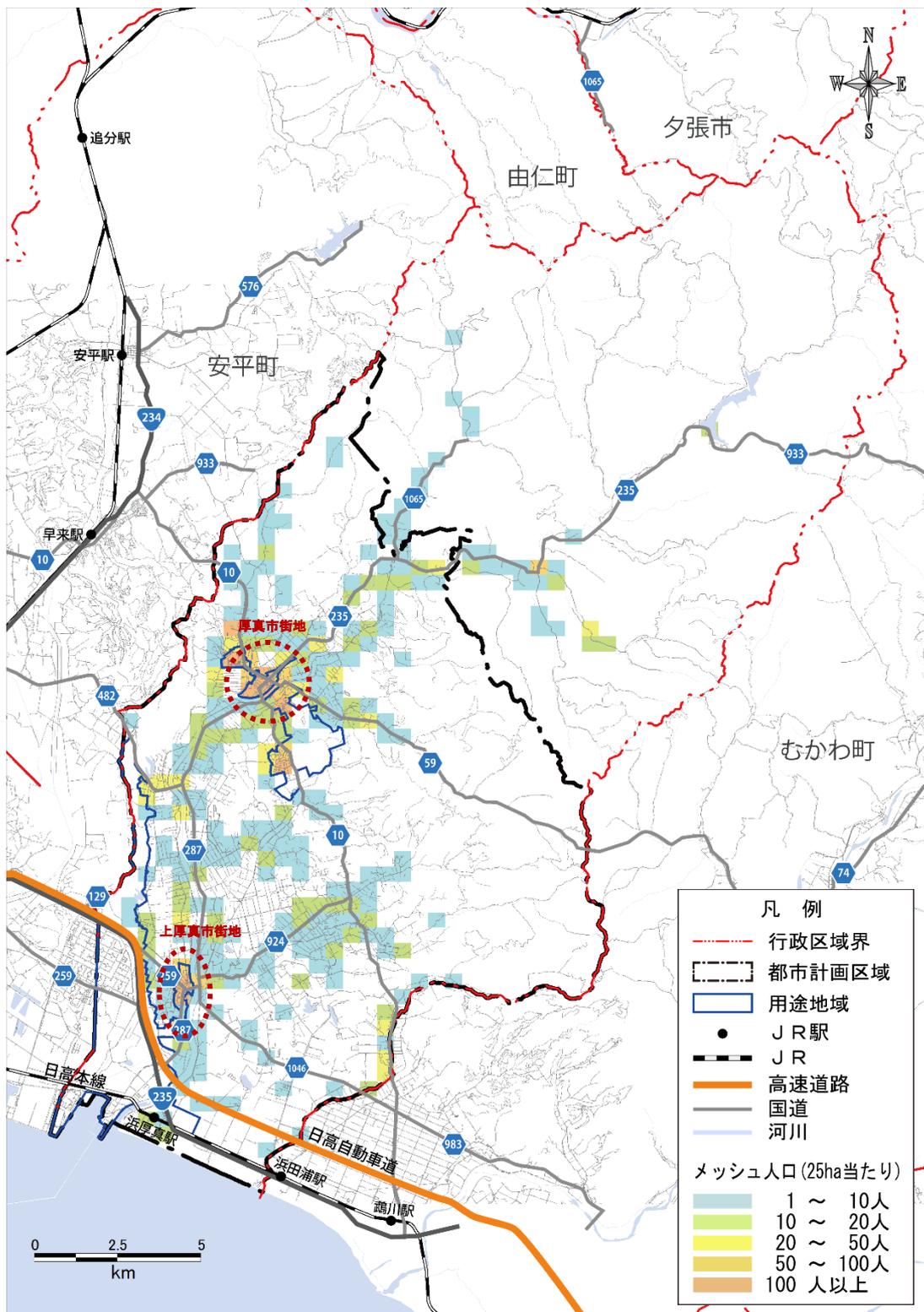


図 1-2-1 2015 年人口分布 500mメッシュ (25ha 当たり) (資料: 国勢調査)

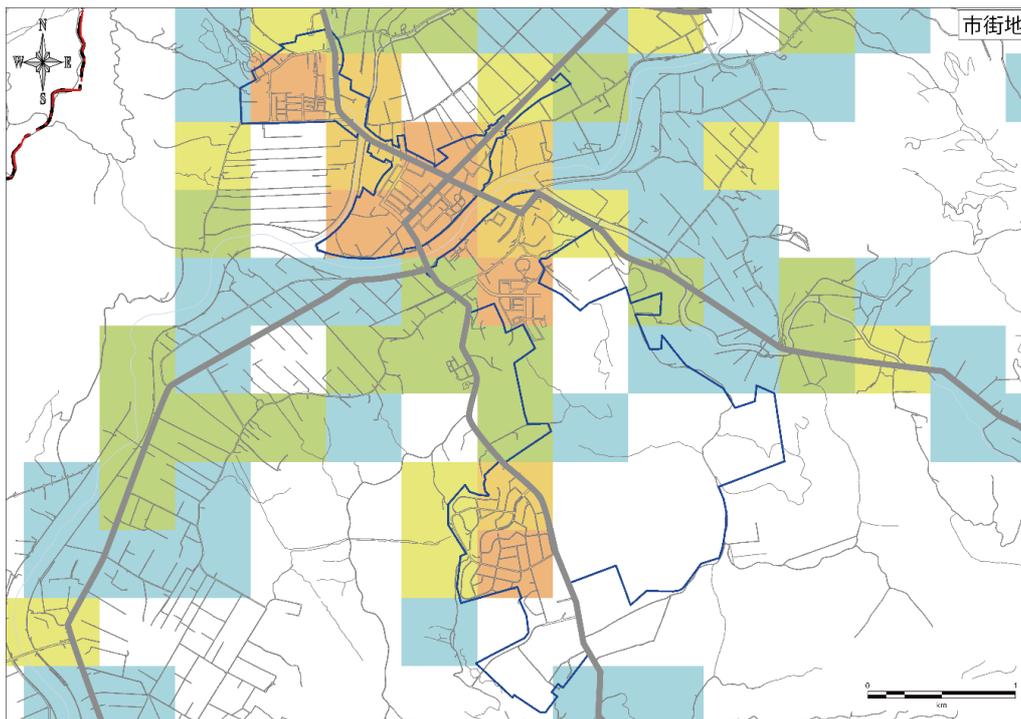


図 1-2-2 2015 年人口分布 500mメッシュ (厚真市街地) (資料：国勢調査)

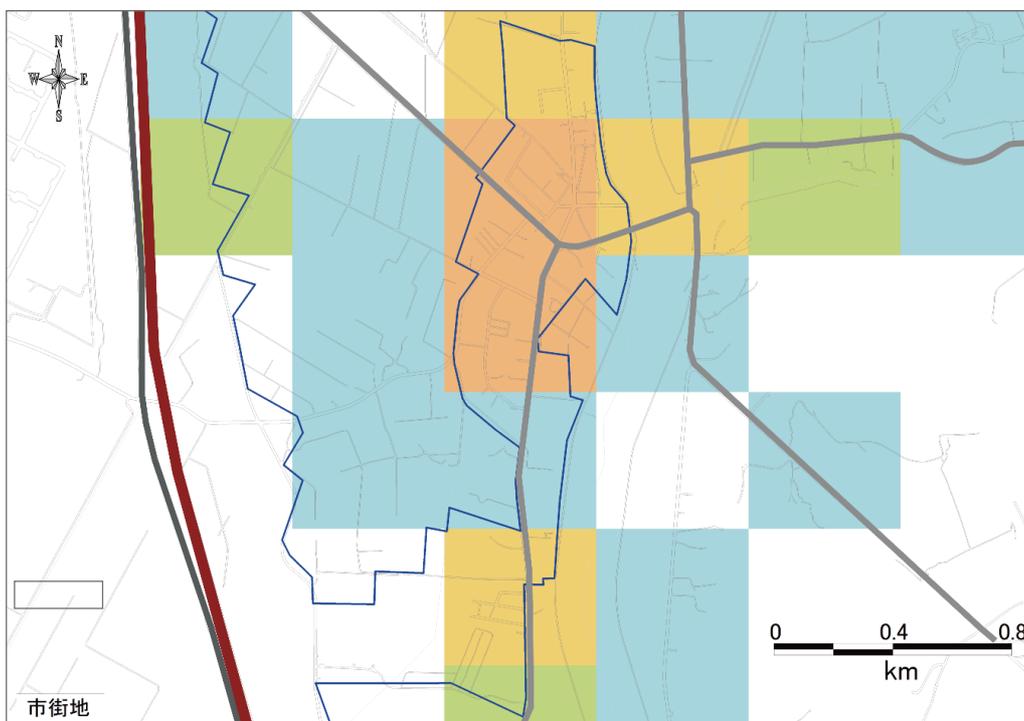


図 1-2-3 2015 年人口分布 500mメッシュ (上厚真市街地) (資料：国勢調査)

(2) 人口・世帯数の推移と将来見通し

人口は経年的に減少しており、2010年には5,000人を下回り、2015年では4,838人となっています。一方で世帯数は増加傾向にあり、単身世帯の増加や核家族化によるものと考えられます。

国立社会保障・人口問題研究所による将来人口は、2015年の実績値4,838人に対し、2045年には3,110人と36%の減少となる見通しです。また、高齢化率については2015年が35.4%に対し、2045年では47.1%と11.7ポイントの増加となる見通しです。

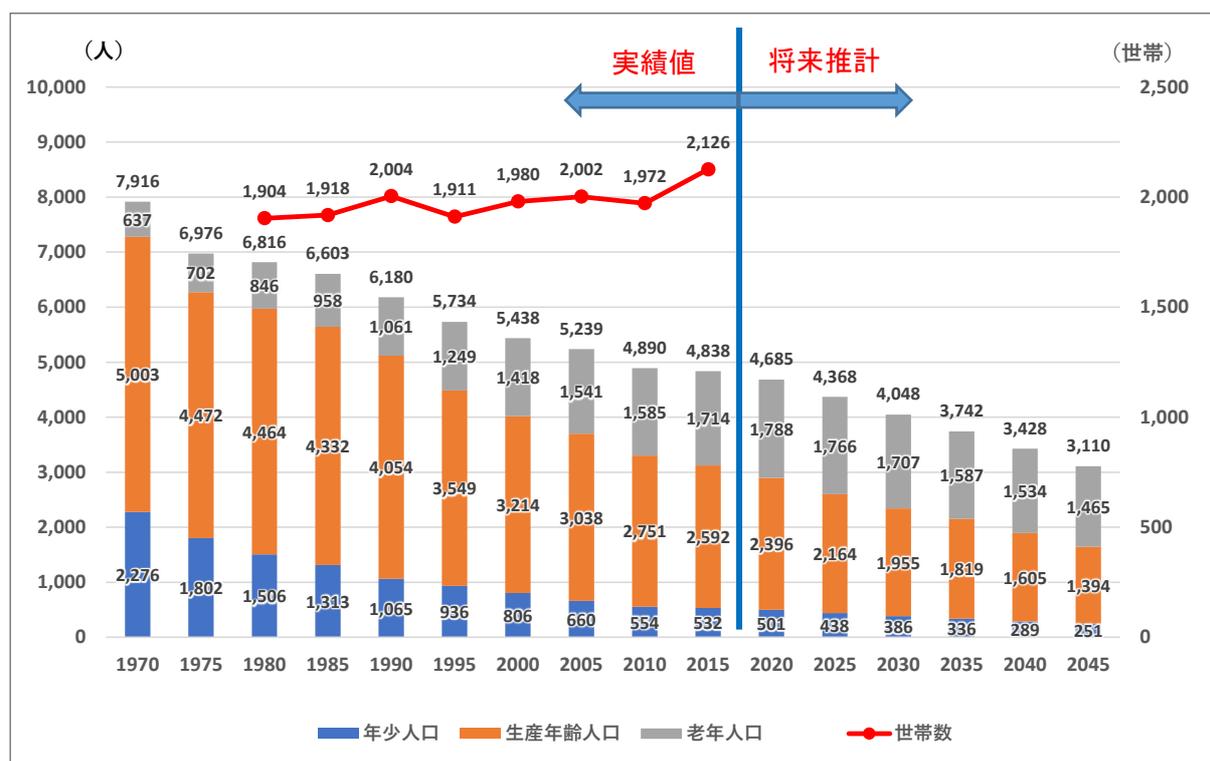


図 1-2-4 年齢3区分別人口の推移・推計と世帯数の推移

(資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所)

(3) 将来見通しにおける字別人口増減

2015年から2040年までの字別人口増減率の推計値は全ての地域において減少が予想されています。また、大半のエリアで「-10~-20」と減少しており、特に北部地域の減少幅が大きくなっています。

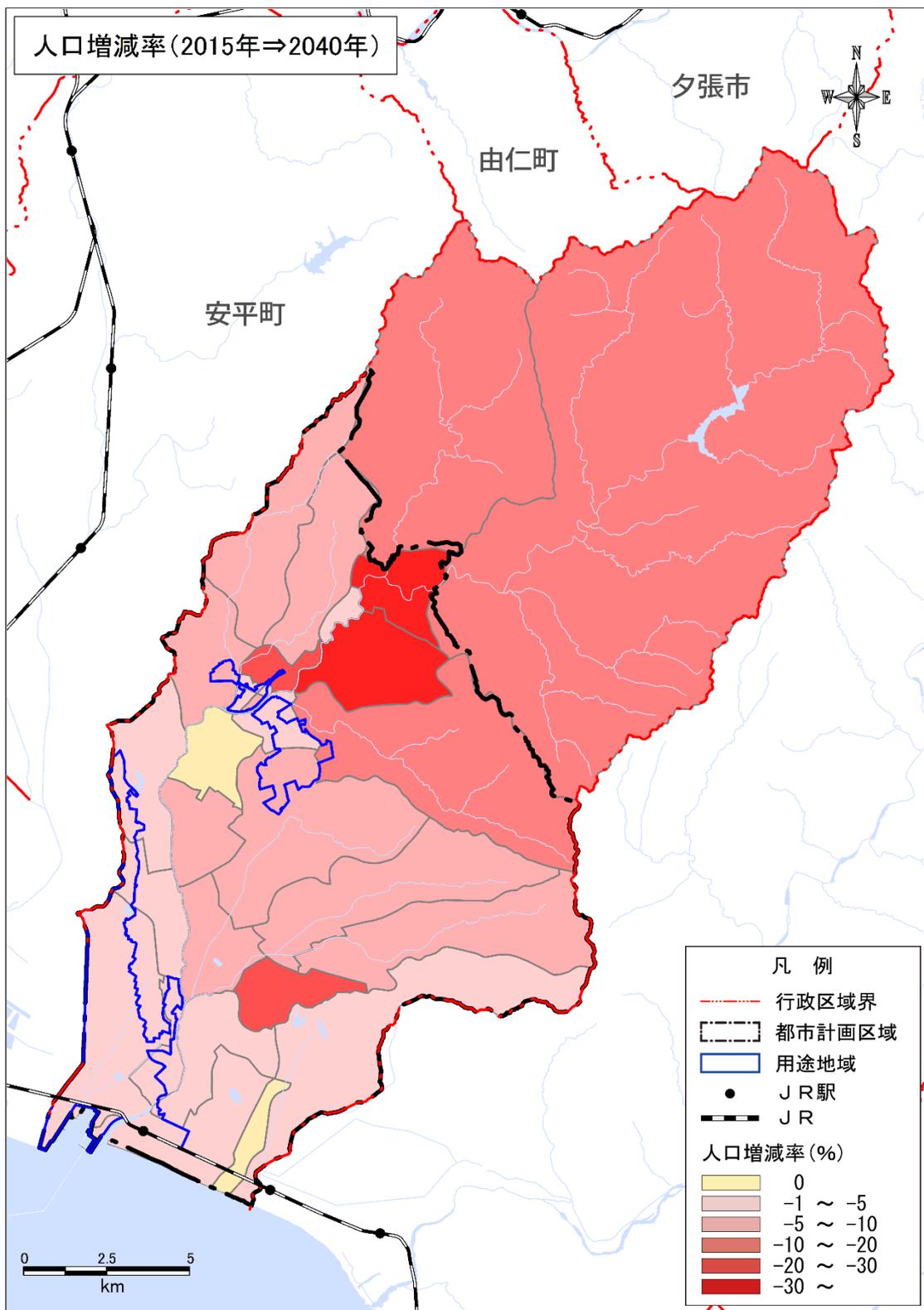


図1-2-5 字別人口の増減率

※将来人口はG空間情報センター将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)を使用

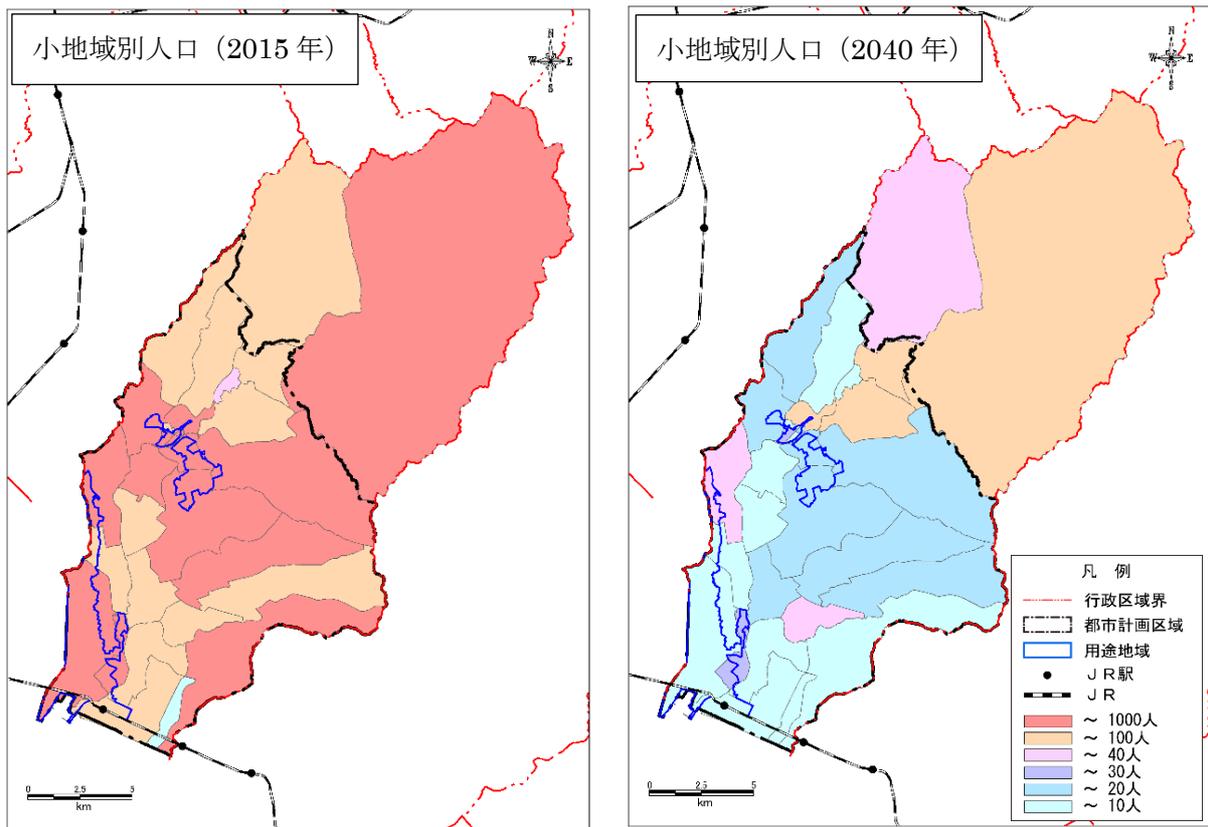


図 1-2-6 小地域別の人口分布

(4) 従業者の町内常住率の推移

従業者<sup>※</sup>の町内常住率は2000年の75.3%に対し、2015年には7ポイント減少の67.6%となっており、本町の周辺から通勤する割合が比較的上昇しています。

表 1-1-1 従業者<sup>※</sup>の町内外常住数の推移 (資料：各年国勢調査)

項目	2000年	2005年	2010年	2015年
厚真町内に常住する人数	2,716人	2,471人	2,209人	2,265人
本町の周辺に常住する人数	893人	979人	942人	1,088人
合計	3,609人	3,450人	3,151人	3,353人

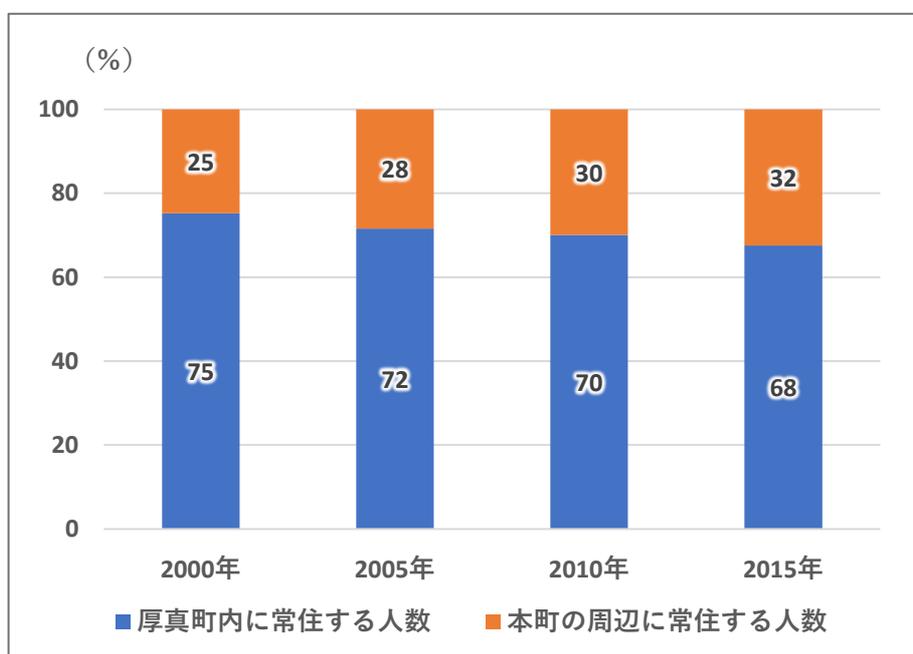


図 1-2-7 従業者<sup>※</sup>の町内常住率の推移 (資料：各年国勢調査)

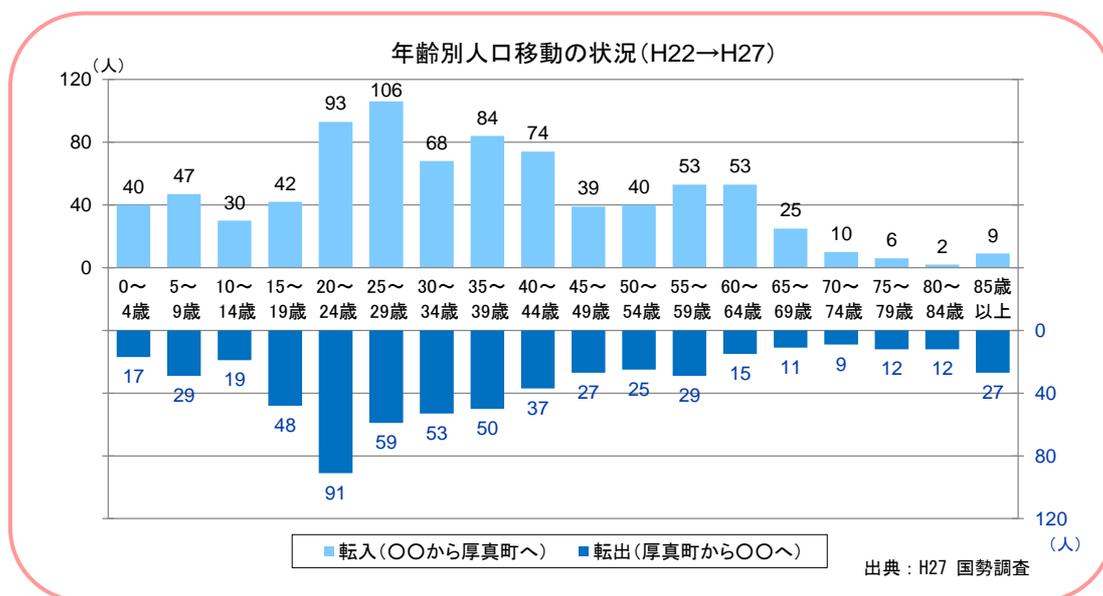
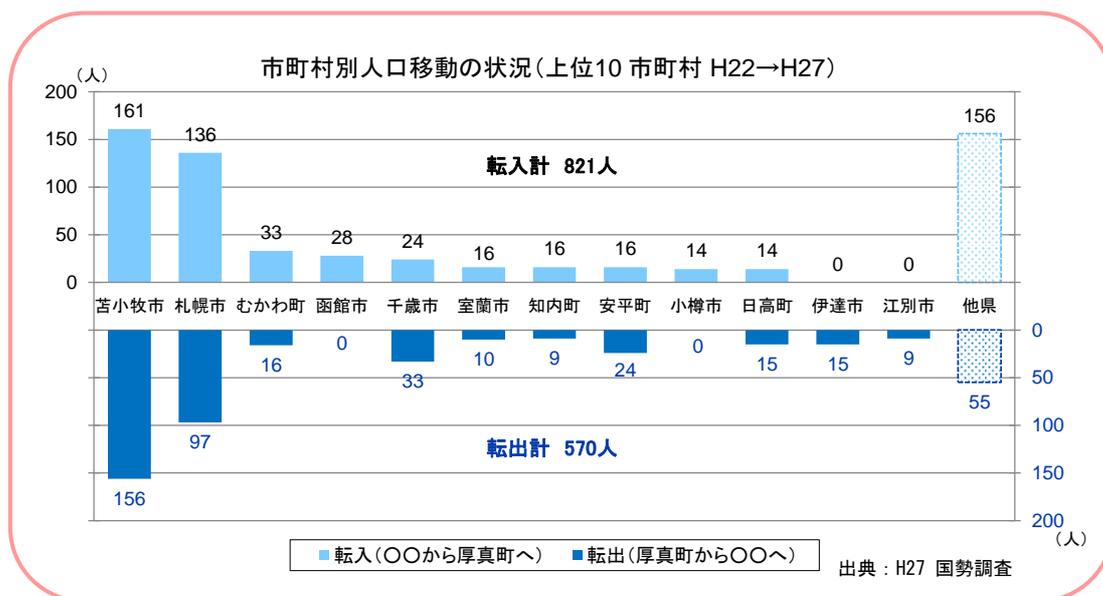
※従業者：厚真町内で働いている方 (町外に住んでいる方を含む)

(5) 人口移動の状況 ※震災前

平成22年から27年における市町村別の人口移動は、札幌市、苫小牧市との転入・転出が最も多く、両市ともに転入が転出を上回っています。

また、道外からの転入が顕著で、移住・定住促進のための移住向けの施策や住宅助成、子育て支援などの実施による効果が表れています。

年齢別の人口移動では、20代～40代前半の進学や就職、働き盛りの世代の移動が多い傾向となっています。



1-3 土地利用

(1) 土地利用現況

1976年と2014年を比較すると、用途地域内及び周辺部を中心に建物用地が拡大しています。

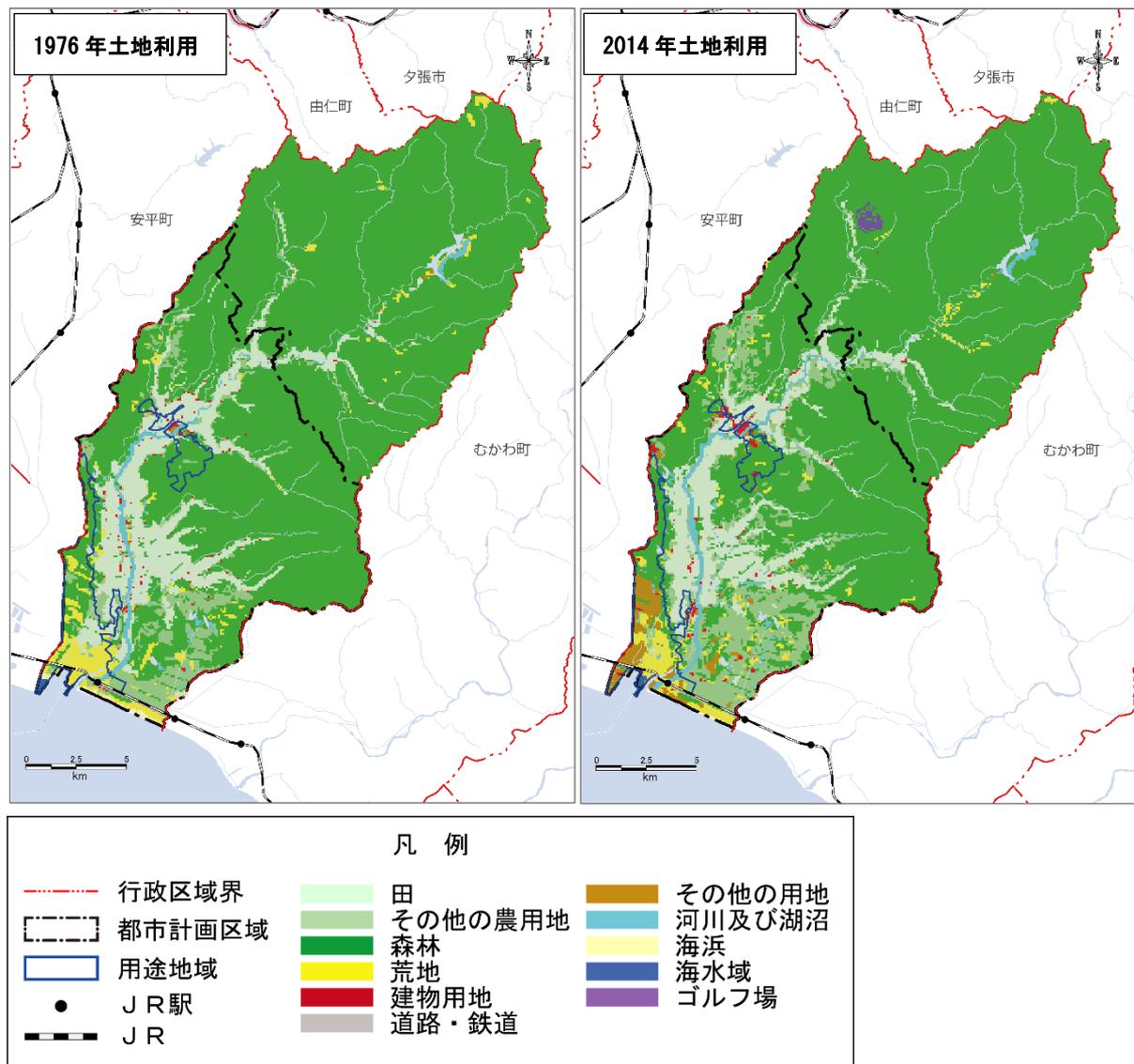


図 1-3-1 土地利用現況 (1976年、2014年) (資料：国土地理院数値地図)

(2) 非都市的土地利用現況

2014年の用途地域及び周辺部における非都市的土地利用の状況は、用途地域内においても森林、荒地が多数分布しています。

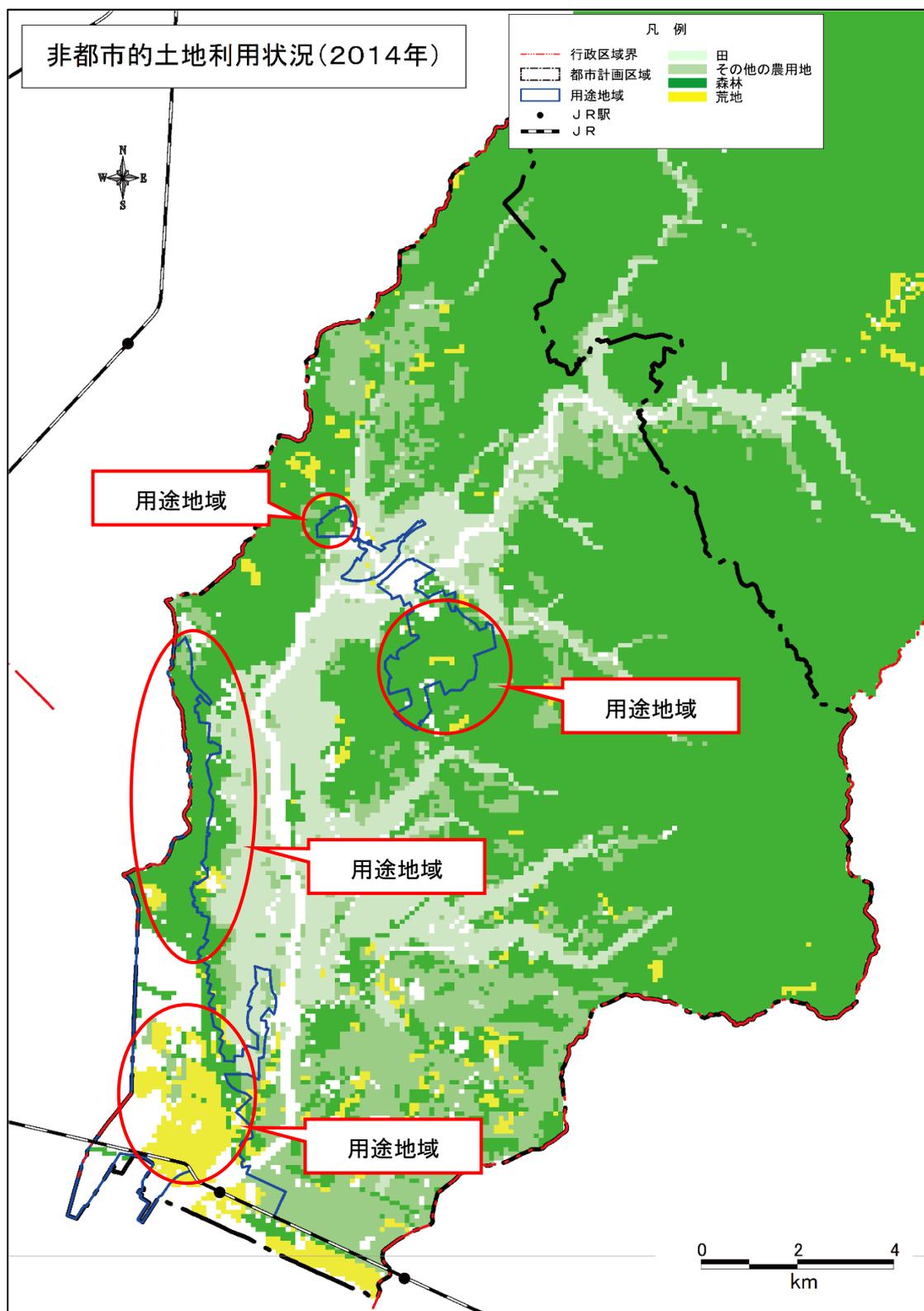


図 1-3-2 非都市的土地利用の状況 (2014年) (資料: 国土地理院数値地図)

### (3) 空き家の分布状況

空き家状況は、市街地を中心に各地域に広く分散しています。

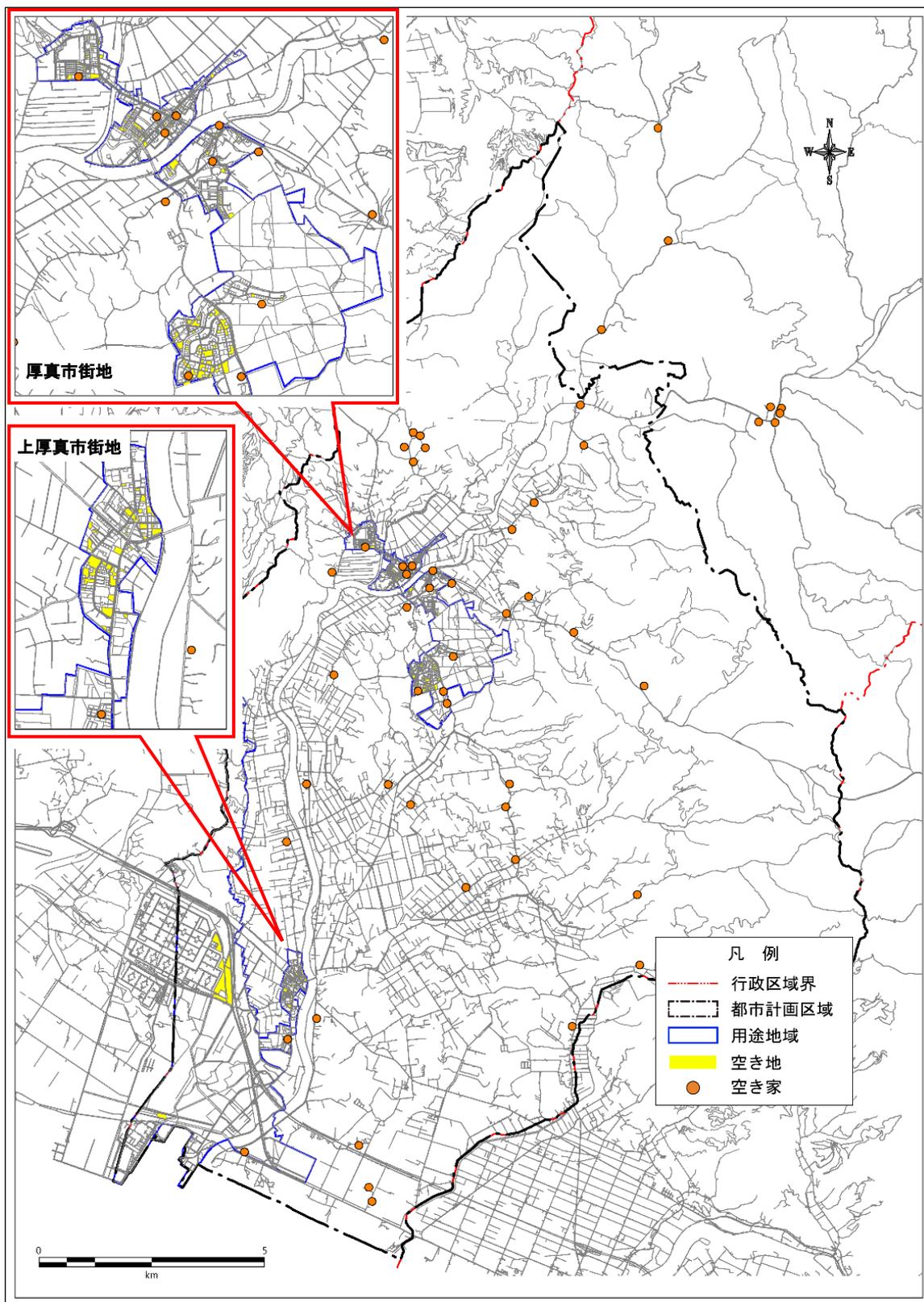


図 1-3-3 空き家の分布状況 (資料：厚真町)

(4) 面的整備の実施状況

土地区画整理事業は厚真市街地および上厚真市街地に1地区ずつ、開発行為は主に用途地域周辺のほか、郊外部においても実施されています。

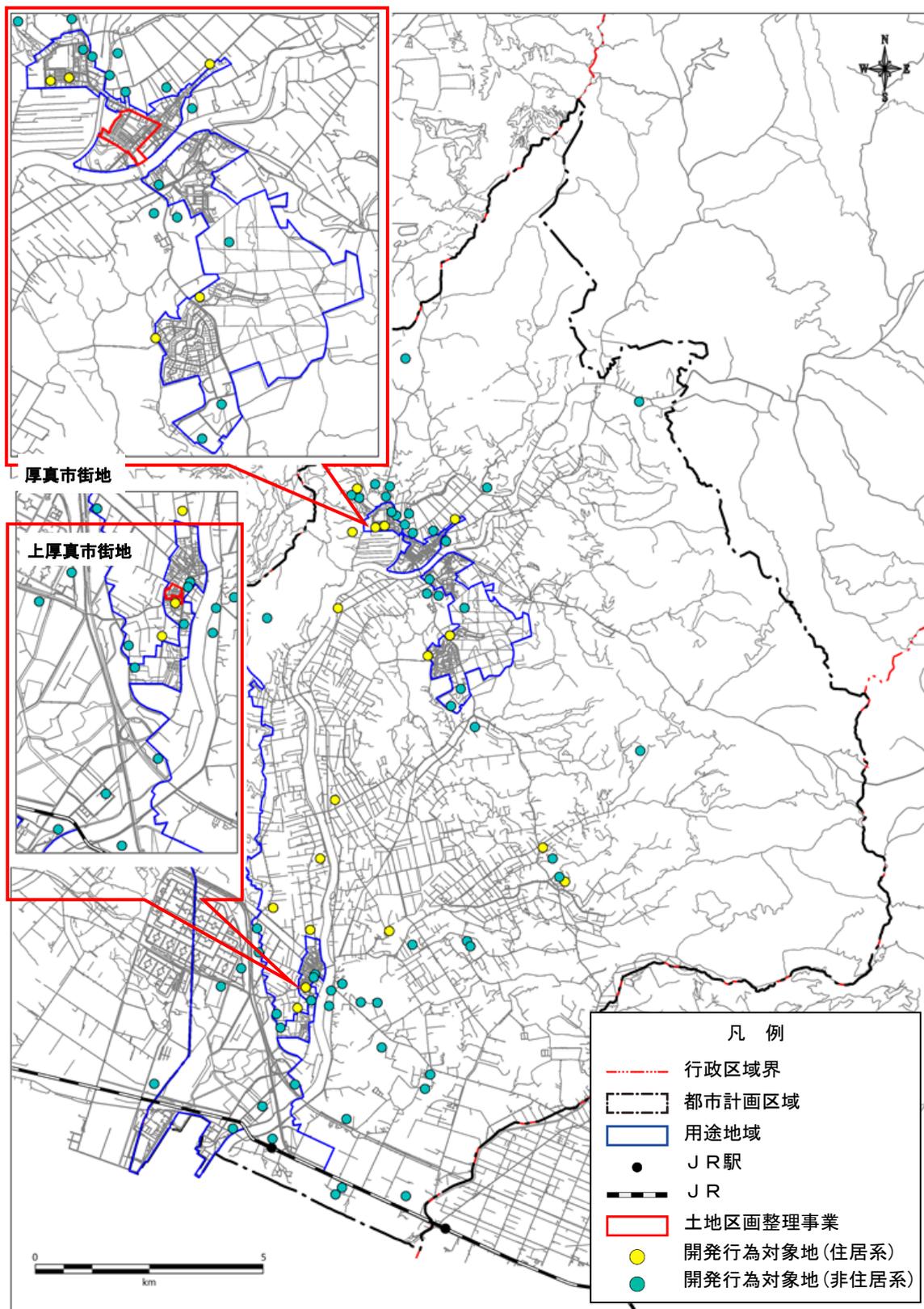


図 1-3-4 開発行為の位置 (資料: 厚真町)

(5) 災害

都市計画区域内においては、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、急傾斜地崩壊危険箇所、地すべり危険箇所、土石流危険渓流、砂防指定区域及び浸水想定区域が指定されており、浸水想定区域は厚真川流域に広く指定されています。

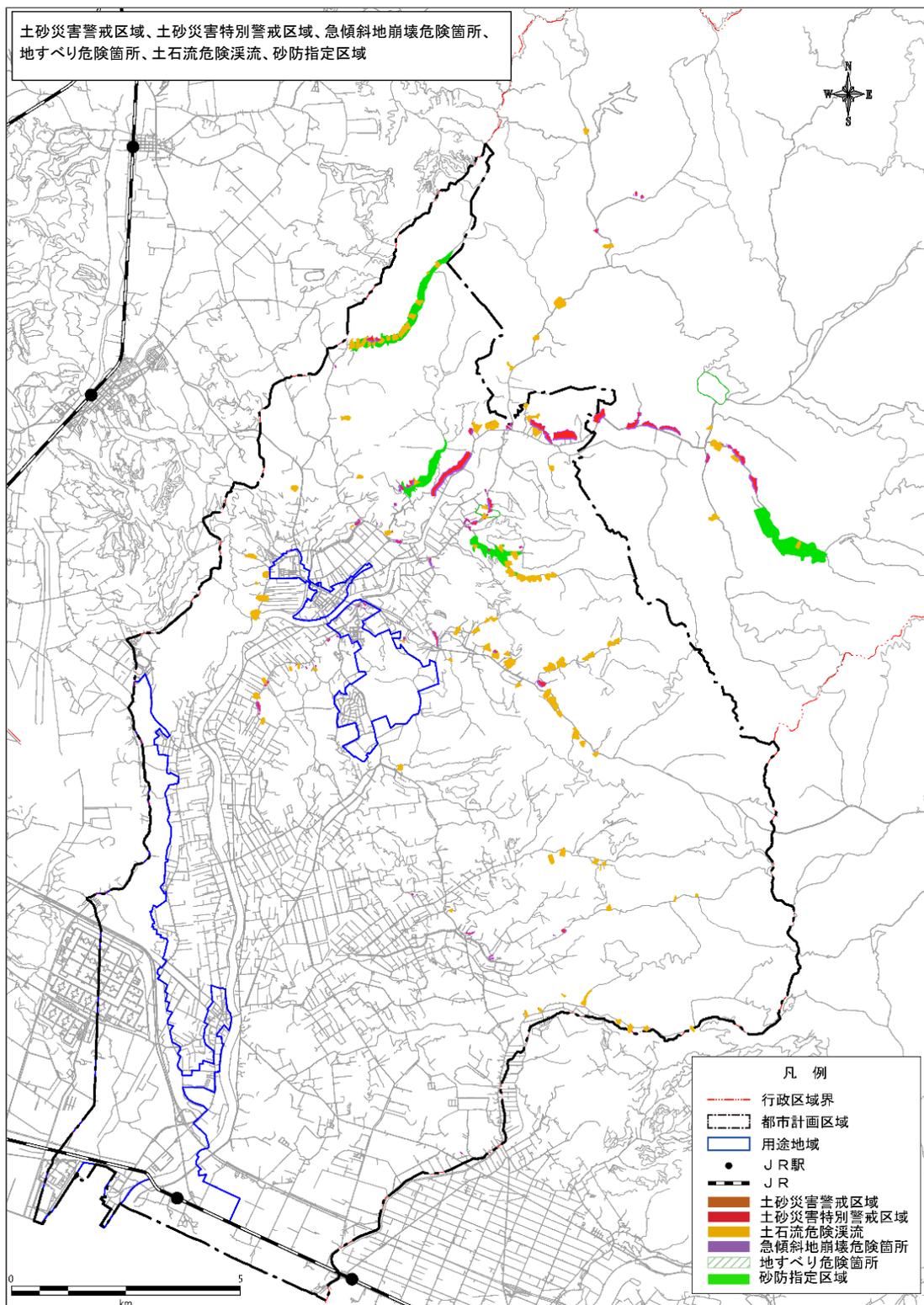


図 1-3-5 土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、急傾斜地崩壊危険箇所、地すべり危険箇所、土石流危険渓流、砂防指定区域（資料：北海道土砂災害警戒区域情報システム）

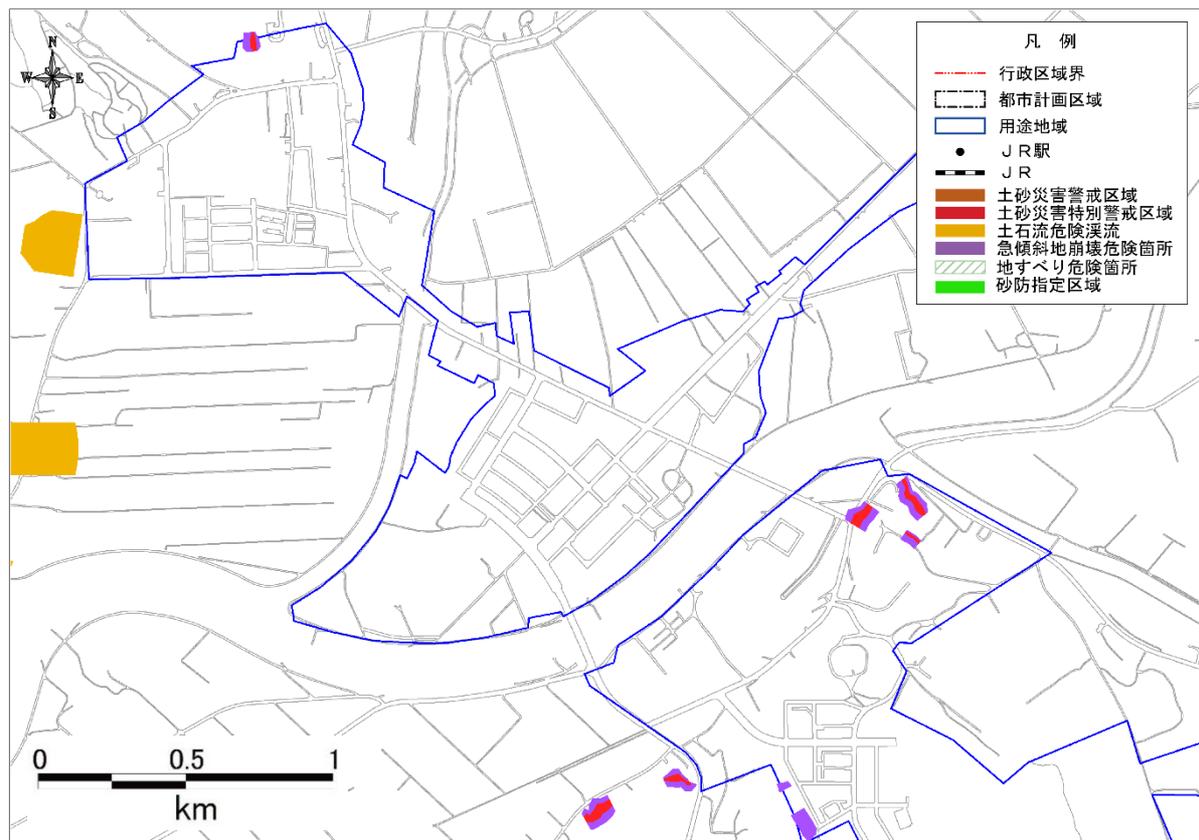


図 1-3-6 土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、急傾斜地崩壊危険箇所、地すべり危険箇所、土石流危険渓流（市街地）

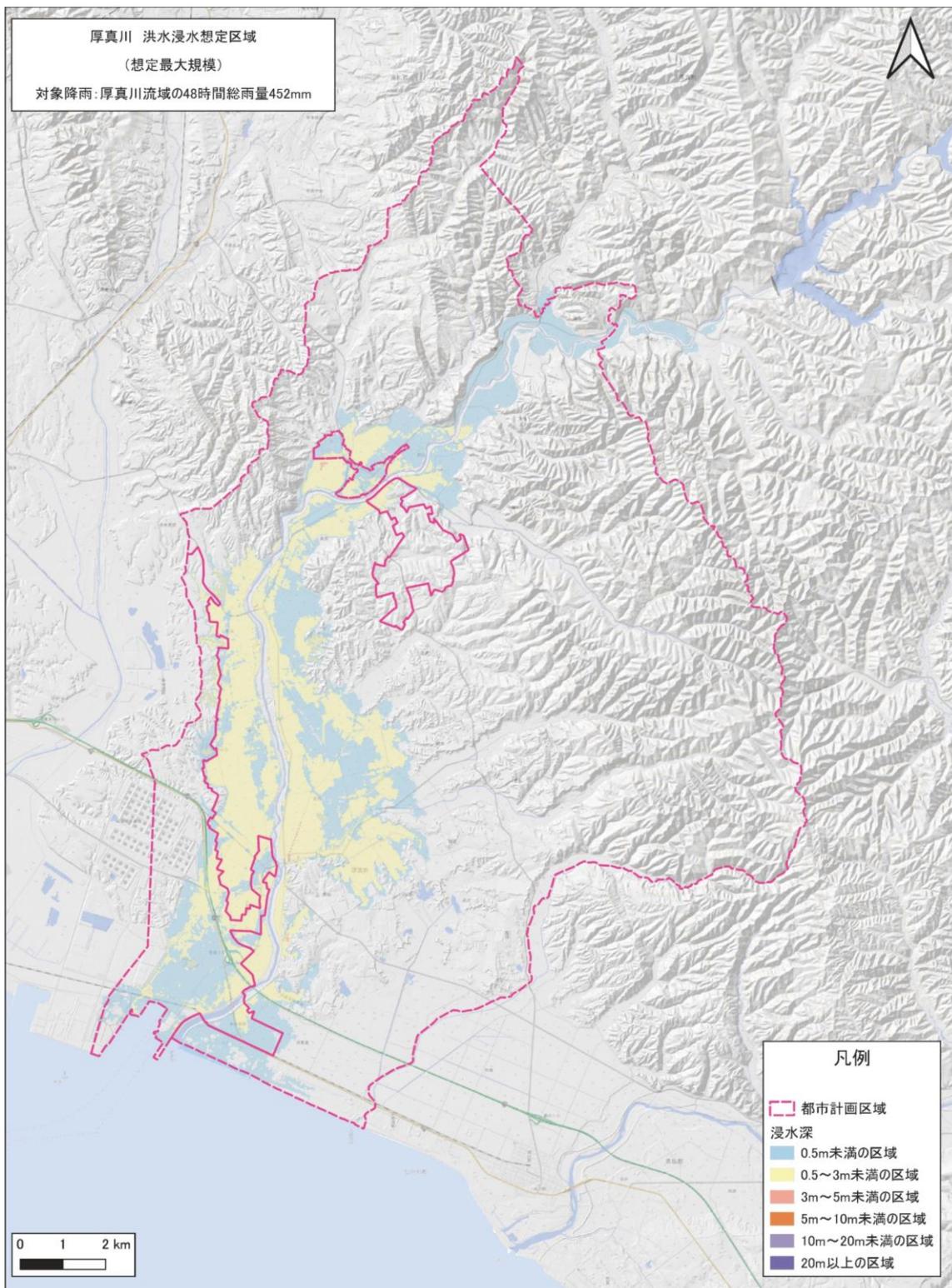


図 1-3-7 洪水浸水想定 (最大規模) 区域 (資料: 北海道開発局、北海道防災情報)

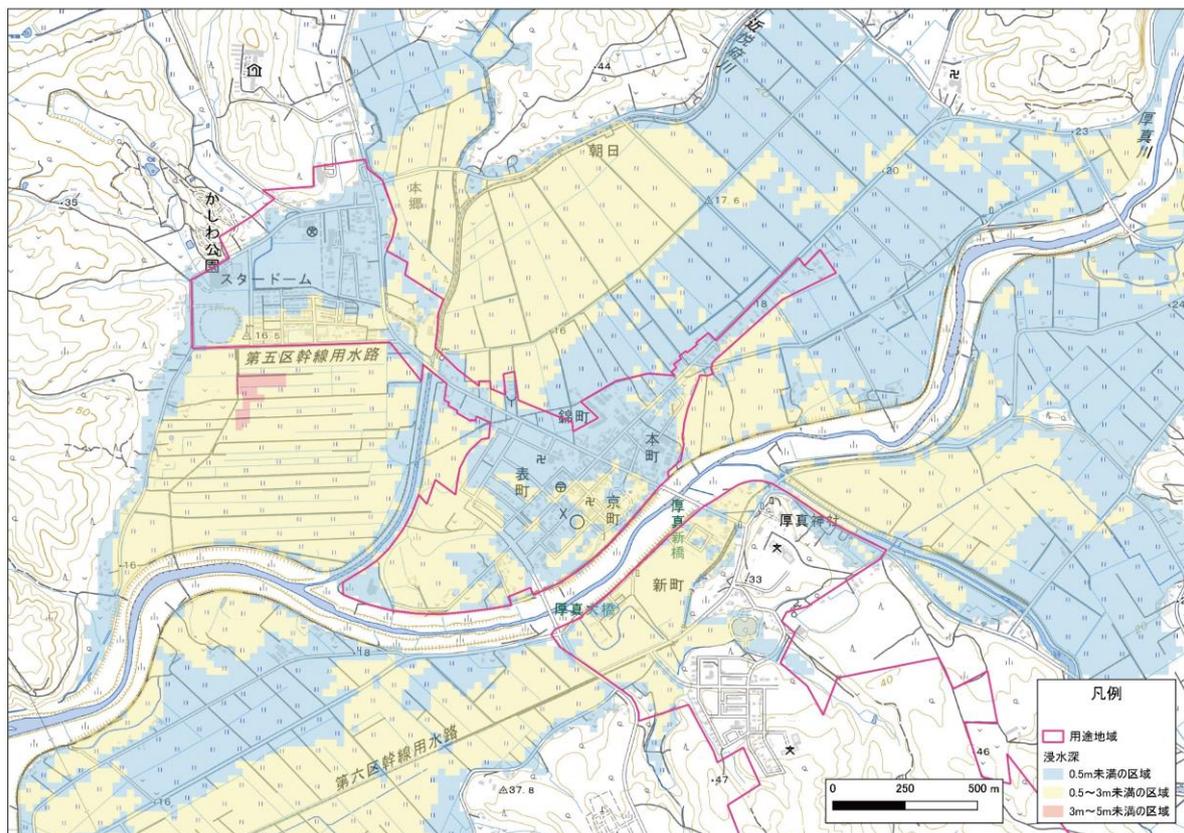


図 1-3-8 洪水浸水想定（最大規模）区域（厚真市街地）

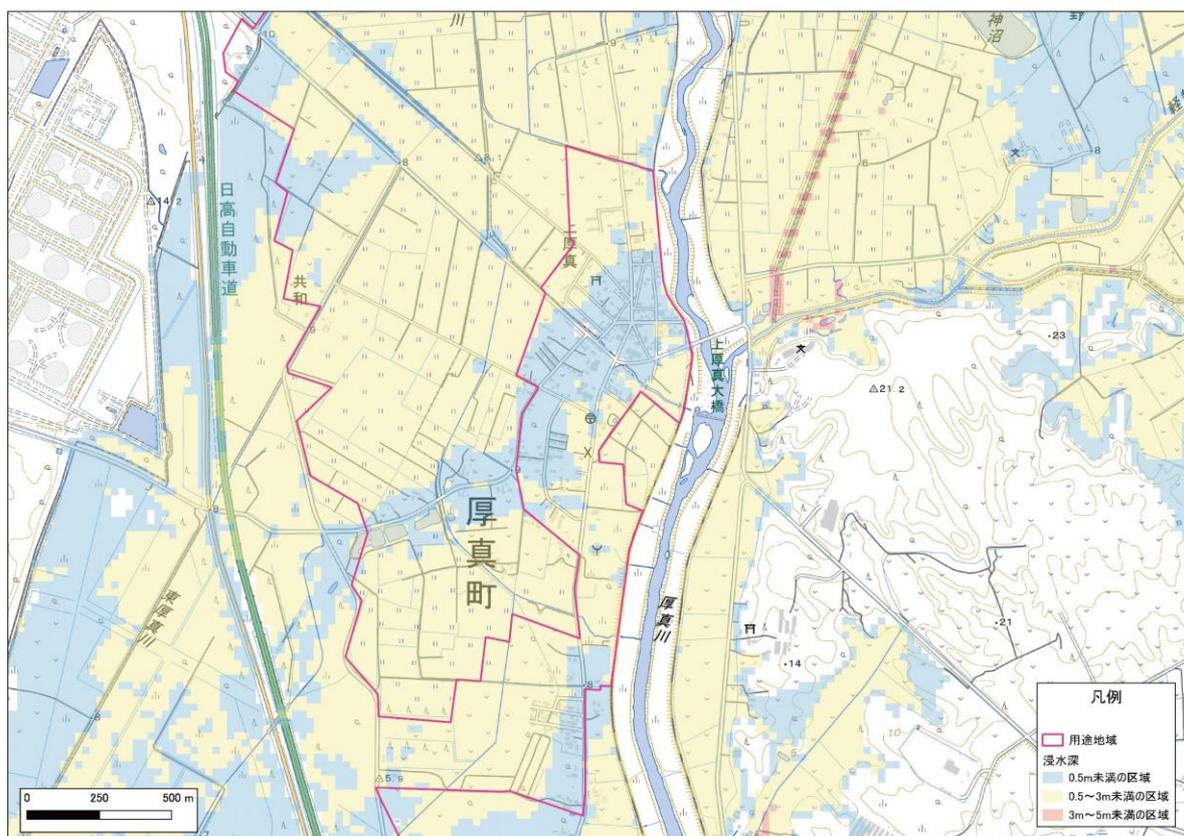


図 1-3-9 洪水浸水想定（最大規模）区域（上厚真市街地）

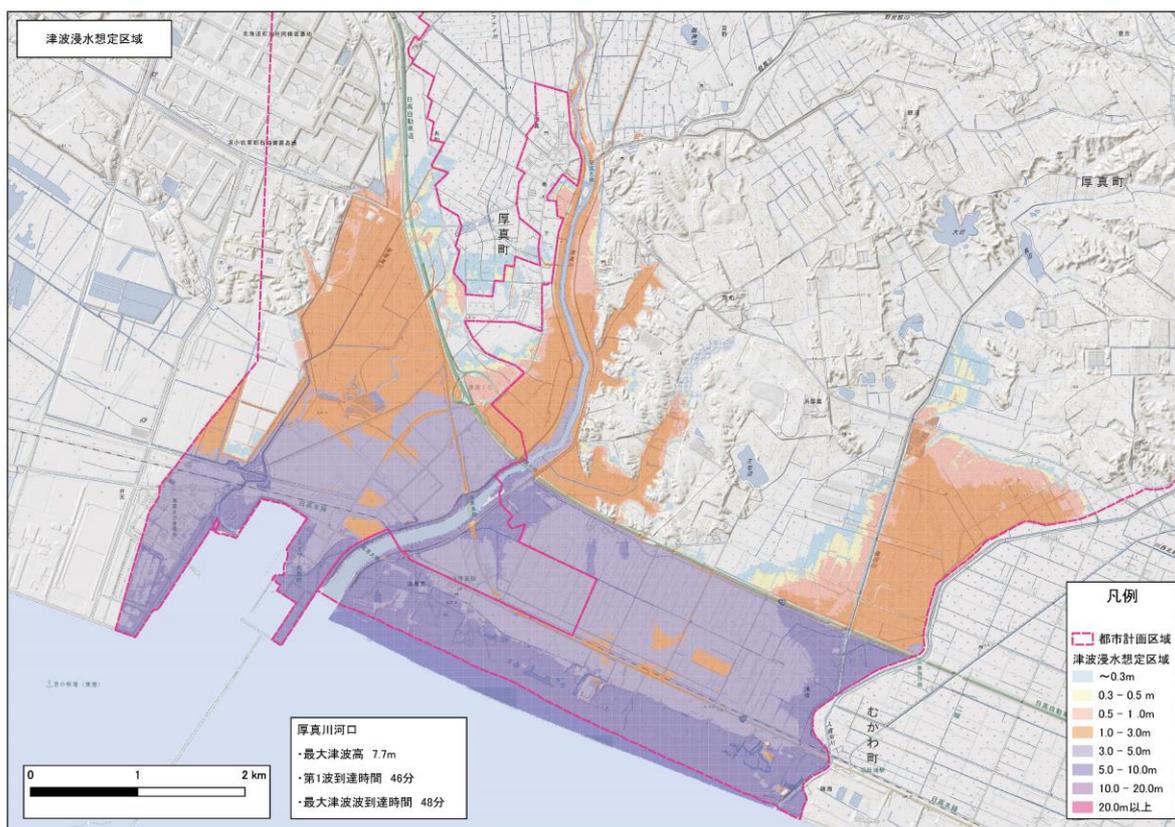


図 1-3-10 津波災害警戒区域 (資料：北海道開発局、北海道防災情報 令和3年7月公表)



1-4 公共交通

(1) 運行状況

町内は JR 線・バス路線が通行しており、バス路線は都市間バスを中心に運行しています。公共交通の利用圏内に居住する人口のカバー率は用途地域内で 65.7%、都市計画区域全体で 47.1% となっています。

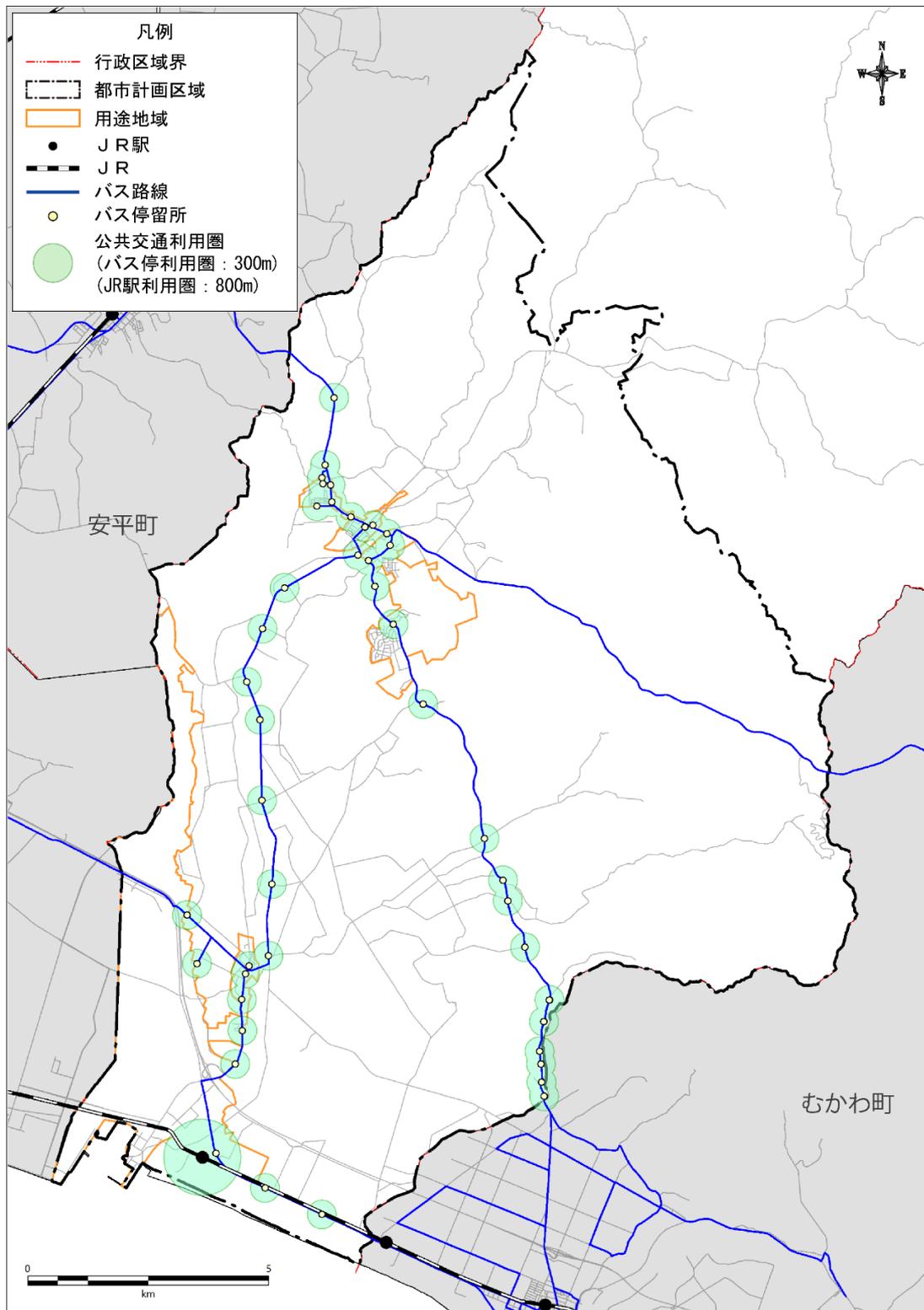


図 1-4-1 JR 駅・バス停留所利用圏 (資料：厚真町)

表 1-4-1 JR 駅・バス停留所利用圏人口 (資料: 国勢調査)

圏域	人口(2015年)					
	都市計画区域人口			用途地域人口		
		圏域人口	率		圏域人口	率
バス停利用圏	4,495 人	1,989 人	44.2%	2,178 人	1,329 人	61.0%
JR 駅利用圏		38 人	0.8%		2 人	0.1%
公共交通利用圏		2,115 人	47.1%		1,432 人	65.7%

(2) 公共交通空白地域

町内全域で乗合タクシー（循環福祉バス）が運行しているため、路線バス利用圏外の公共交通空白地域は解消されています。乗合タクシー（循環福祉バス）では運行する地区を図のように分けており、北部地区から南部地区へ移動する場合やその逆の場合には市街地での乗り換えが必要となりますが、町内全域を公共交通がカバーしている状況となっています。

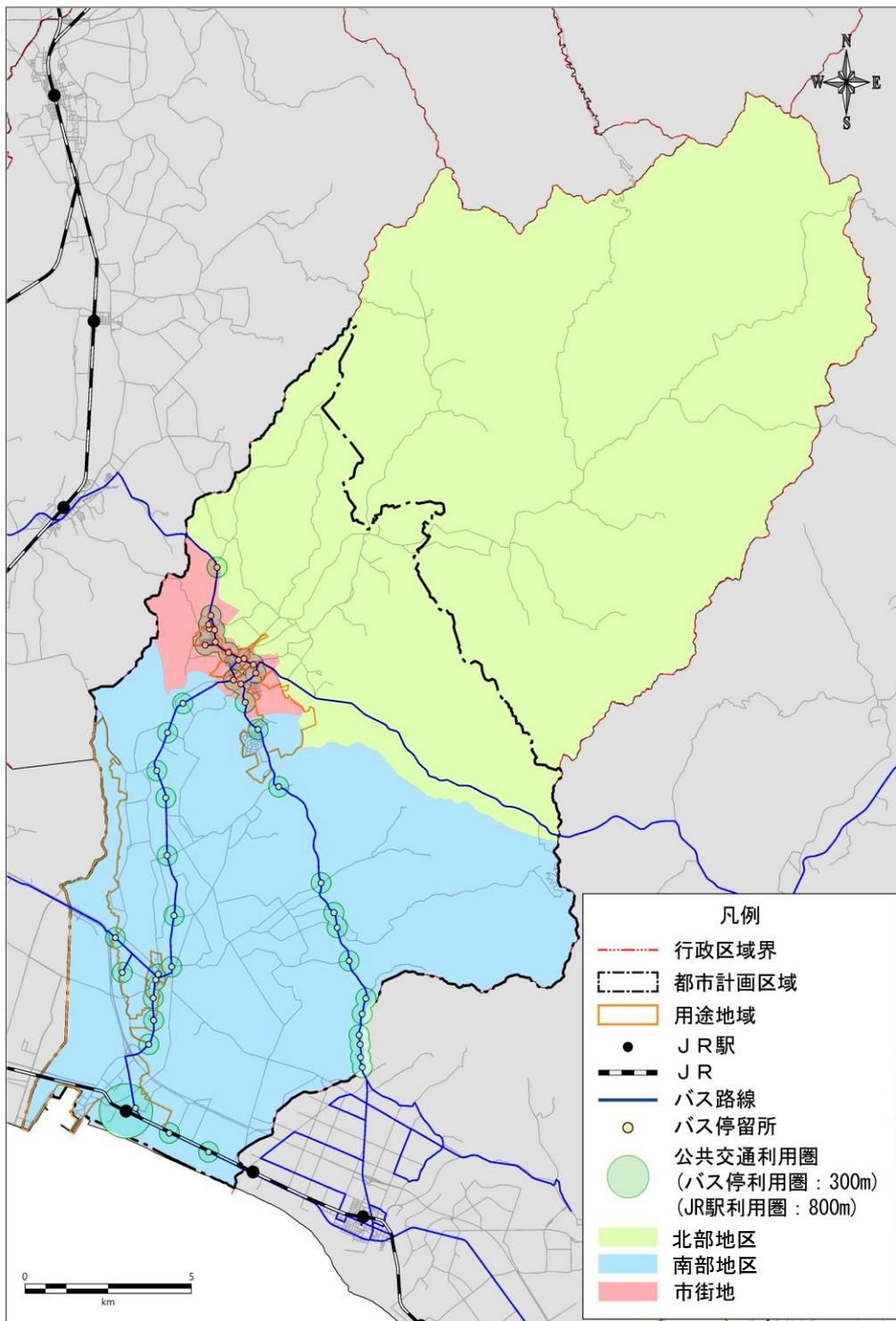


図 1-4-2 公共交通空白地域（資料：厚真町）

### (3) JR 乗降客数の推移

JR 浜厚真駅の乗降客数は、2014 年から 2017 年にかけて減少傾向にありましたが、2018 年以降は増加傾向にあります。

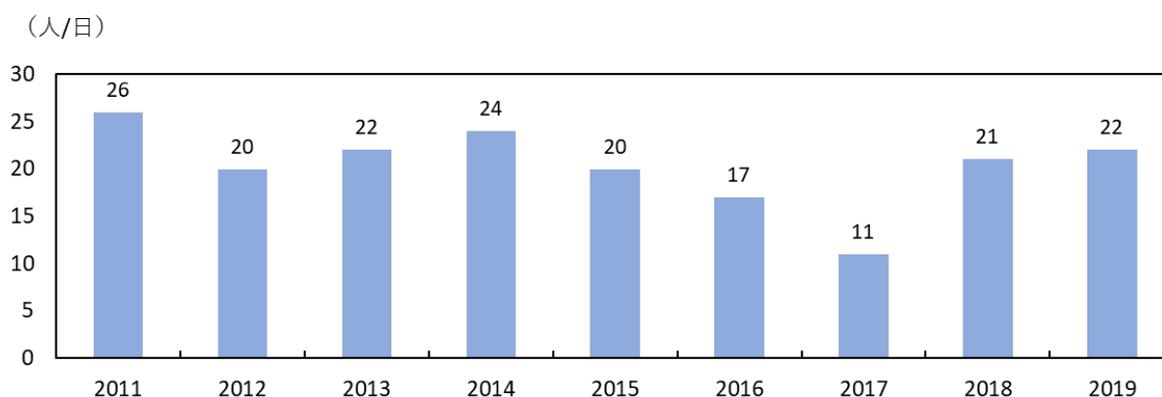


図 1-4-3 JR 浜厚真駅の 1 日当たり乗降客数の推移 (資料: JR 北海道)

### (4) 都市間バス輸送人員の推移

都市間バスはあつまバス(株)が運営し、早来線、苫小牧線 (快速・日軽金・緑小・上厚真)、南千歳線、沼ノ端線、鷗川線、千歳線があります。年間輸送人員は 2016 年をピークに減少しており、2019 年は約 14 万人と 2015 年から約 1 割程度減少しています。

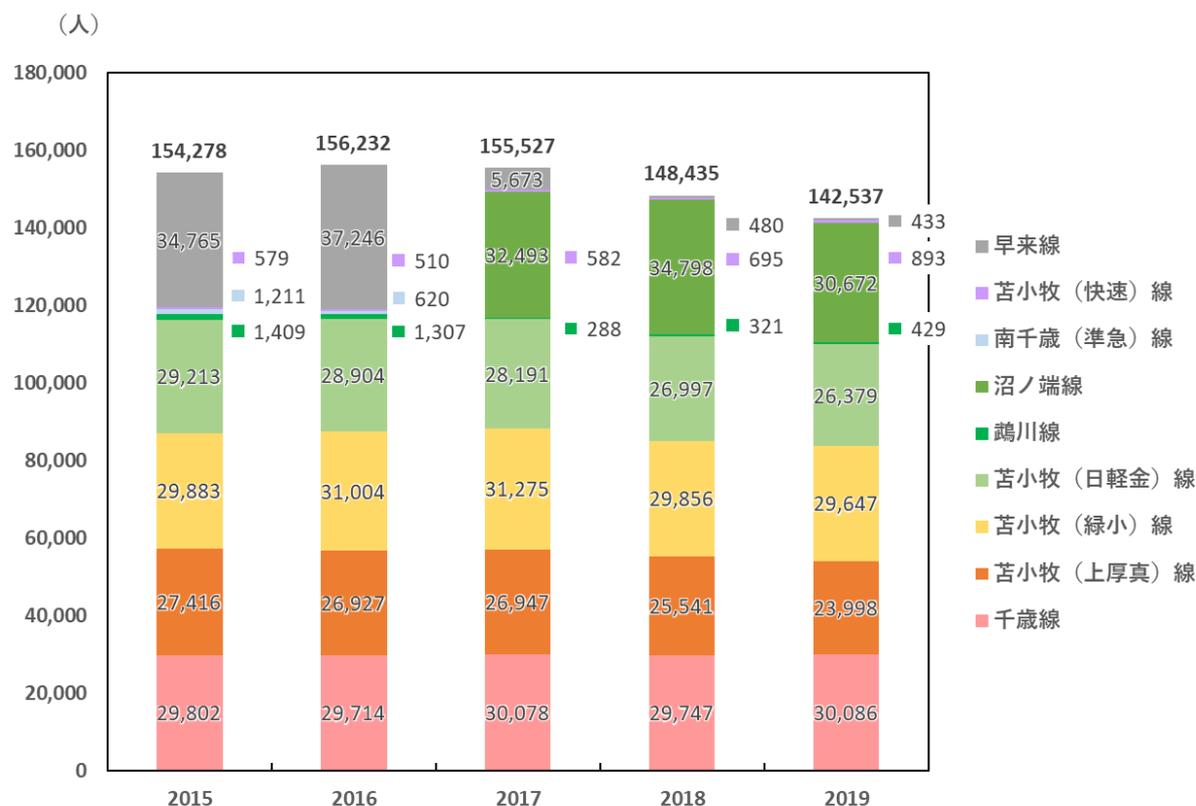


図 1-4-4 幹線路線バス年間輸送人員の推移 (資料: あつまバス (株))

(5) 町内で運行する公共交通

・市街地及び周辺（こぶしの湯線、浜厚真線）

町内公共交通はあつまバス（株）が運営し、主に市街地を運行しています。年間輸送人員は2017年に大きく減少し、近年は1,500人前後で推移しています。

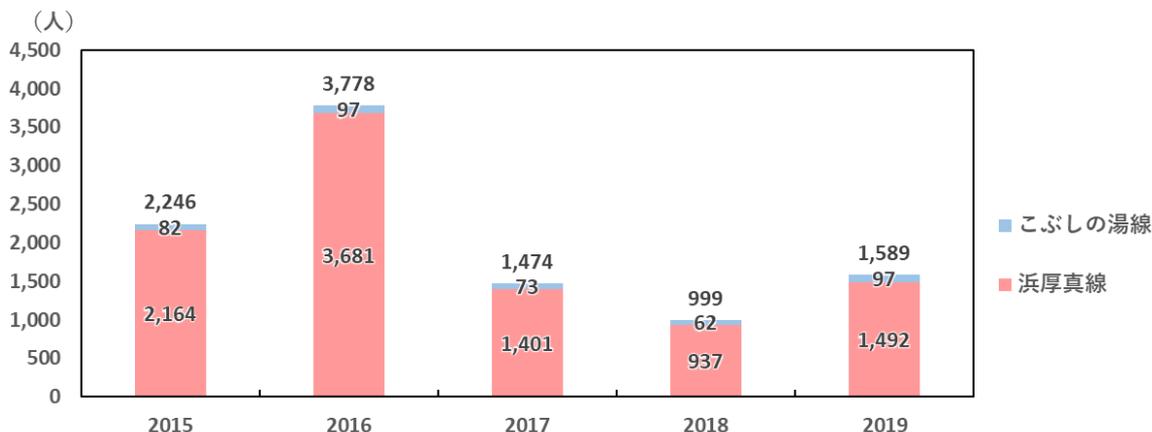


図1-4-5 町内公共交通の年間輸送人員の推移（資料：あつまバス（株））

・郊外部（循環福祉バス）

循環福祉バスは前述の公共交通空白地域で示した地域において、あつまバス（株）により運行されており、「めぐるくん」という愛称で親しまれており、デマンド方式で毎日3便（朝・昼・夕）運行しています。利用者数は経年的に減少し、2017年には5,639人まで増加しましたが、2018年以降は4,000人程度で推移しています。

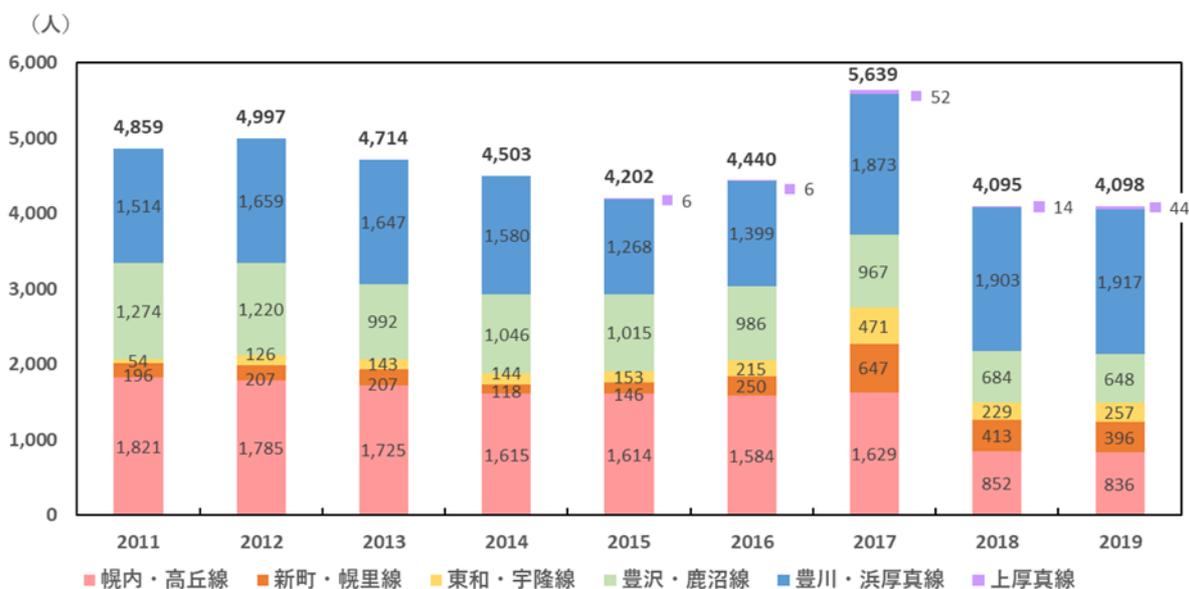


図1-4-6 循環福祉バスの年間輸送人員の推移（資料：厚真町）

### (6) 乗用車保有台数・保有率の推移

乗用車<sup>\*</sup>保有台数は2017年まで増加傾向にありましたが、以降は減少傾向にあります。一方で、人口千人当たり保有率は増加傾向にあり、2009年の596台/千人に対し、2019年が667台/千人と12%程度増加しています。

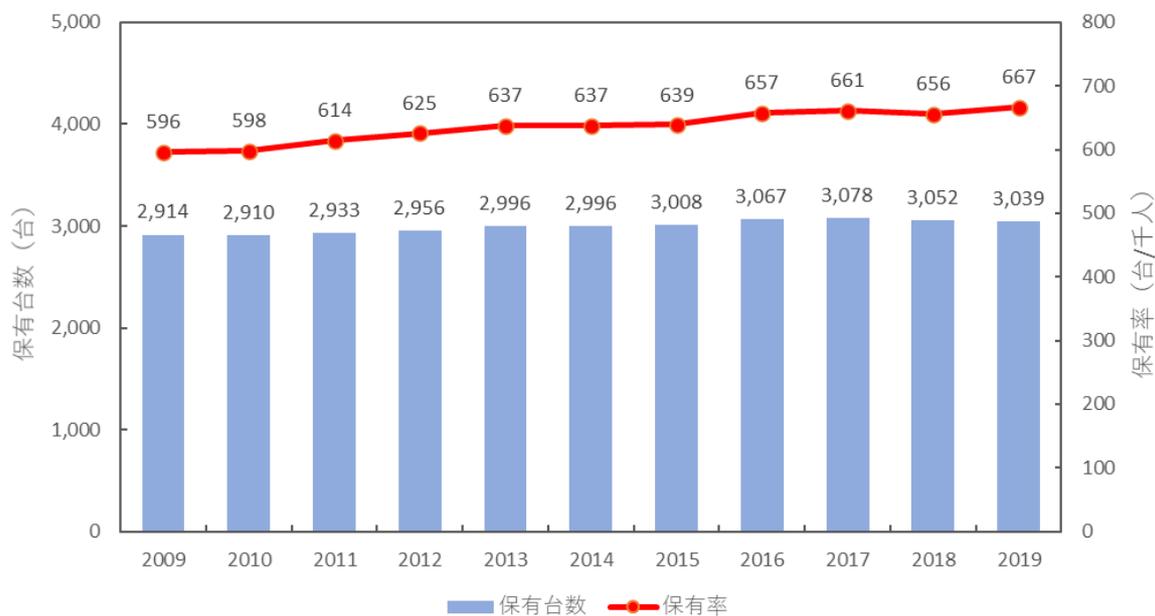


図 1-4-7 乗用車<sup>\*</sup>保有台数・保有率の推移 (資料：北海道運輸局)

<sup>\*</sup>乗用車：乗用の小型車、乗用の普通車、軽自動車の乗用車の合計

### (7) 高齢者の自動車運転免許保有・運転免許返納者数

自動車運転免許証の返納者数は、近年は増加傾向にあります。

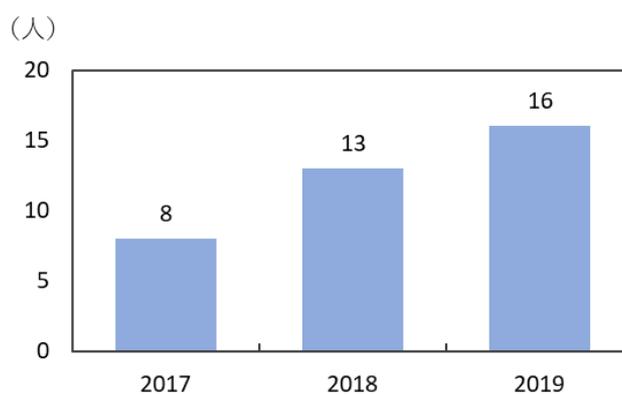


図 1-4-8 運転免許返納者数の推移 (資料：苫小牧警察署)

1-5 都市機能

(1) 行政施設

行政施設は、町役場、警察署及び消防本部が用途地域内に配置されています。

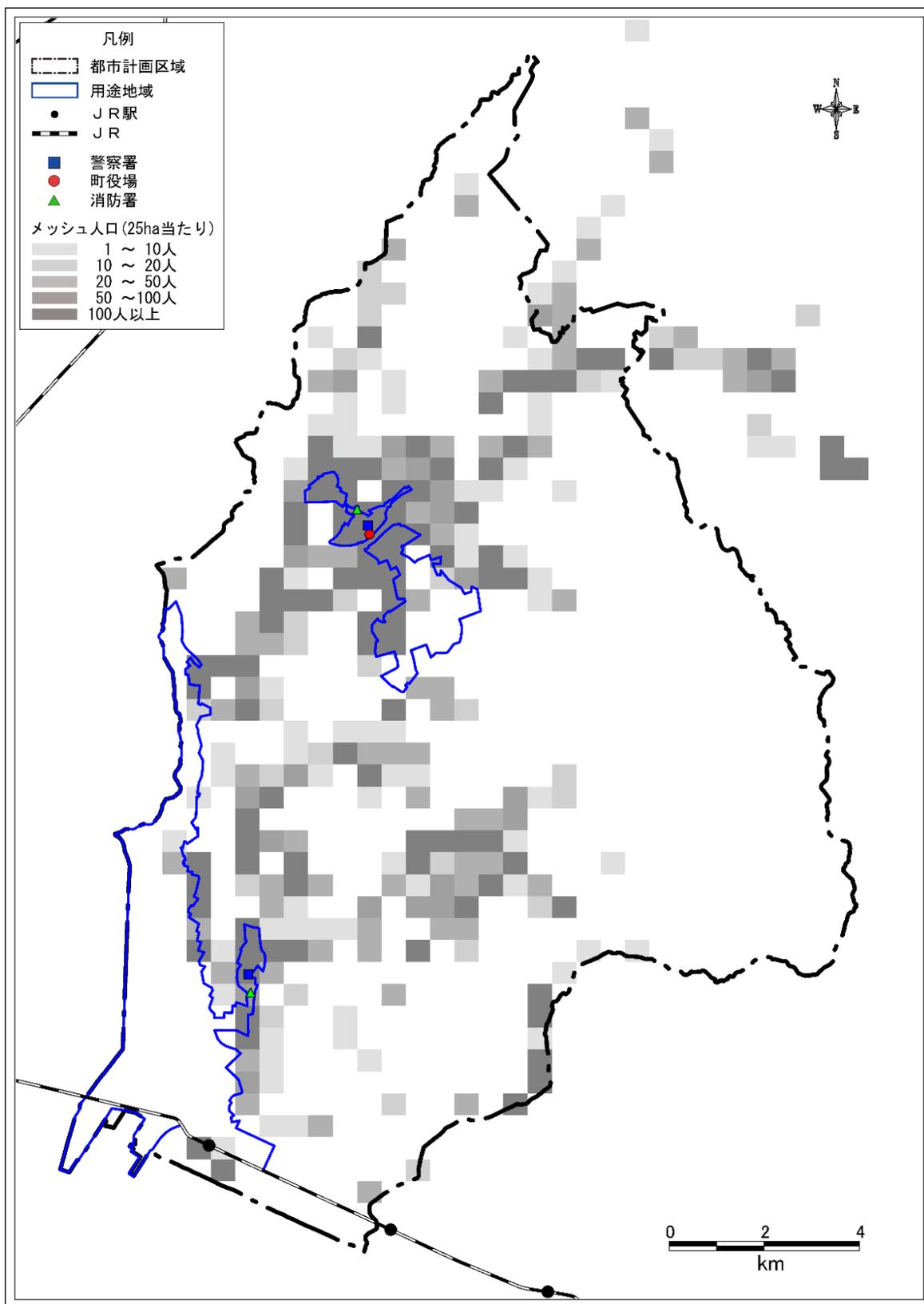


図 1-5-1 行政施設の分布状況 (資料: 厚真町)

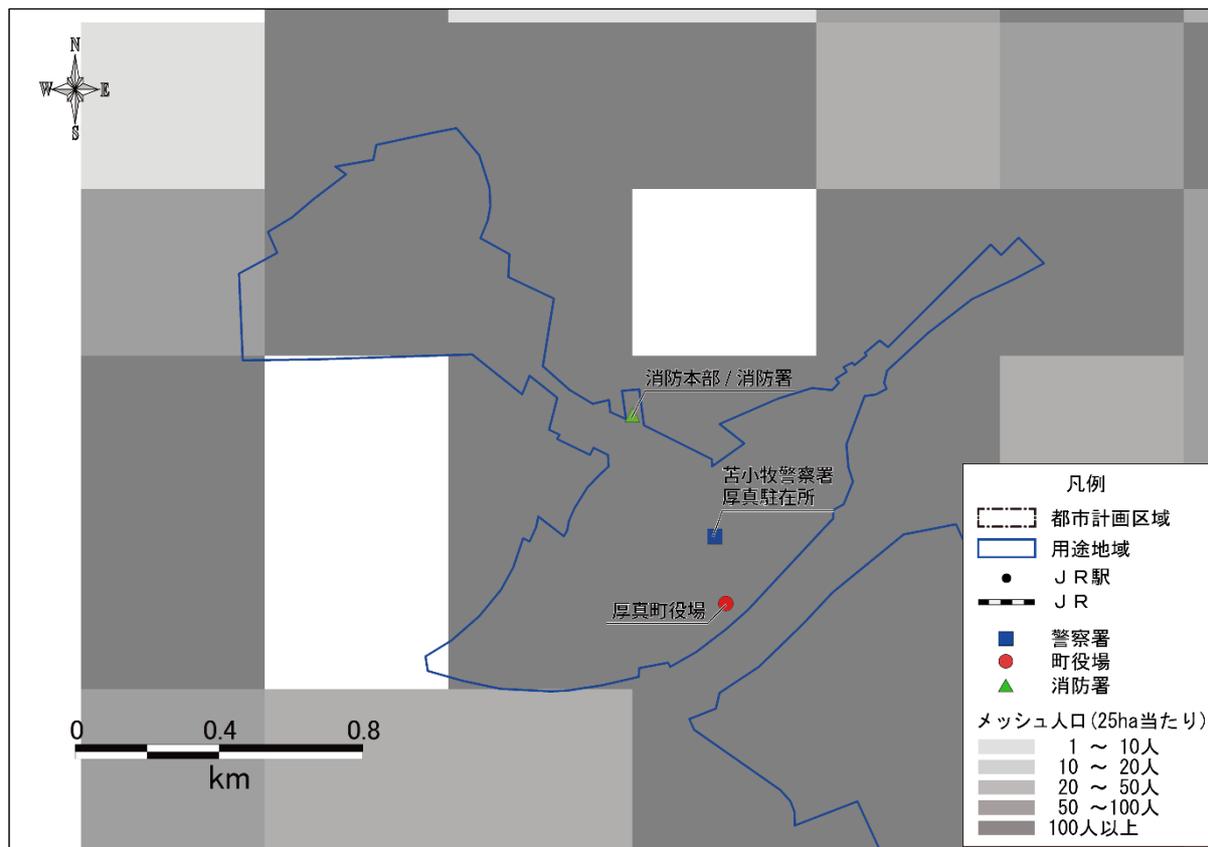


図 1-5-2 行政施設の分布状況 (厚真市街地)

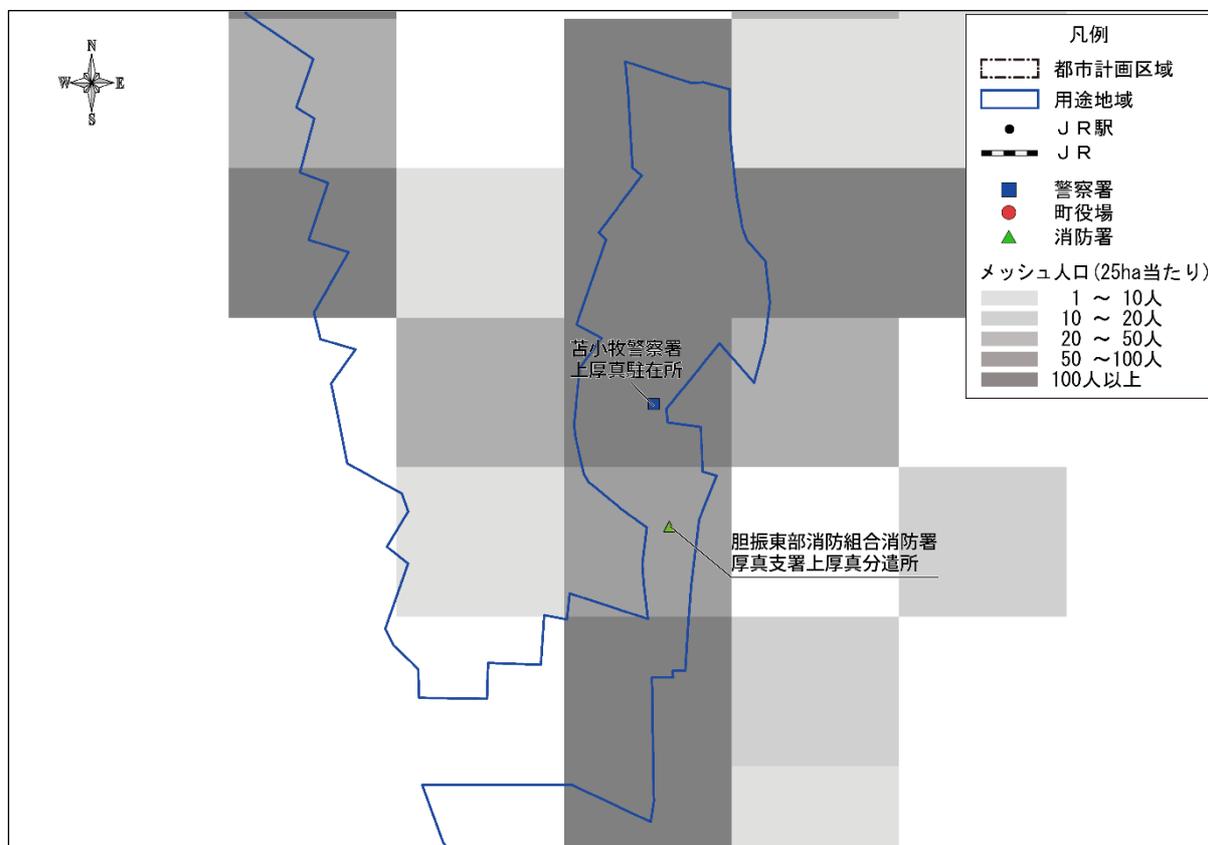


図 1-5-3 行政施設の分布状況 (上厚真市街地)

(2) 集会施設

集会施設は、生活会館等の地域公民館が各地域に広域的に分散配置されています。

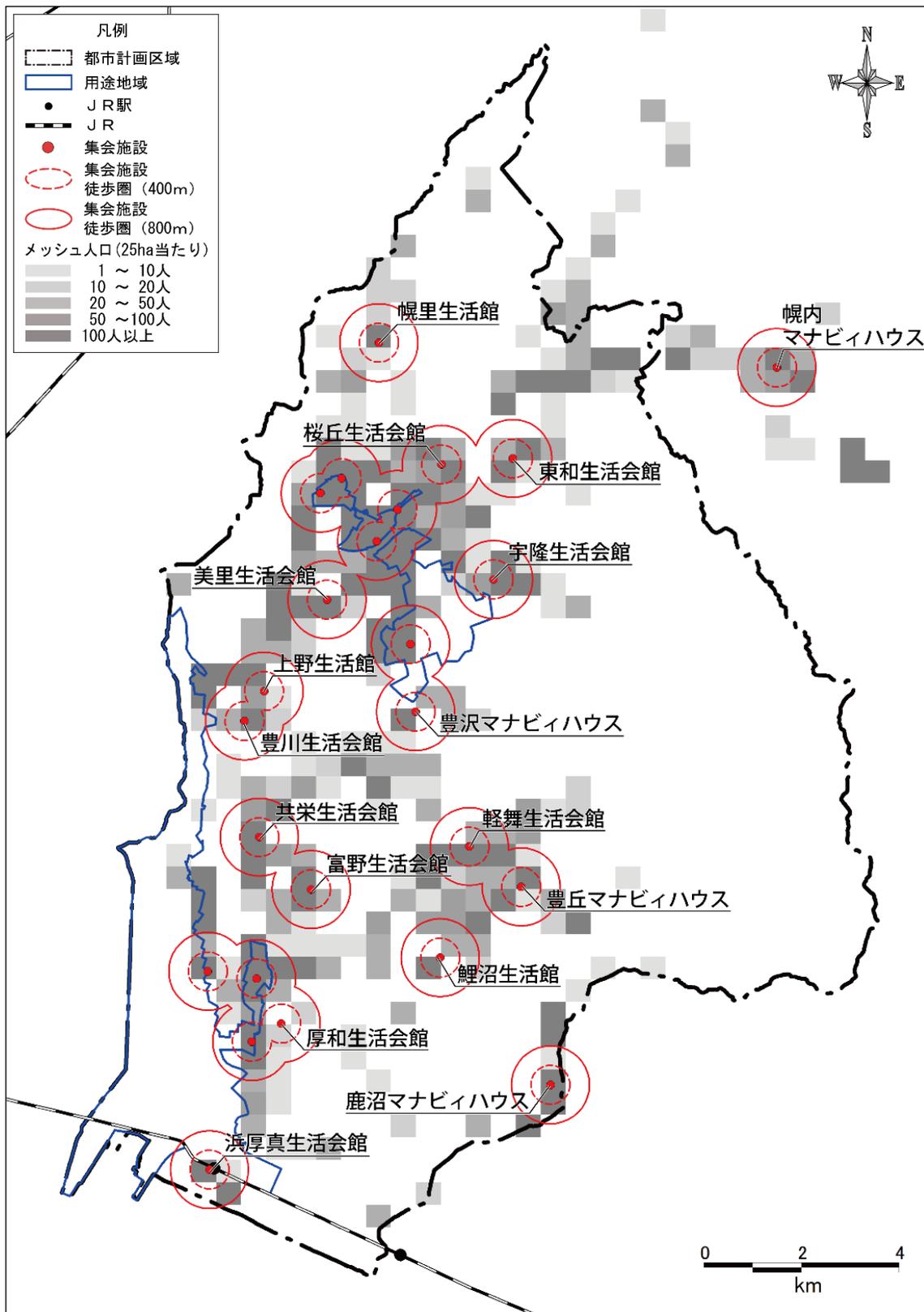


図1-5-4 集会施設の分布状況 (資料：国土数値情報、厚真町)

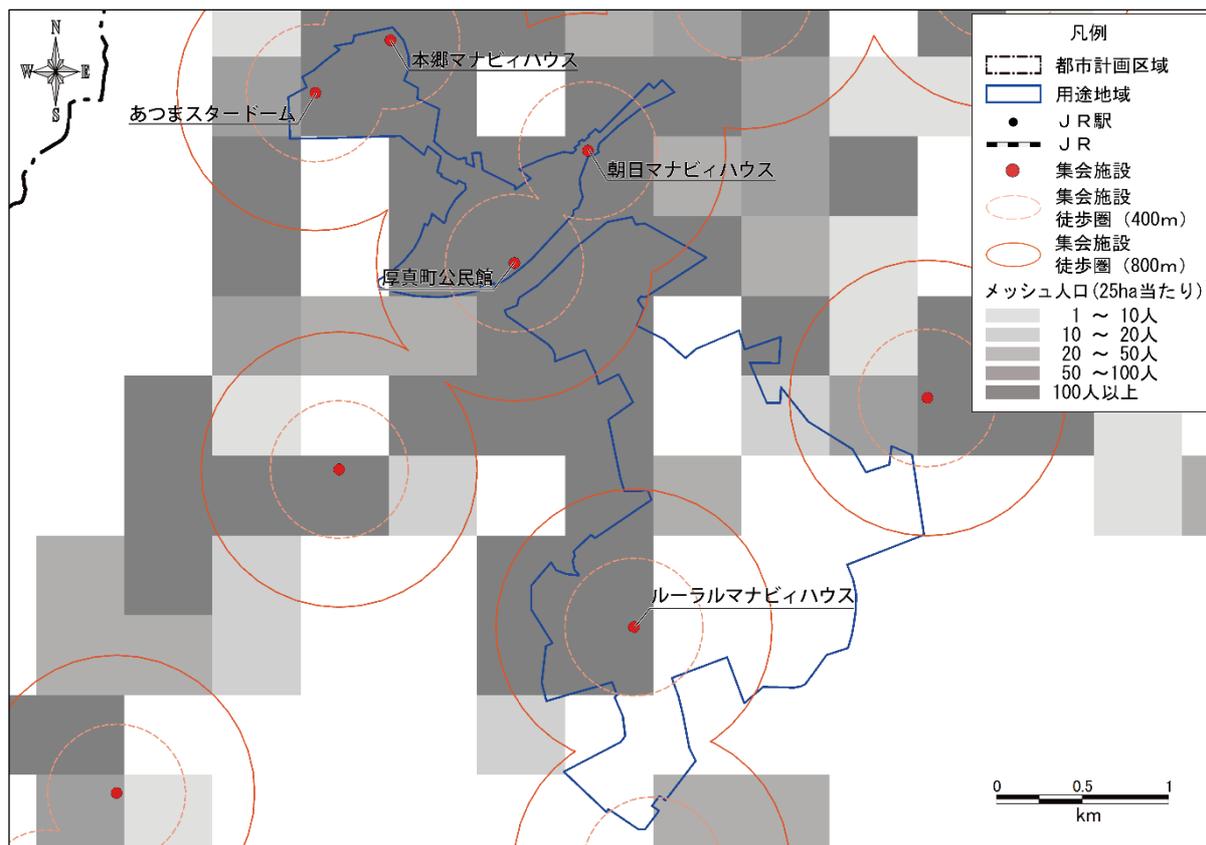


図 1-5-5 集会施設の分布状況（厚真市街地）

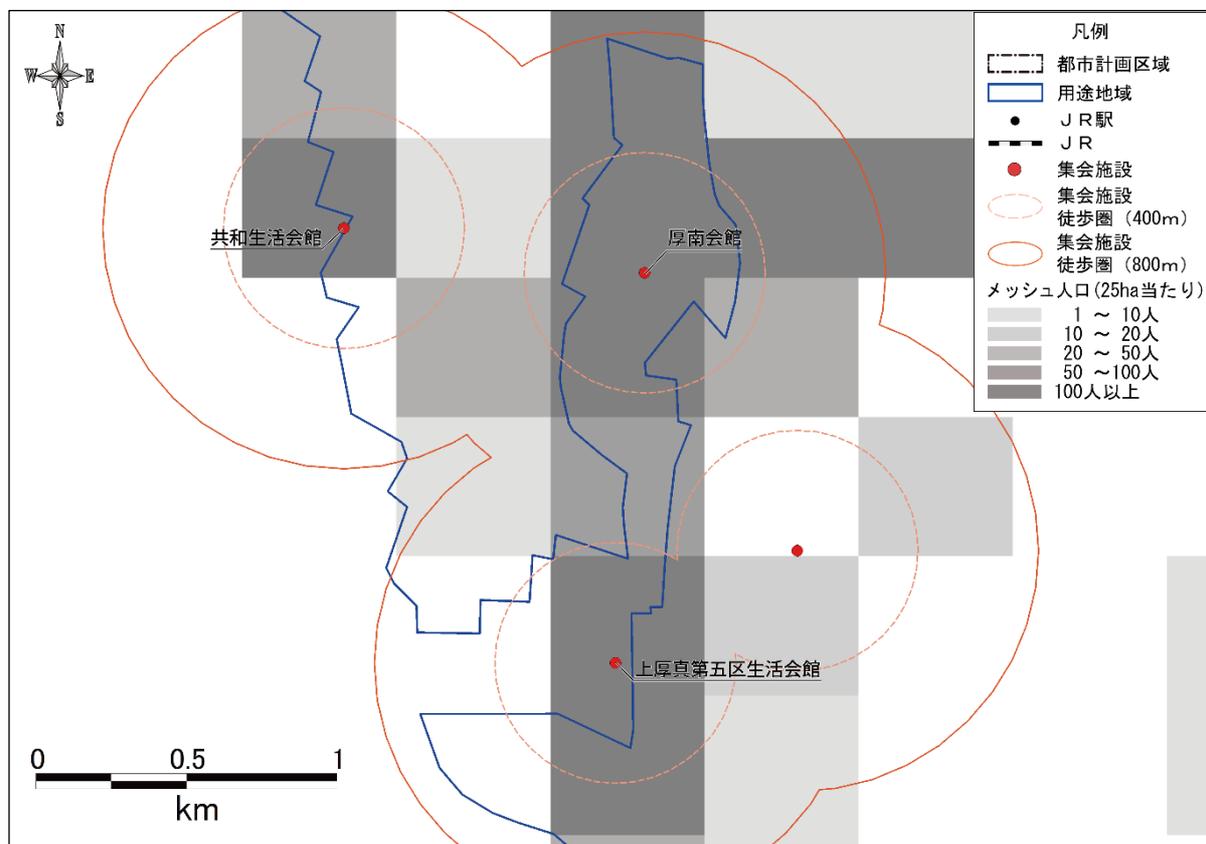


図 1-5-6 集会施設の分布状況（上厚真市街地）

### (3) 金融施設

金融施設は、郵便局、JAバンク、信用金庫等が用途地域内に立地しているほか、郊外においても郵便局が立地しています。

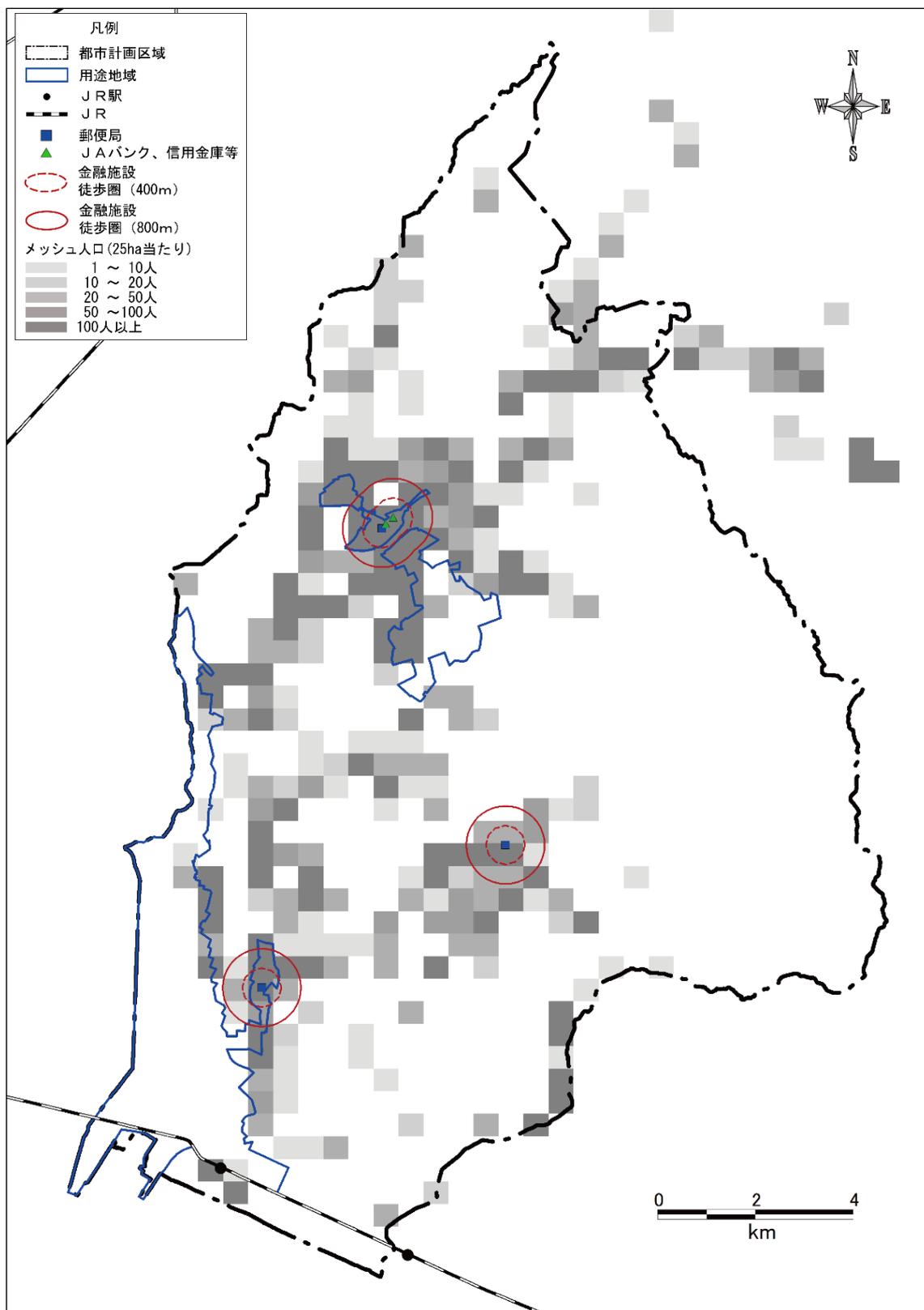


図 1-5-7 金融施設の分布状況 (資料: i タウンページ、各金融施設 HP、日本全国銀行・ATM マップ)

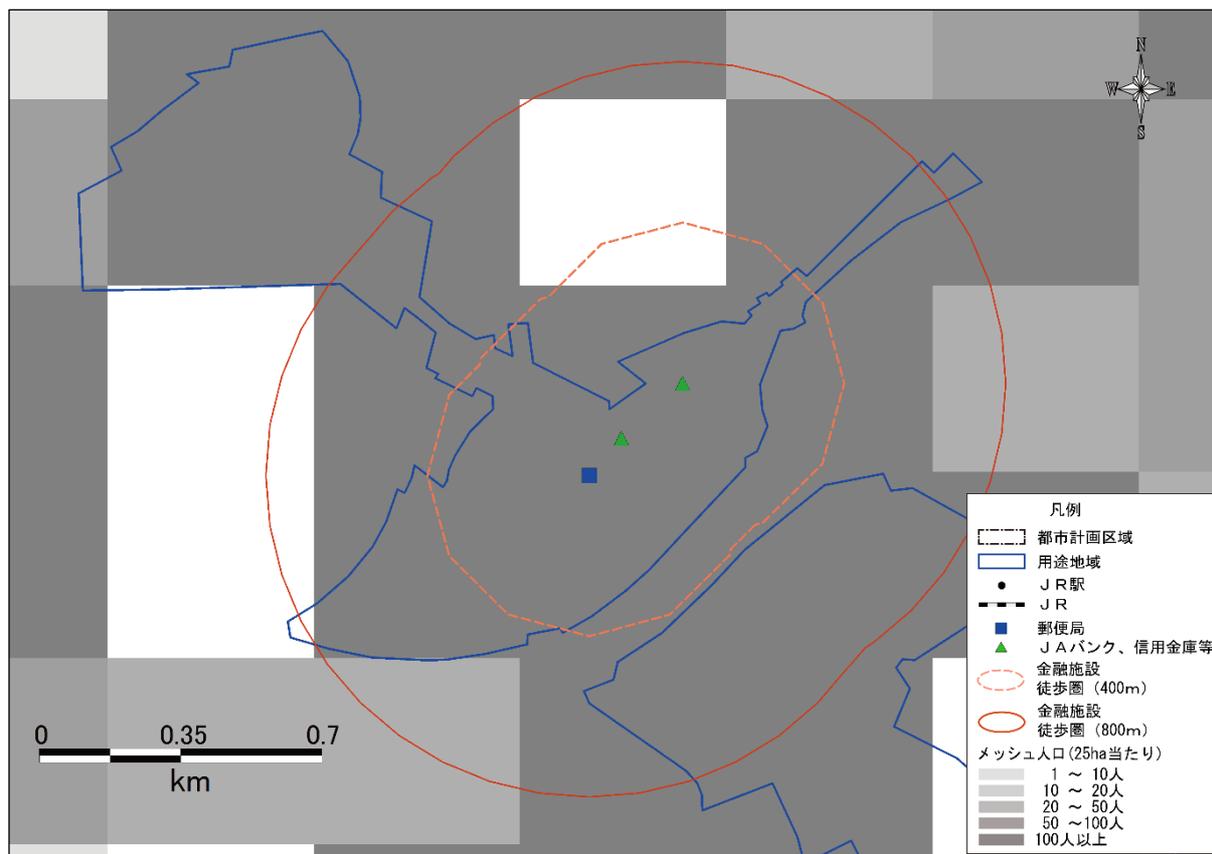


図 1-5-8 金融施設の分布状況 (厚真市街地)

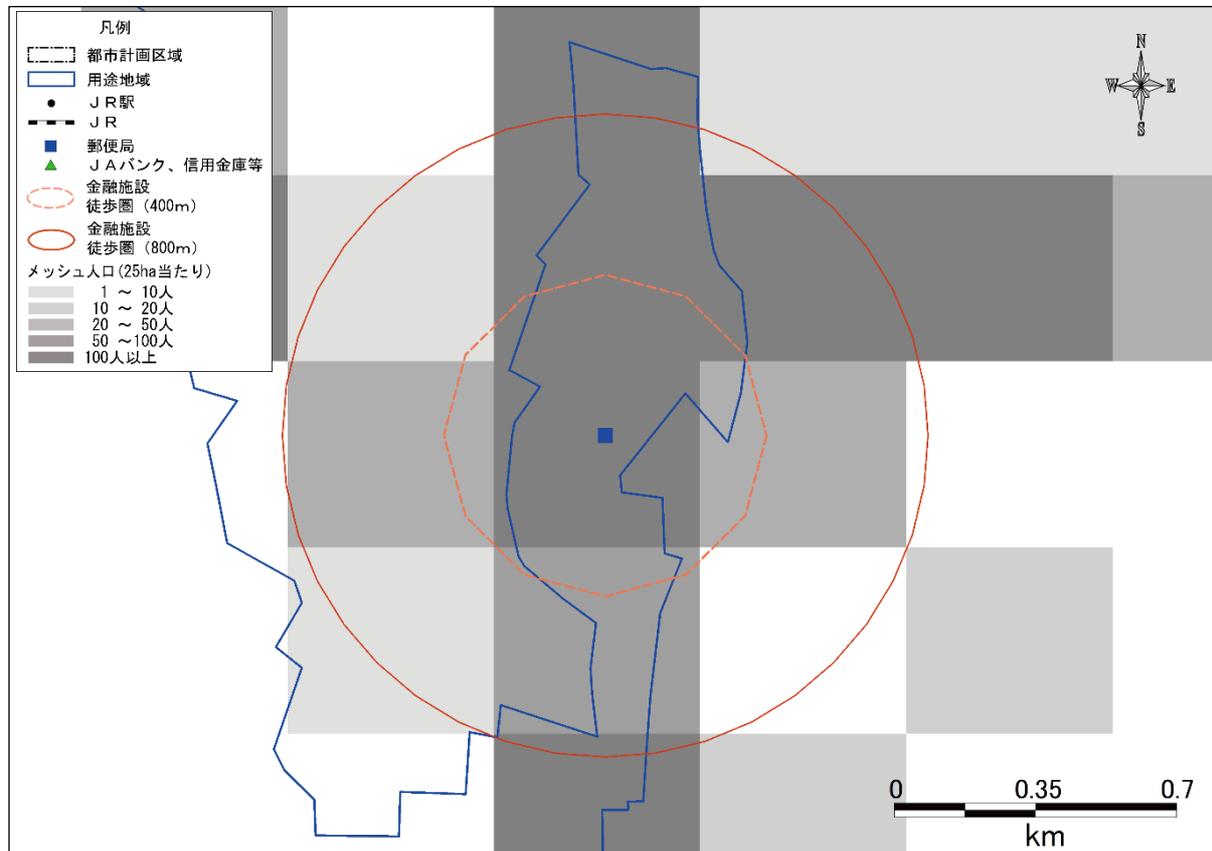


図 1-5-9 金融施設の分布状況 (上厚真市街地)

(4) 医療施設

医療施設は診療所、歯科診療所が厚真市街地内に立地しています。

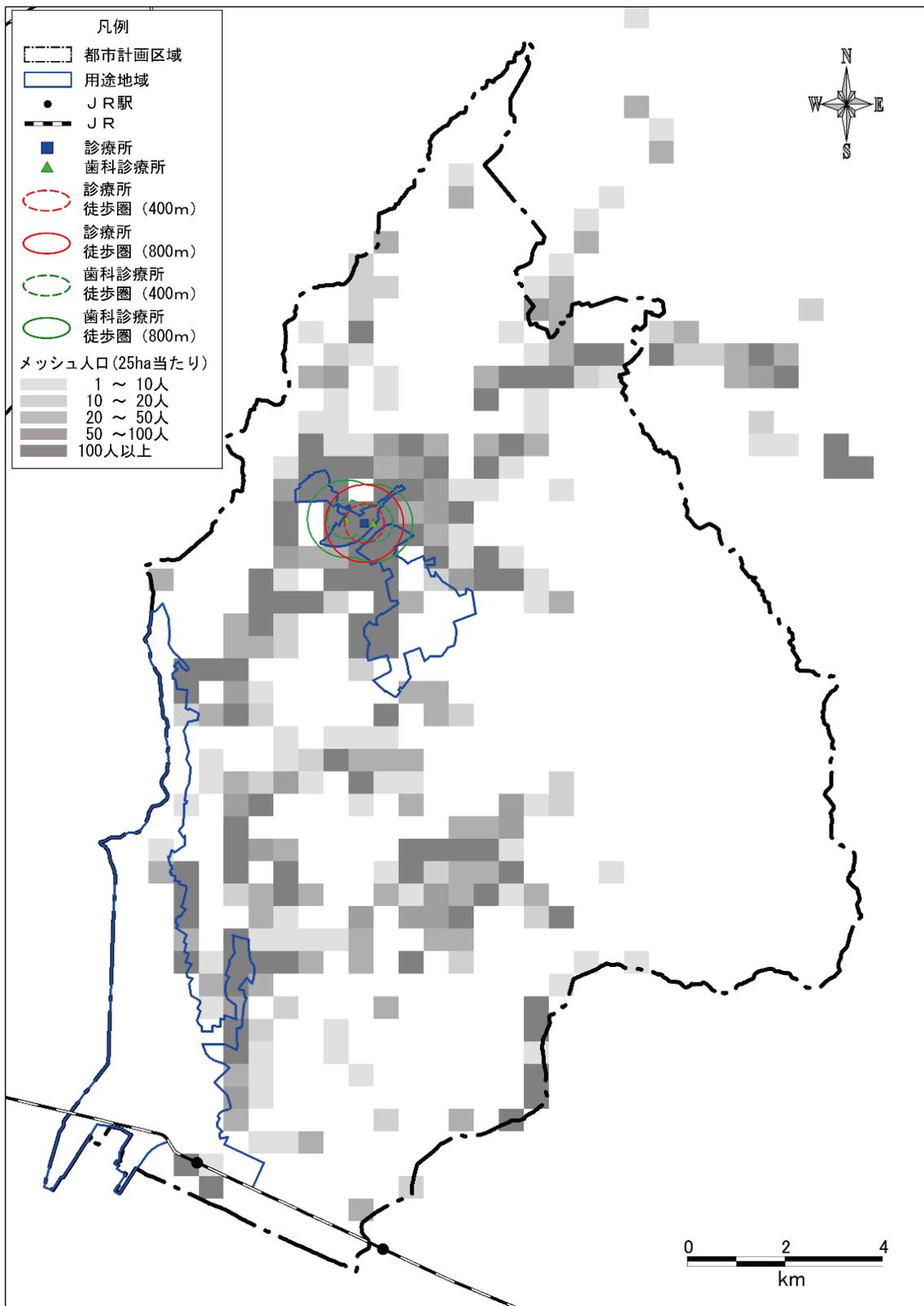


図 1-5-10 医療施設の分布状況 (資料：国土数値情報、厚真町)

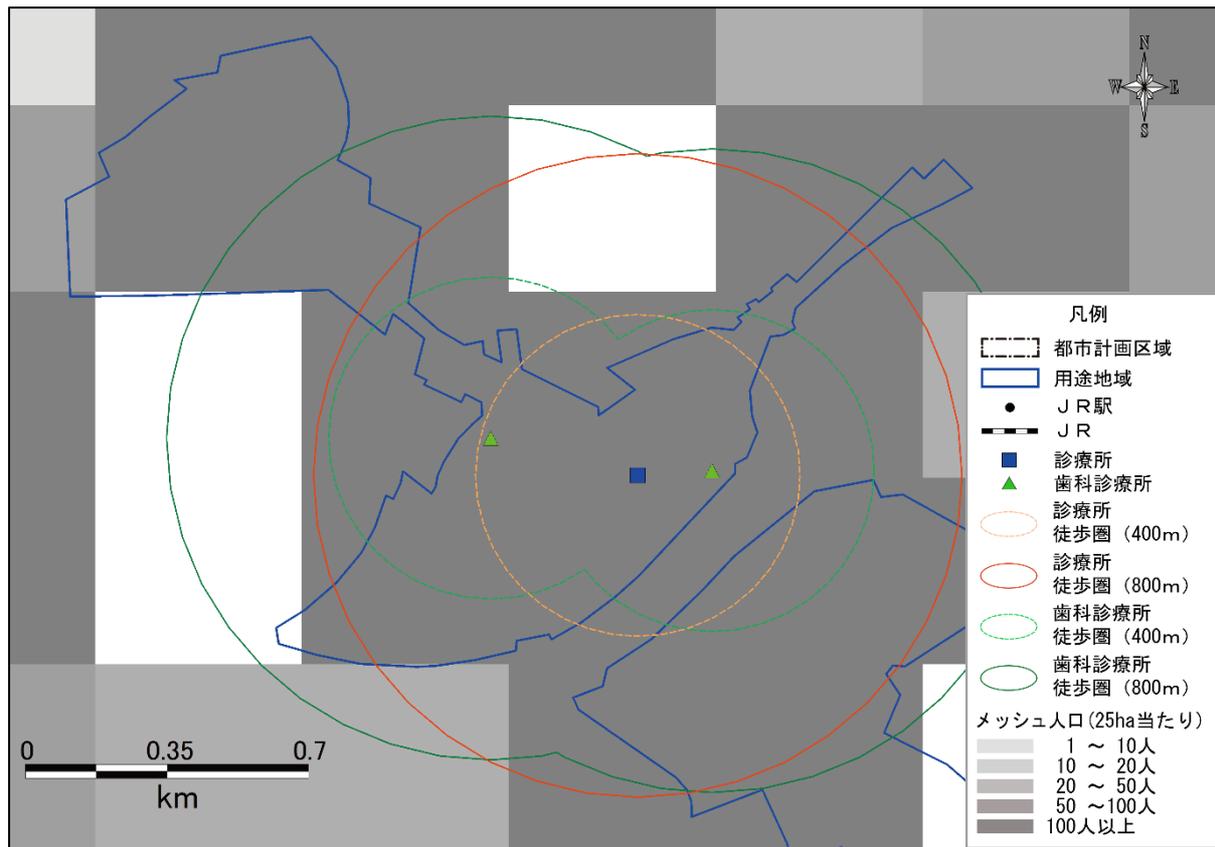


図 1-5-11 医療施設の分布状況 (厚真市街地)

(5) 教育施設

用途地域内には小学校、中学校、高等学校が各1校ずつ配置されているほか、用途地域外にも小学校、中学校が各1校ずつ配置されています。

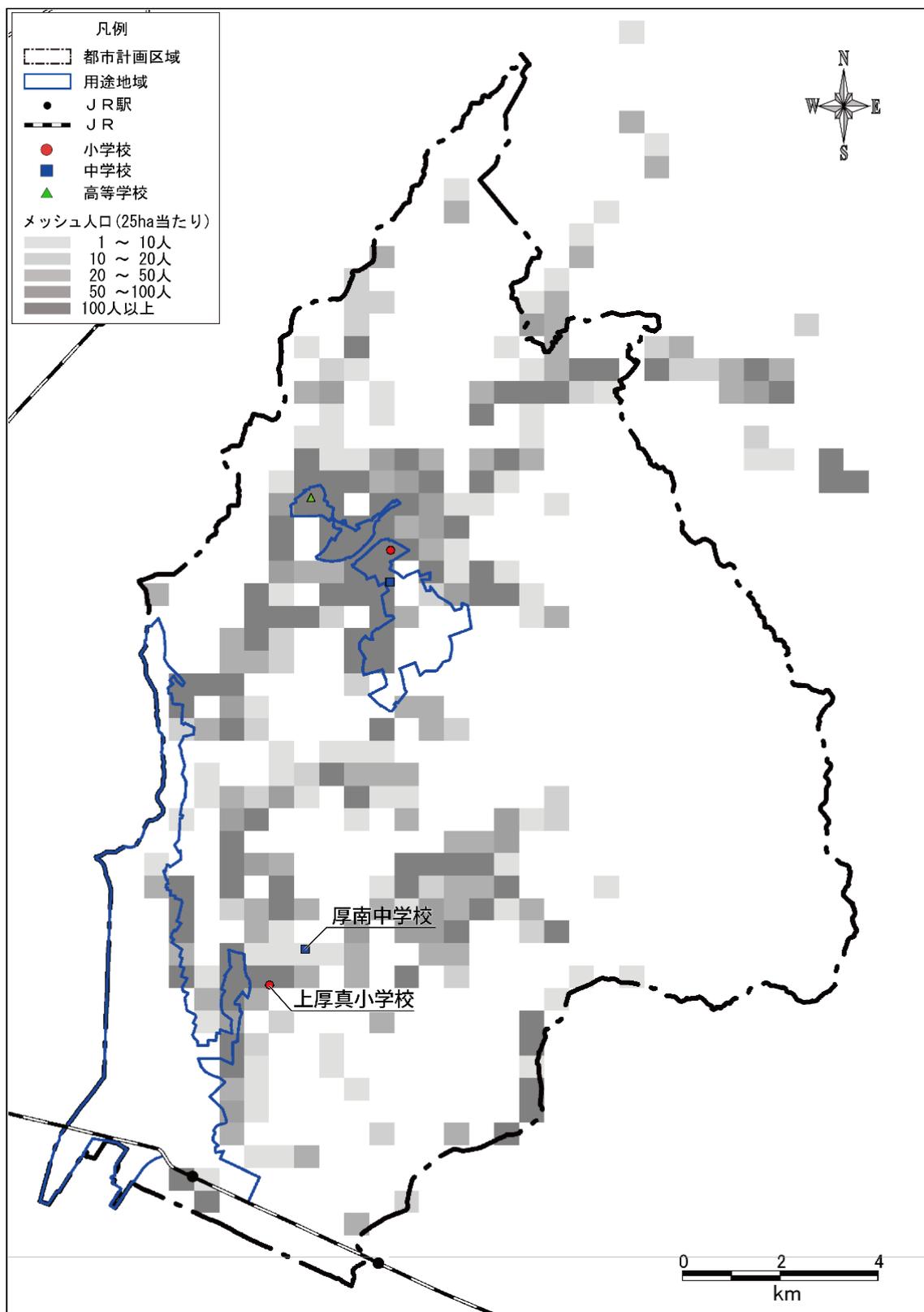


図 1-5-12 教育施設の分布状況 (資料：国土数値情報、厚真町)

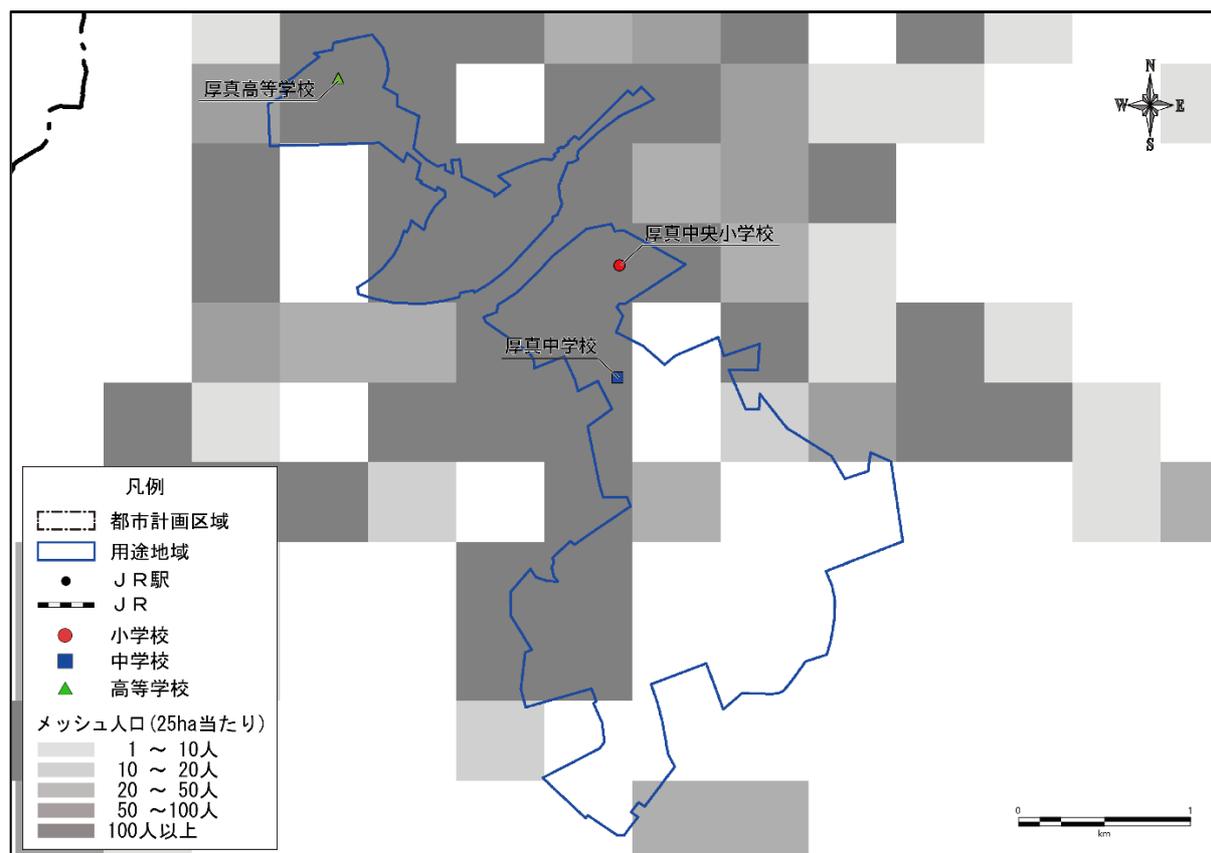


図 1-5-13 教育施設の分布状況 (厚真市街地)

(6) 商業・宿泊施設

商業施設としては、スーパー、商店及びコンビニエンスストアがあり、いずれも用途地域内に立地している状況となっています。宿泊施設も一部を除き用途地域内に立地しています。

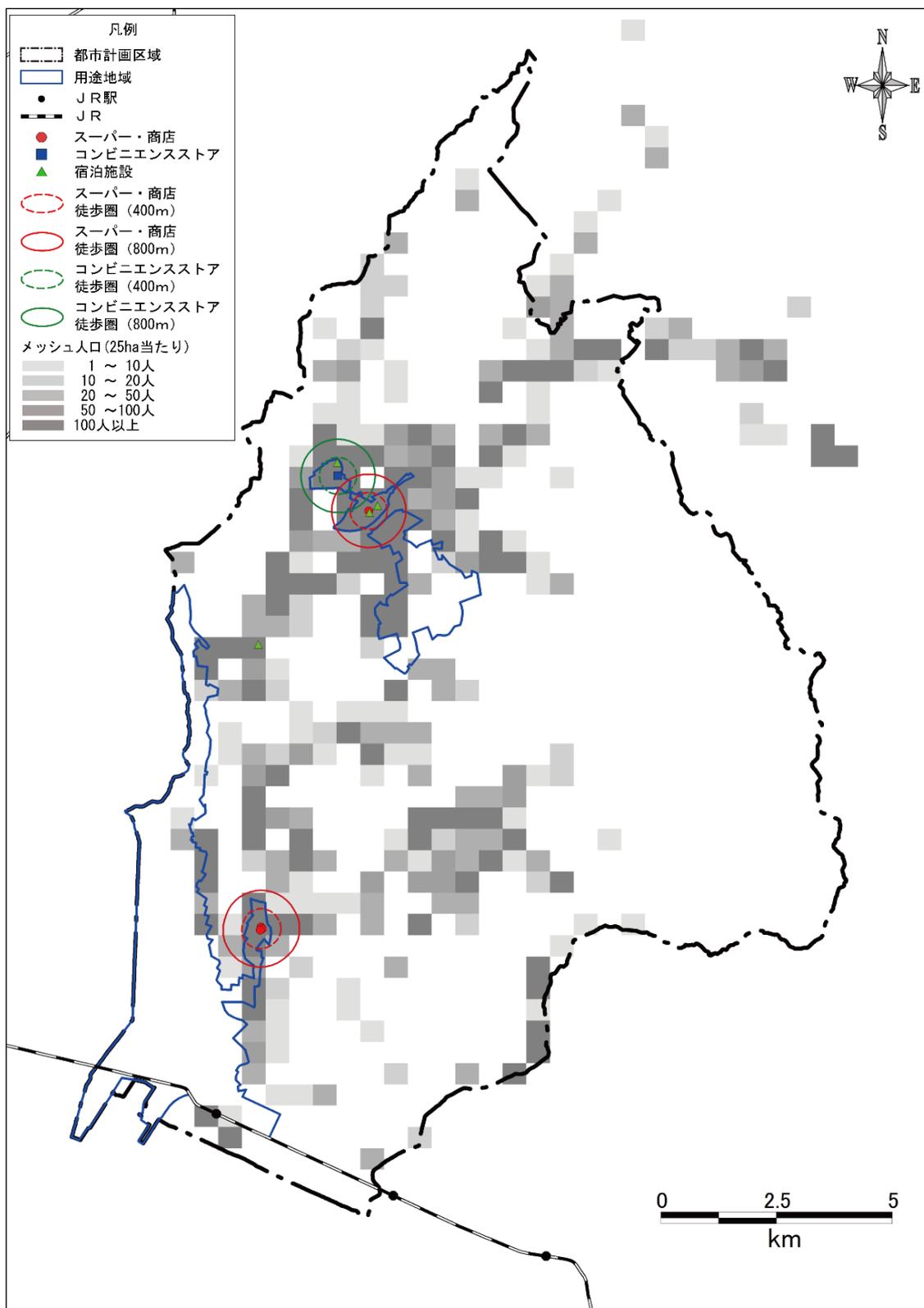


図 1-5-14 商業・宿泊施設の分布状況 (資料：iタウンページ、厚真町観光協会)

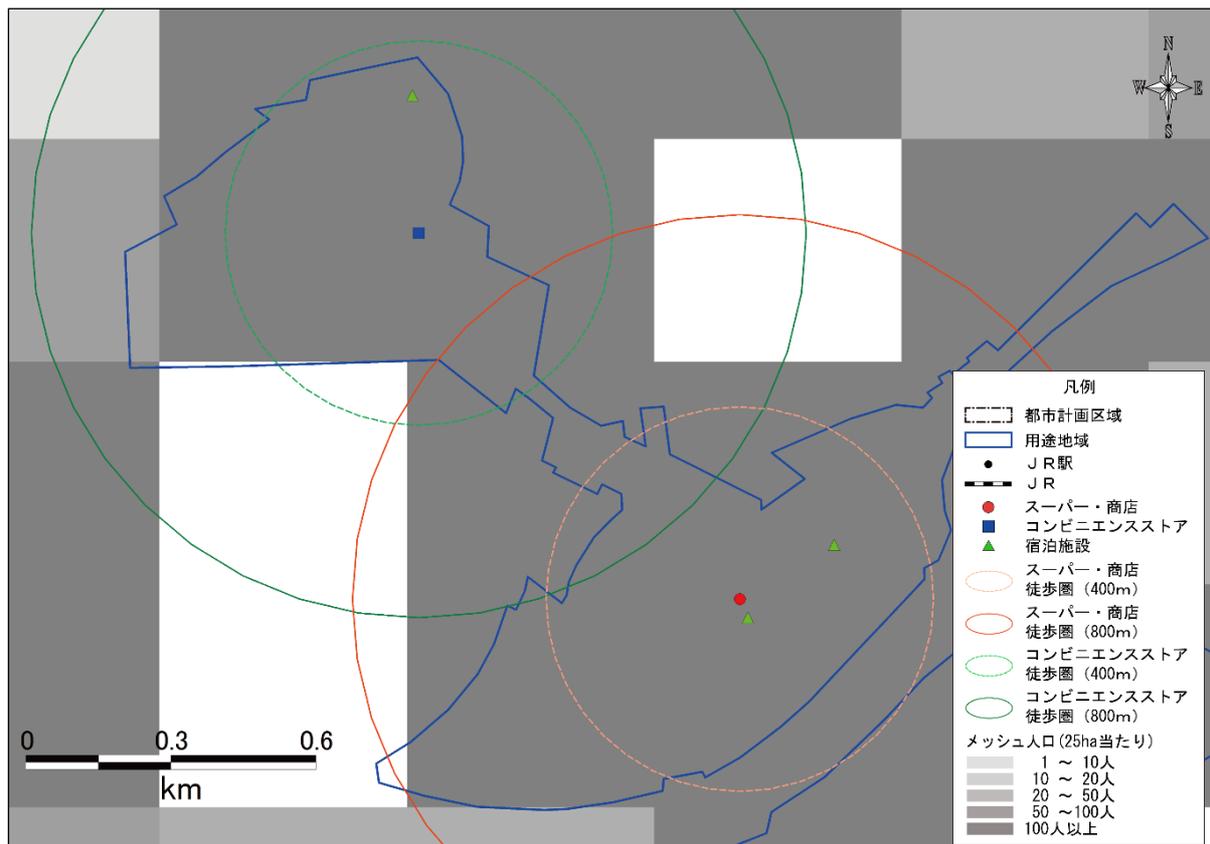


図 1-5-15 商業・宿泊施設の分布状況（厚真市街地）

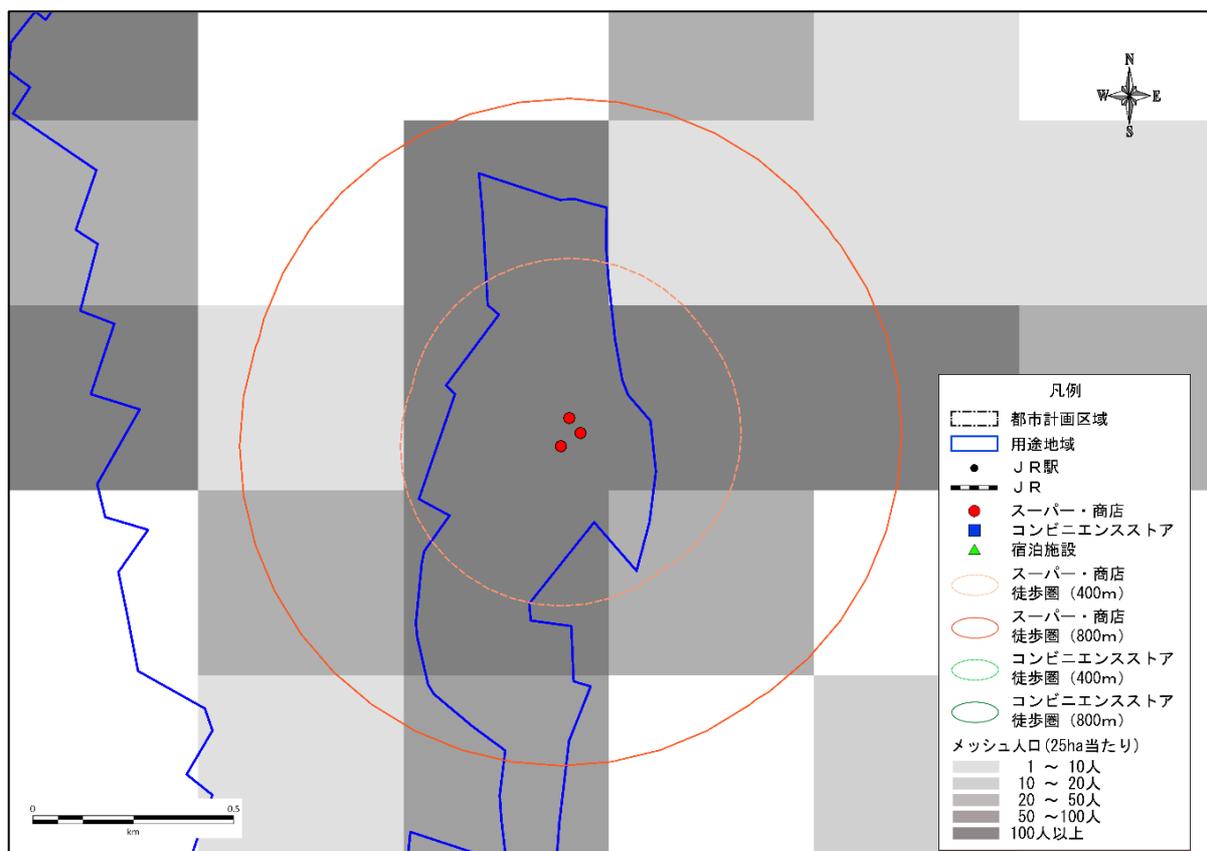


図 1-5-16 商業・宿泊施設の分布状況（上厚真市街地）

(7) 子育て支援施設

子育て支援施設は、保育所、子育て支援センター、児童福祉施設が用途地域内に配置されています。

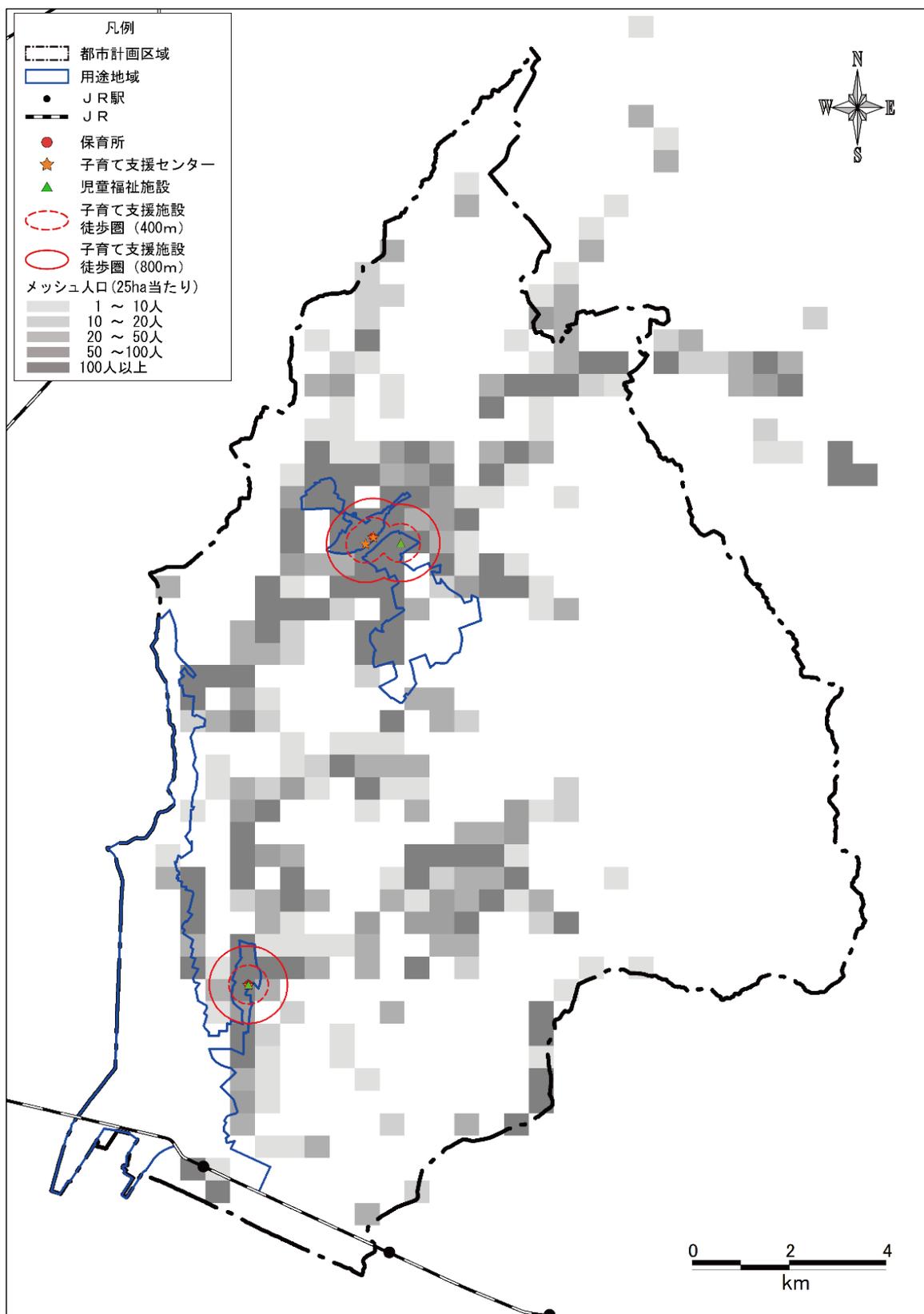


図 1-5-17 子育て支援施設の分布状況 (資料 : i タウンページ、厚真町)

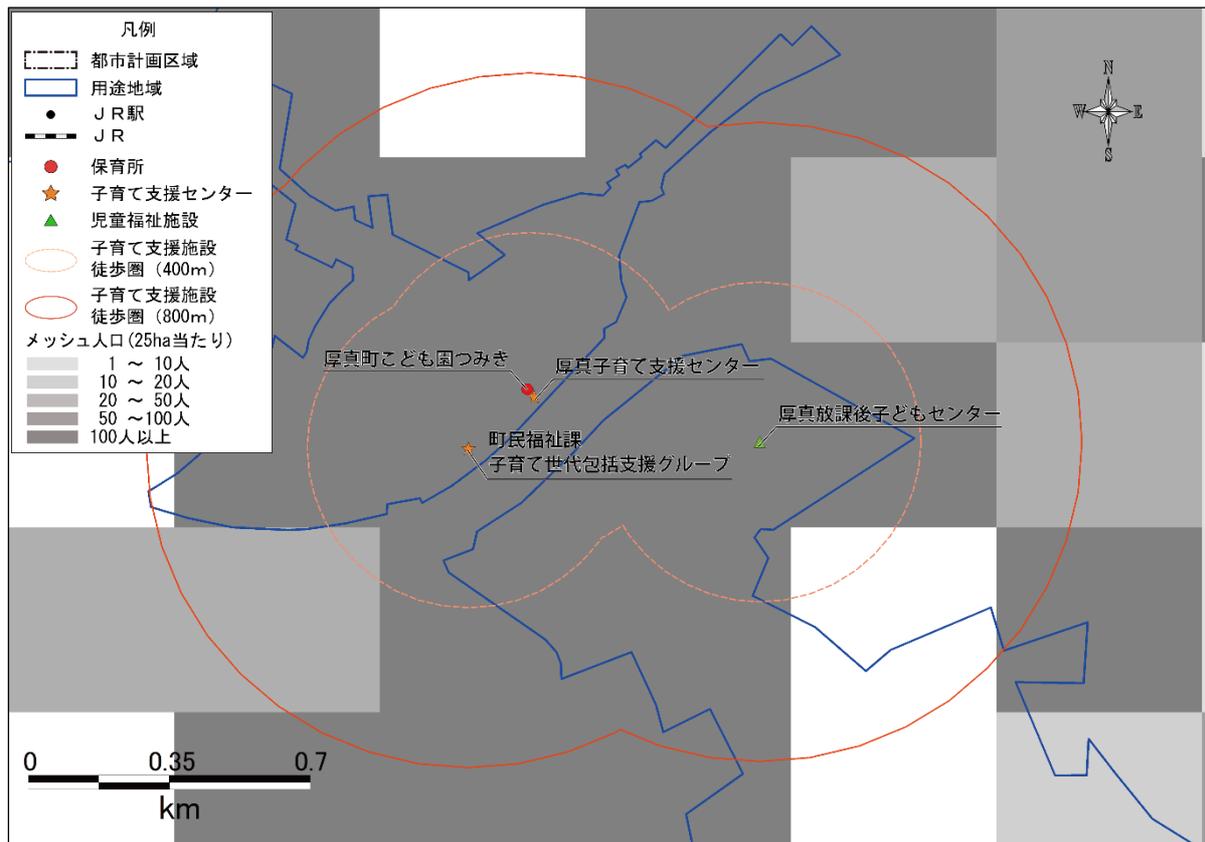


図 1-5-18 子育て支援施設の分布状況（厚真市街地）

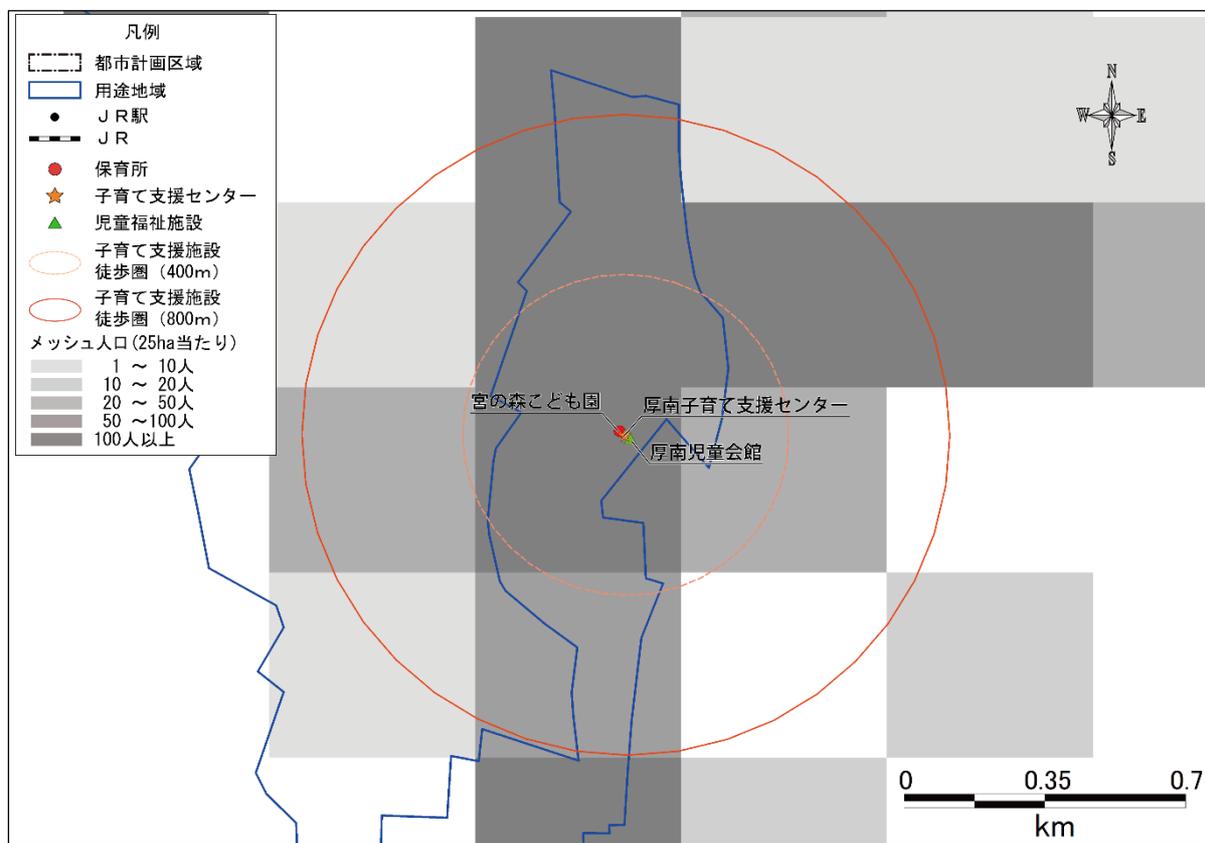


図 1-5-19 子育て支援施設の分布状況（上厚真市街地）

(8) 歴史・文化・体育施設

歴史・文化・体育施設は、運動施設、キャンプ場、青少年センターのほか、地域歴史博物館が配置されています。

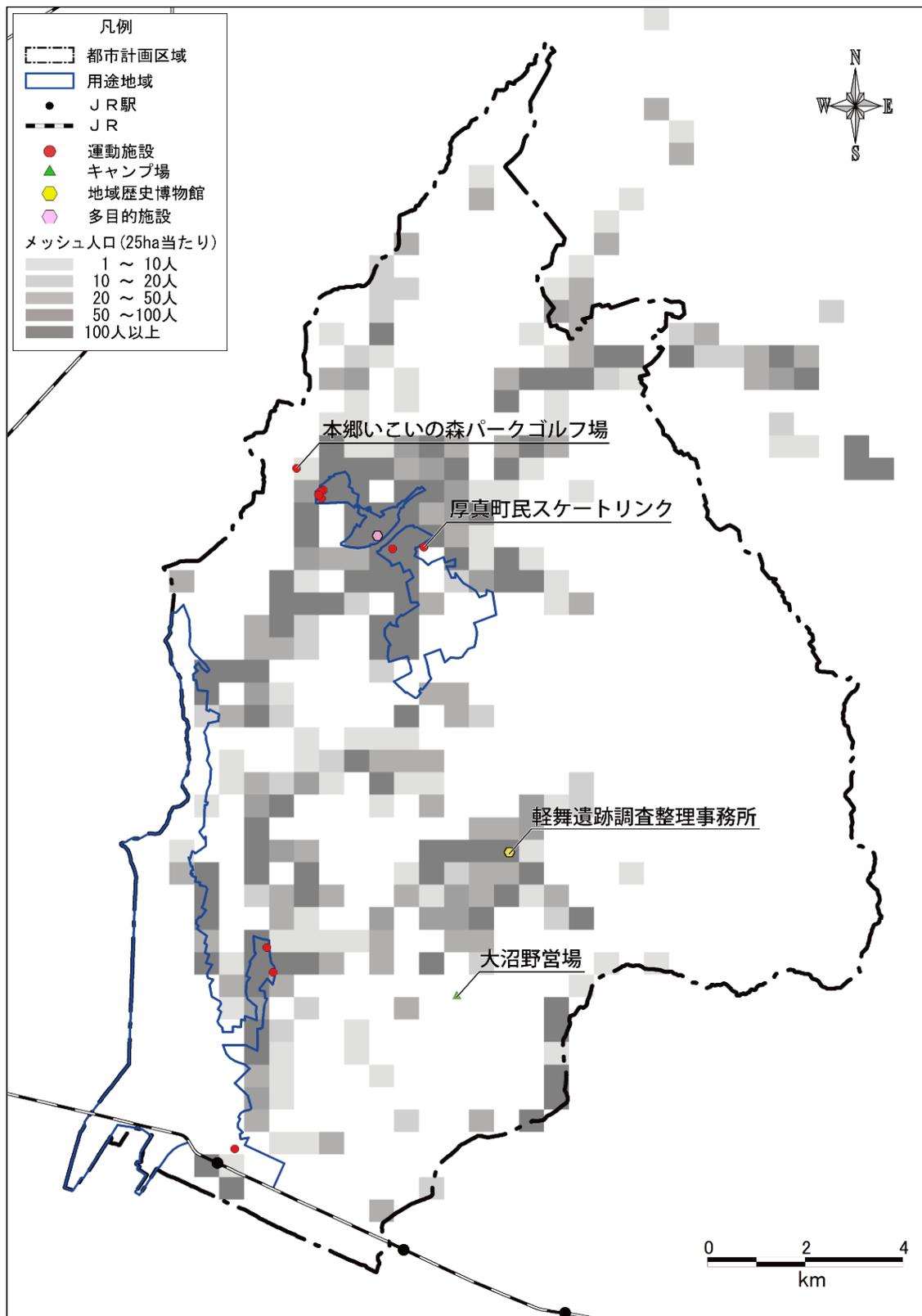


図 1-5-20 歴史・文化・体育施設の分布状況 (資料: 国土数値情報、厚真町)

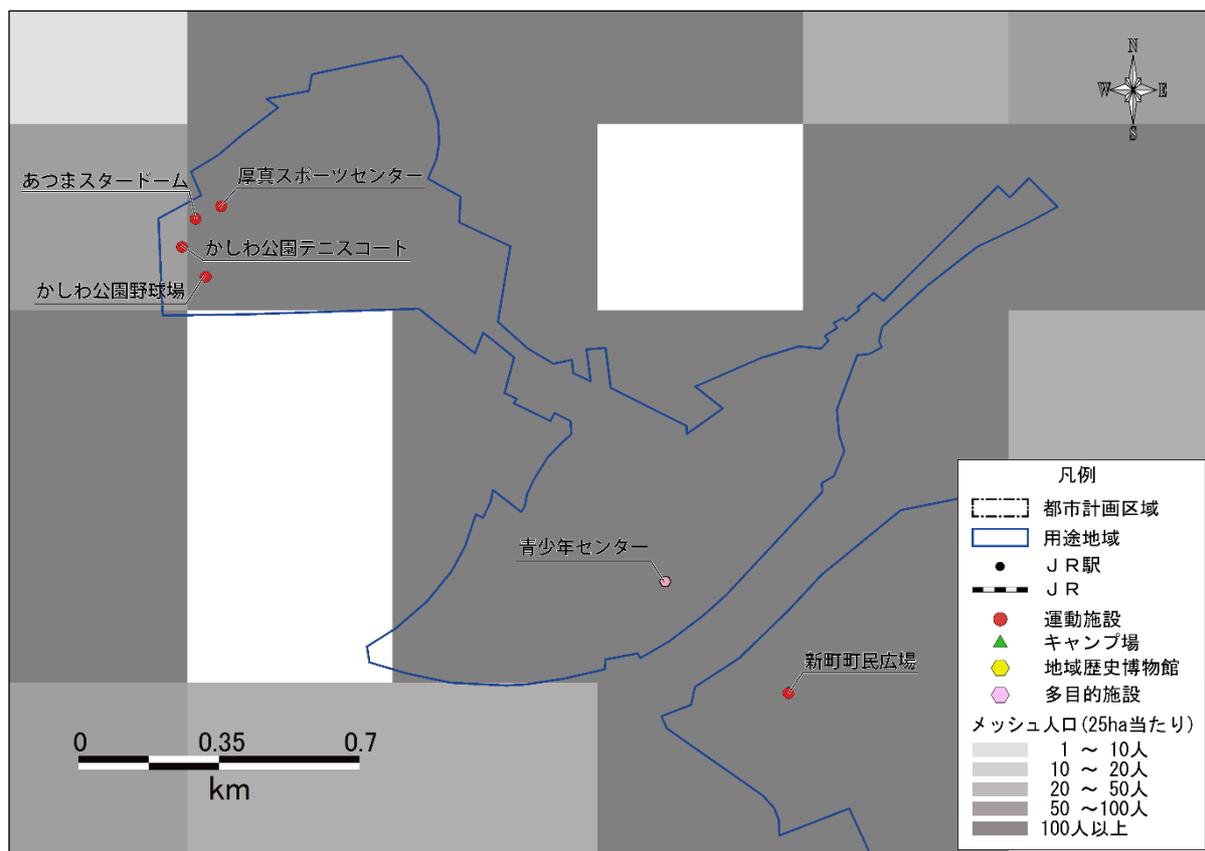


図 1-5-21 歴史・文化・体育施設の分布状況（厚真市街地）

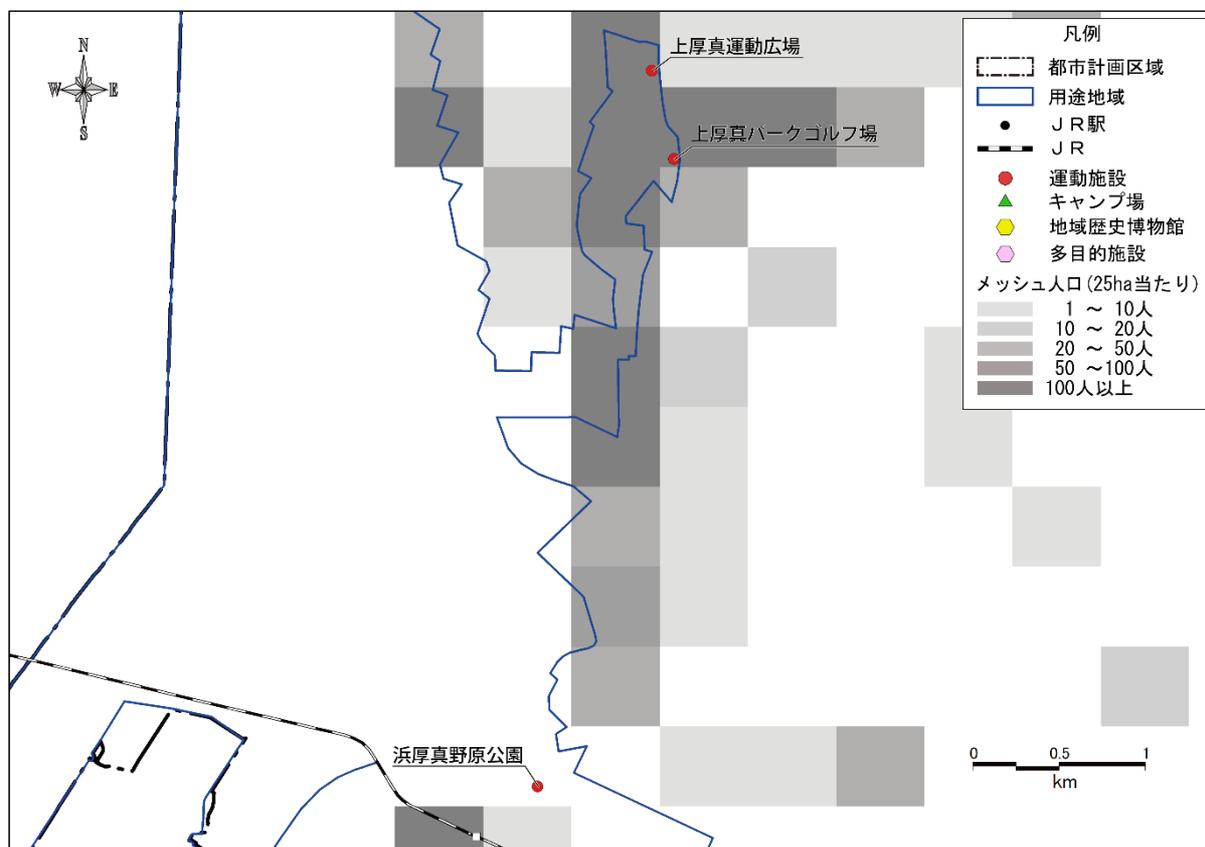


図 1-5-22 歴史・文化・体育施設の分布状況（上厚真市街地）

(9) 保健・福祉施設

保健・福祉施設は、全町的な施設である総合福祉センターや特別養護老人ホームなど入所型の施設が用途地域内に立地しています。

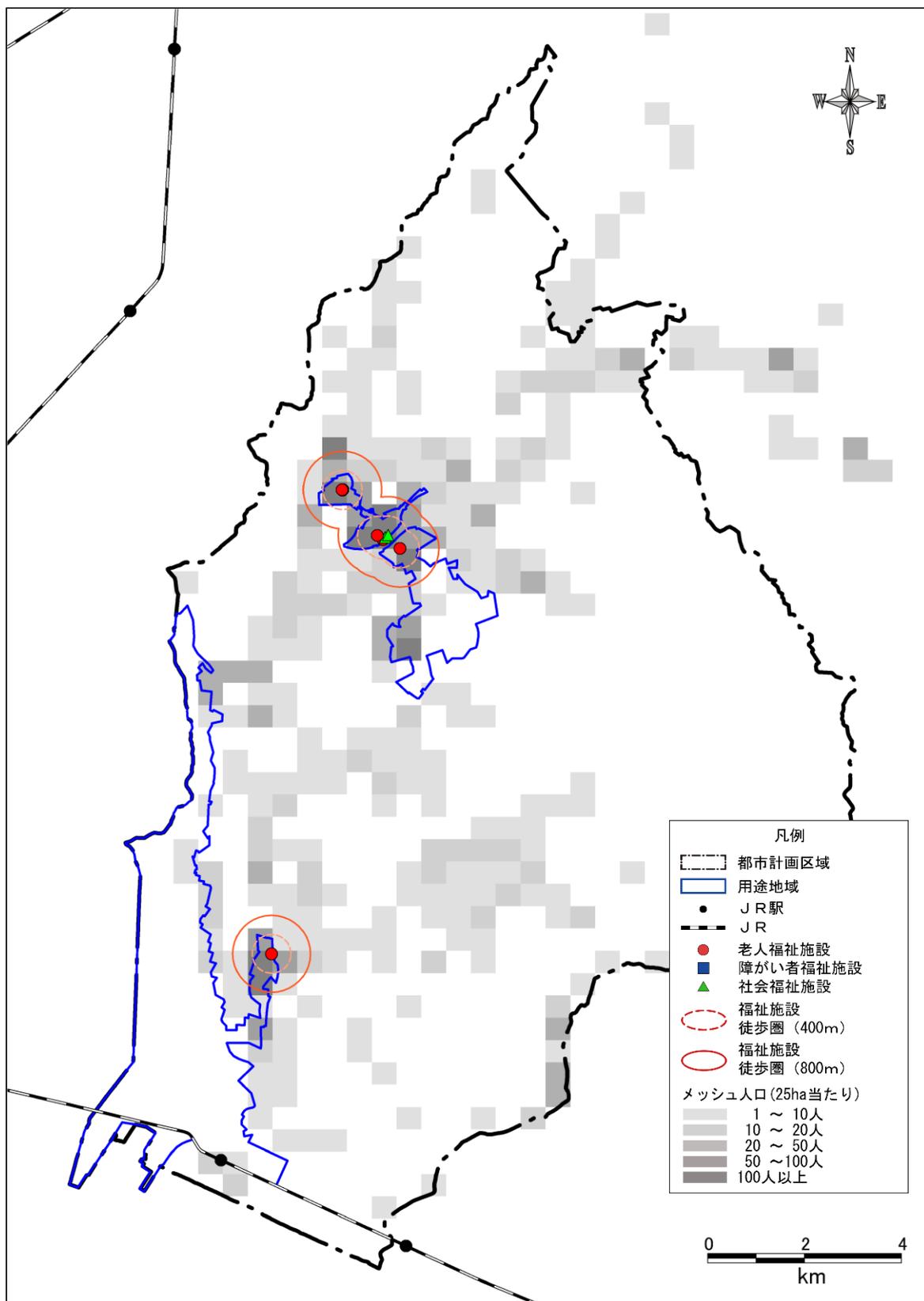


図 1-5-23 保健・福祉施設の分布状況 (資料：国土数値情報、厚真町社会福祉協議会、厚真町)

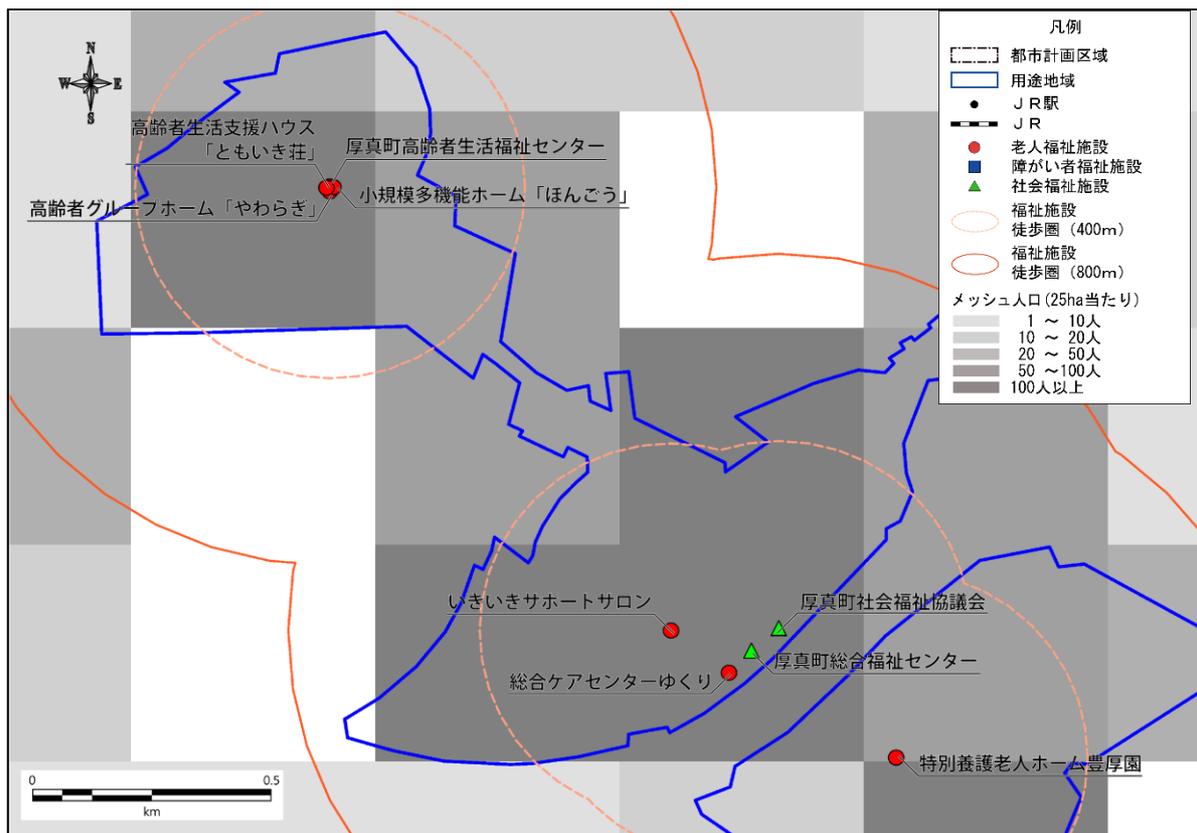


図 1-5-24 保健・福祉施設の分布状況（厚真市街地）

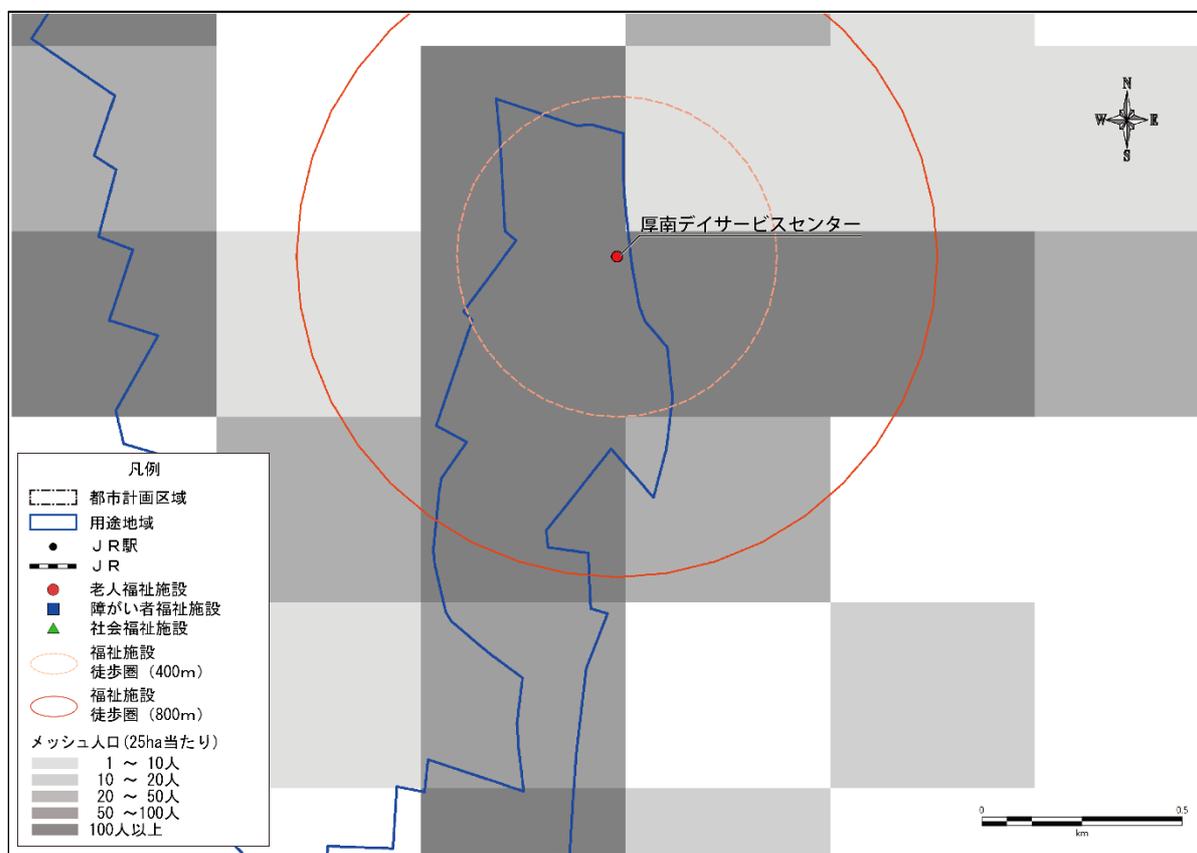


図 1-5-25 保健・福祉施設の分布状況（上厚真市街地）

## 第1章. 現状と課題

### (10) 都市計画道路

本市の都市計画道路は、16路線、39,080mが都市計画決定されています。16路線のうち、整備済みが4路線、未整備が12路線となっており、整備割合は42.4%となっています。

表 1-5-1 都市計画道路の現況（2019年度末）（資料：北海道、厚真町）

名称		計画		整備済	
路線番号	路線名	幅員(m)	延長(m)	延長(m)	整備率(%)
3・1・504	苫小牧厚真通	25	5,400	0	0.0
3・2・401	厚真大通	30	4,810	360	7.5
3・2・402	厚南中央通	30	1,380	0	0.0
3・2・505	東港北通	30	1,910	1,910	100.0
3・2・508	東部東通	30	280	0	0.0
3・3・503	苫小牧鶴川通	14	10,470	7,780	74.3
3・4・403	厚真中央通	20	1,390	410	29.5
3・4・404	かしわ公園通	20	810	270	33.3
3・4・405	表町本郷通	20	840	300	35.7
3・4・406	共和上厚真通	20	2,530	0	0.0
3・4・407	上厚真浜通	20	2,770	0	0.0
3・4・408	本郷通	16	430	430	100.0
3・5・409	北新通	15	950	0	0.0
1・3・601	苫東自動車道	24	4,550	4,550	100.0
3・4・410	表町西通	18	330	330	100.0
3・4・411	表町中央通	18	230	230	100.0
合計		—	39,080	16,570	42.4

## (11) 公園・緑地

都市計画公園4箇所と都市計画墓園1箇所があり、整備率は69.4%となっています。また、都市公園は15箇所あり、町全体での整備率は87.5%となっています。

表1-5-2 公園・緑地の現況(2017年3月)(資料:北海道、厚真町)

区分	名称		種別	面積		整備率(%)
	公園番号	公園名		計画(ha)	供用(ha)	
都市計画公園・墓園	2・2・601	本郷公園	街区公園	0.14	0.14	100.0
	2・2・602	表町公園	街区公園	0.96	0.96	100.0
	3・3・251	京町公園	近隣公園	1.10	1.10	100.0
	6・5・51	かしわ公園	運動公園	16.80	16.80	100.0
	都市計画公園 小計		4ヶ所	19.0	19.0	100.0
	3	厚真中央霊園	特殊公園	12.40	2.80	22.6
	墓園 小計		1ヶ所	12.40	2.80	22.6
合 計			5ヶ所	31.40	21.80	69.4
都市公園・都市緑地	つたえり公園		街区公園	0.46	0.46	100.0
	ルーラルつどいの森公園		街区公園	0.50	0.50	100.0
	ルーラルみはらし公園		街区公園	0.93	0.93	100.0
	ルーラル森の池公園		街区公園	0.37	0.37	100.0
	上厚真さらり公園		街区公園	0.18	0.18	100.0
	上厚真中央公園		地区公園	4.80	4.80	100.0
	上厚真かえで公園		近隣公園	0.30	0.30	100.0
	新町町民広場		近隣公園	4.50	2.50	55.6
	開基百年記念公園		総合公園	24.20	24.20	100.0
	新町公園		地区公園	5.50	5.50	100.0
	大沼フィッシングパーク		特殊公園	5.60	5.60	100.0
	フォーラムふれあいの森公園		都市緑地	2.07	2.07	100.0
	フォーラムせせらぎ公園		都市緑地	2.92	2.92	100.0
	浜厚真野原公園		都市緑地	7.70	7.70	100.0
	浜厚真海浜公園		都市緑地	1.70	1.70	100.0
合 計			15ヶ所	61.73	59.73	96.8
総 計			20ヶ所	93.13	81.53	87.5

## 第1章. 現状と課題

### (12) 下水道

本町の下水道は、厚真町公共下水道事業によって整備が進められており、24.1%の整備率となっています。

表 1-5-3 下水道の現況 (2019 年度末時点) (資料: 厚真町)

種別	計画	供用		備考
	排水区域 (ha)	面積 (ha)	整備率 (%)	
公共下水道	490.00	118.00	24.1	処理人口:1,655 人
特定環境保全下水道	なし	なし	—	下水道普及率:36.3%
合計	490.00	118.00	24.1	

## 1-6 経済

## (1) 産業別就業者の推移

20年間の産業別就業者\*数を見ると、1995年が3,301人に対し、2015年には83.4%にあたる2,752人に減少していますが、直近では2010年から2015年で第2次産業、第3次産業が増加傾向にあります。

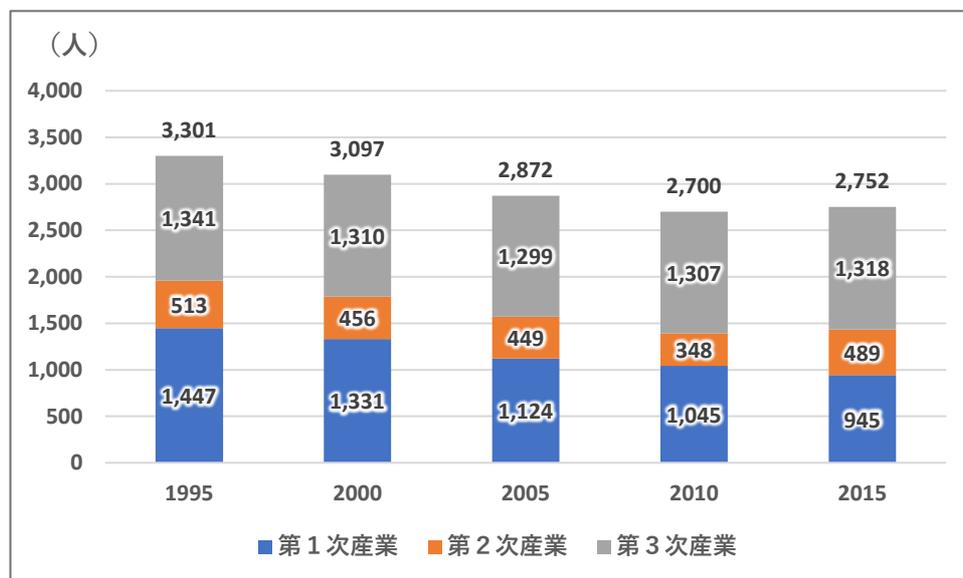


図 1-6-1 産業別就業者\*数の推移 (資料：各年国勢調査)

\*就業者：厚真町に住んでいる人の中で働いている方

(2) 工業

事業所数は2002年の8箇所に対し、2017年は4箇所と半数に減少し、従業者数は2002年の370人に対し2017年は293人と20.8%にあたる77人が減少しています。

一方で製造品出荷額は、2002年の約55億円に対し、2017年には約111億円と50.5%にあたる約56億円が増加しています。

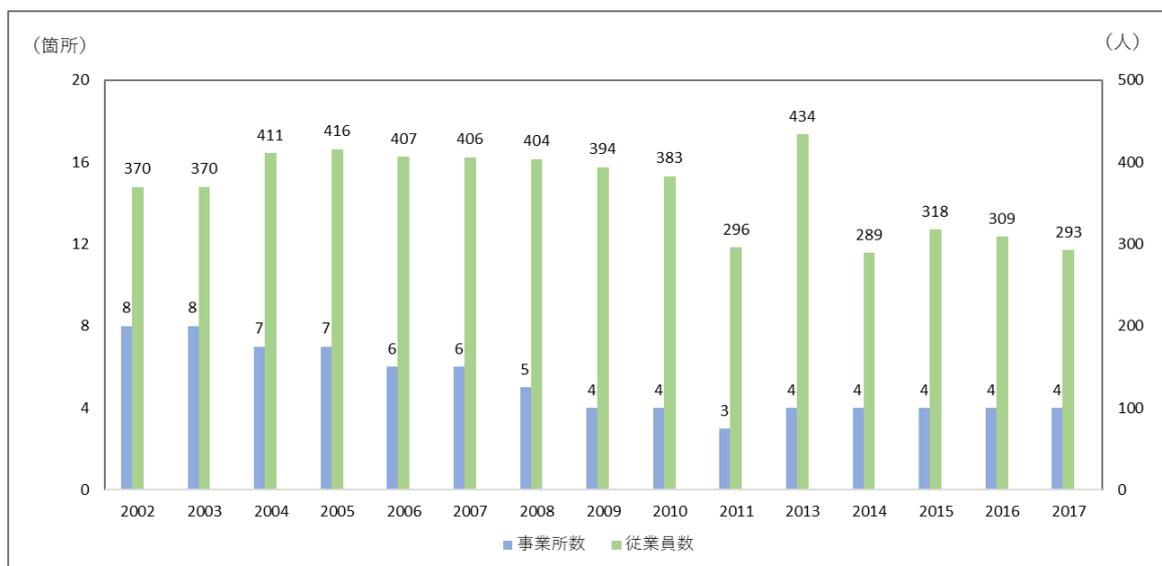
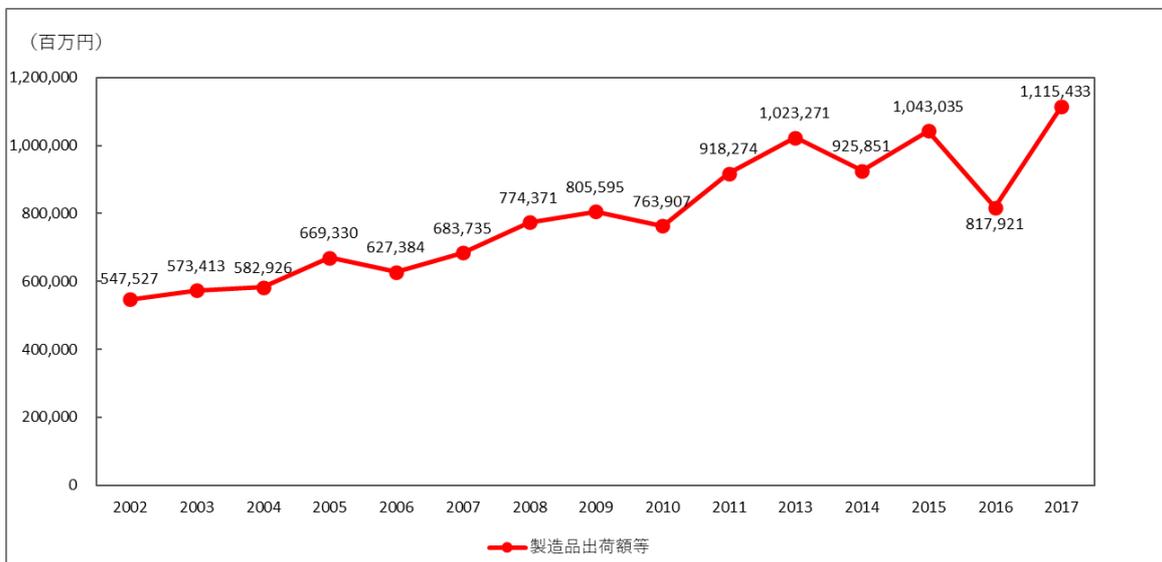


図1-6-2 事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

(資料：工業統計調査、経済センサス ※2012年は集計方法が例年と異なるため除外)

## (3) 商業

商店数は2002年の67箇所に対し、2016年は39箇所と41.8%にあたる28箇所が減少し、従業者数は2002年の320人に対し、2016年は203人と36.6%にあたる117人が減少しています。

一方年間販売額は、2002年の約6,229万円に対し、2016年は約6,916万円と11.0%にあたる約687万円が増加しています。

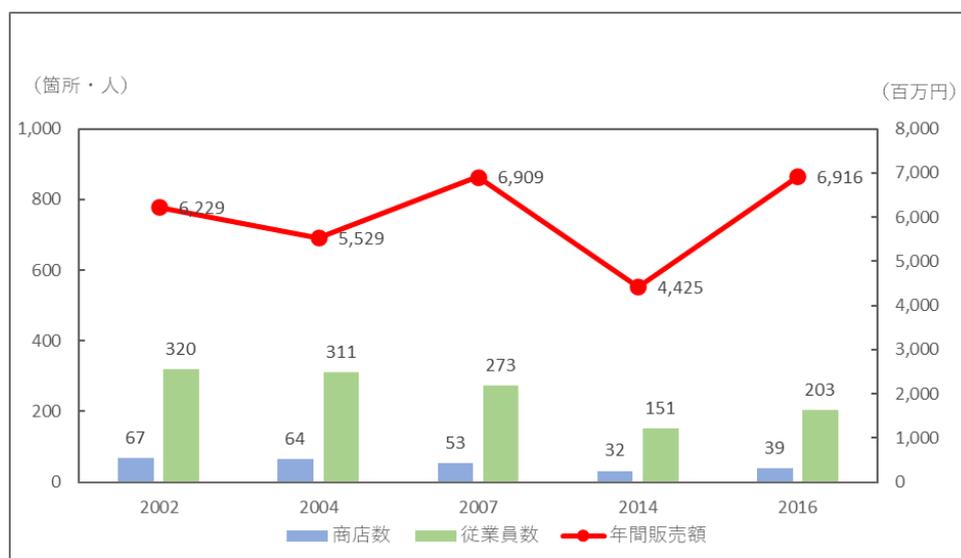


図 1-6-3 商店数・従業者数・年間販売額の推移

(資料：商業統計調査、経済センサス ※2012年は集計方法が例年と異なるため除外)

(4) 地価

地価の推移を見ると、商業地が1999年から2019年の20年間で大きく下落しています。

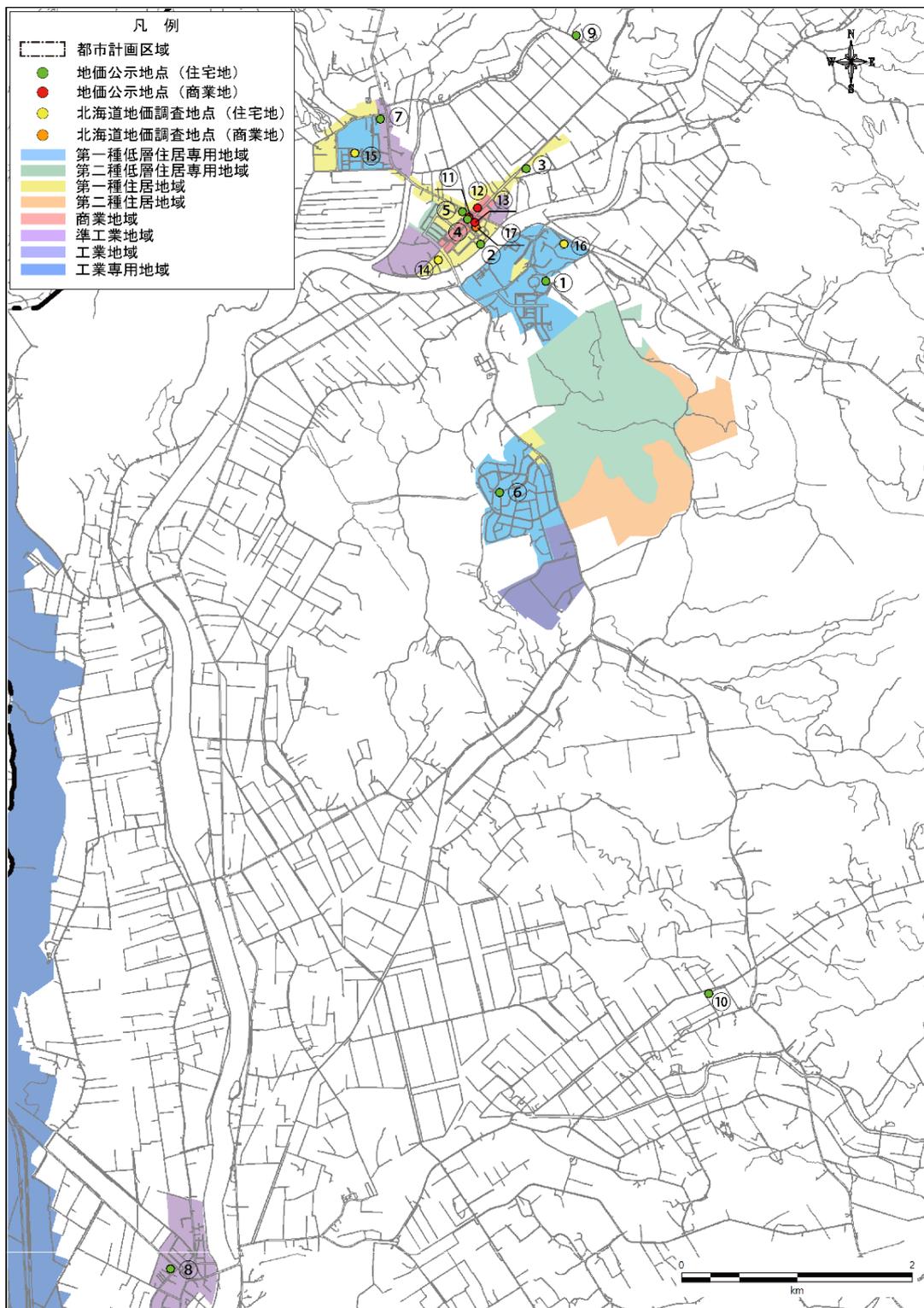


図 1-6-4 地価調査地点の分布 (資料：地価公示、北海道地価調査)

表 1-6-1 地価の推移 (資料: 地価公示、北海道地価調査)

住所		価格 (円/㎡)					調査年次	
		1999年	2004年	2009年	2014年	2019年		
地価公示	住宅地	① 厚真町新町 1 2 7 番 2 1 外	10,400	9,900	8,900	8,000	7,100	1999年～2019年
	住宅地	② 厚真町京町 1 5 5 番 2	14,000	12,400	11,000	10,000	8,900	1999年～2019年
	住宅地	③ 厚真町字朝日 3 8 2 番 3	8,900	8,300	7,100	6,400	5,700	1999年～2019年
	住宅地	④ 厚真町表町 8 番 1 外	—	—	12,100	—	—	2007年～2010年
	住宅地	⑤ 厚真町表町 9 4 番外	16,900	14,900	—	—	—	1999年～2006年
	住宅地	⑥ 厚真町字豊沢 1 2 4 5 番	5,700	4,600	3,900	3,500	3,300	1999年～2019年
	住宅地	⑦ 厚真町字本郷 2 4 2 番 2	9,200	8,400	—	—	—	1999年～2008年
	住宅地	⑧ 厚真町字上厚真 2 1 3 番 3	—	—	—	6,400	6,200	2013年～2019年
	住宅地	⑨ 厚真町字桜丘 2 8 6 番	—	—	—	720	—	2013年～2018年
	住宅地	⑩ 厚真町字軽舞 2 8 0 番	—	—	—	540	480	2013年～2019年
	商業地	⑪ 厚真町表町 2 番外	—	—	—	—	15,100	2015年～2019年
	商業地	⑫ 厚真町錦町 6 番 1	—	23,900	19,600	16,500	—	2000年～2014年
	商業地	⑬ 厚真町京町 1 6 番	29,500	—	—	—	—	1999年
北海道地価調査	住宅地	⑭ 厚真町京町 1 7 8 番 9 外	10,000	8,600	7,300	6,500	6,050	1999年～2019年
	住宅地	⑮ 厚真町字本郷 2 8 3 番 1 4	9,900	8,700	7,200	6,450	5,950	1999年～2019年
	住宅地	⑯ 厚真町新町 3 2 番 2	6,200	5,200	4,500	4,000	3,650	1999年～2019年
	商業地	⑰ 厚真町京町 1 0 5 番 1	22,000	19,300	15,300	13,100	11,300	1999年～2019年

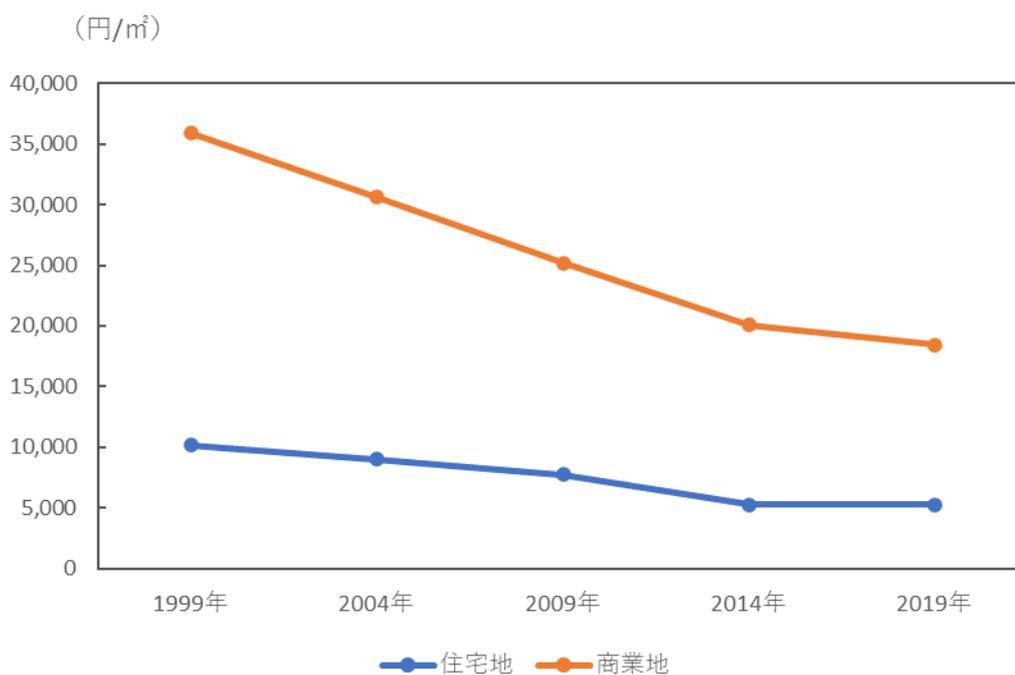
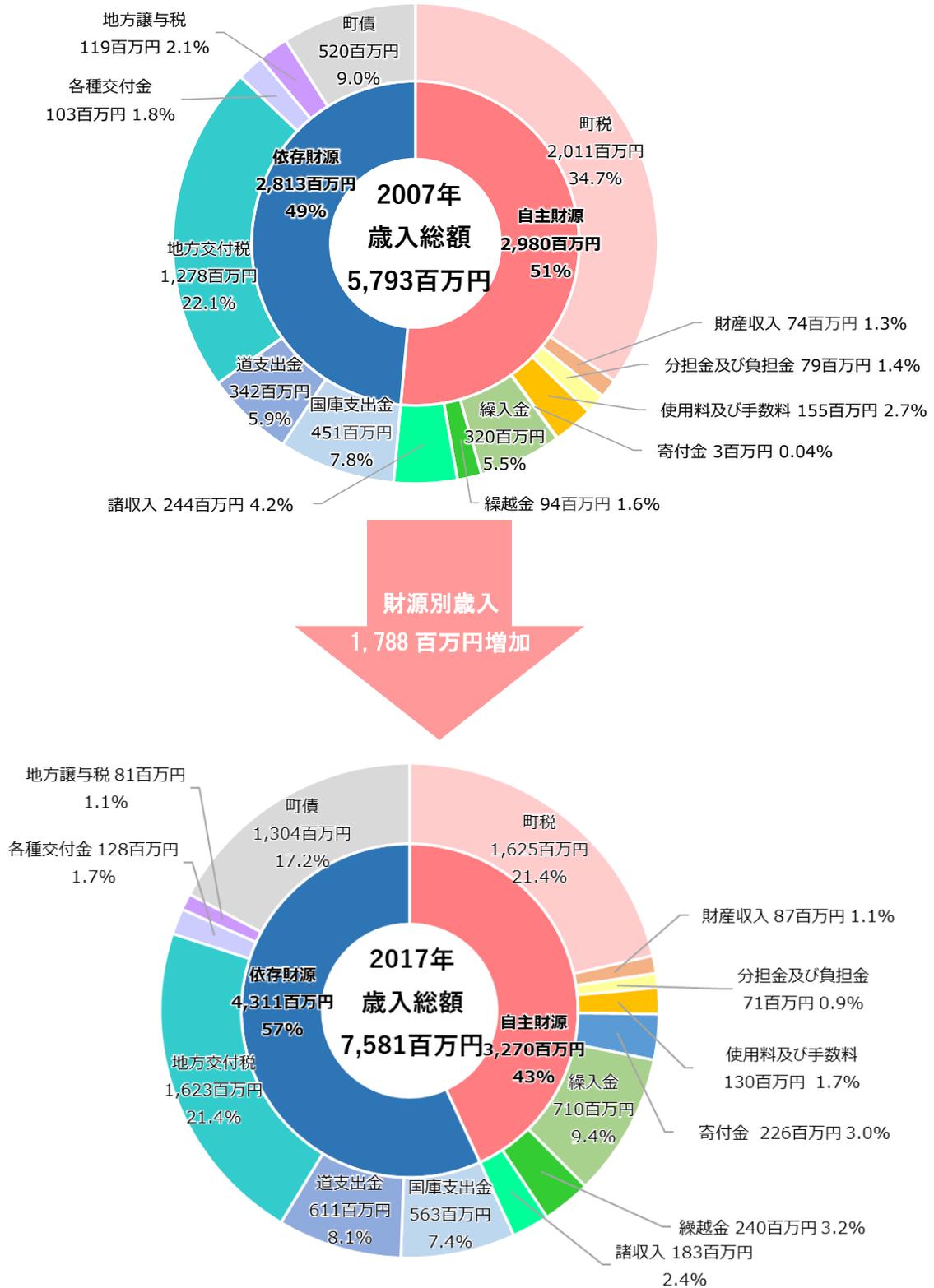


図 1-6-5 地価の推移 (平均値) (資料: 地価公示、北海道地価調査)

1-7 財政

(1) 町全体の歳入・歳出

本町の歳入は、自主財源が約51%を占めており、そのうち町税が約67%を占めています。2007年から2017年にかけて歳入全体に占める町税の割合が減少傾向にあり、将来的に少子高齢化による人口減少で更に減少することが予想されます。（2018年は震災の影響から参考値として掲載）



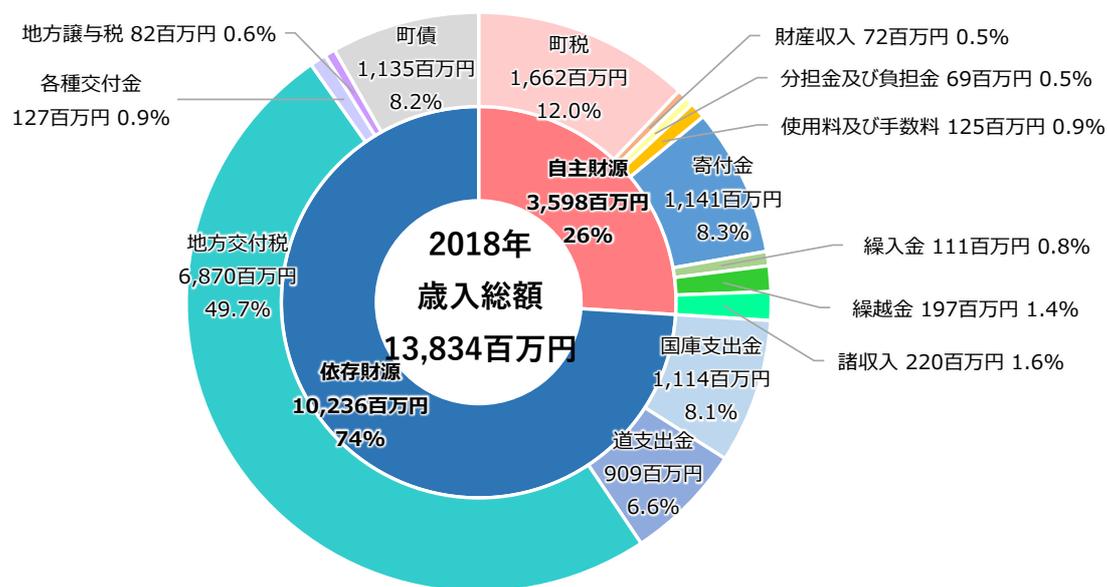
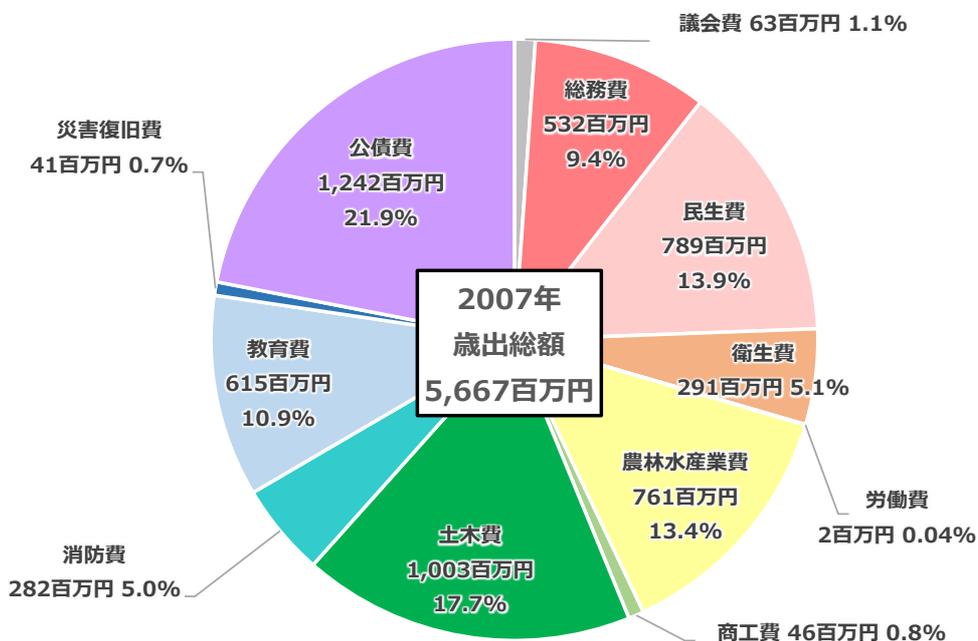


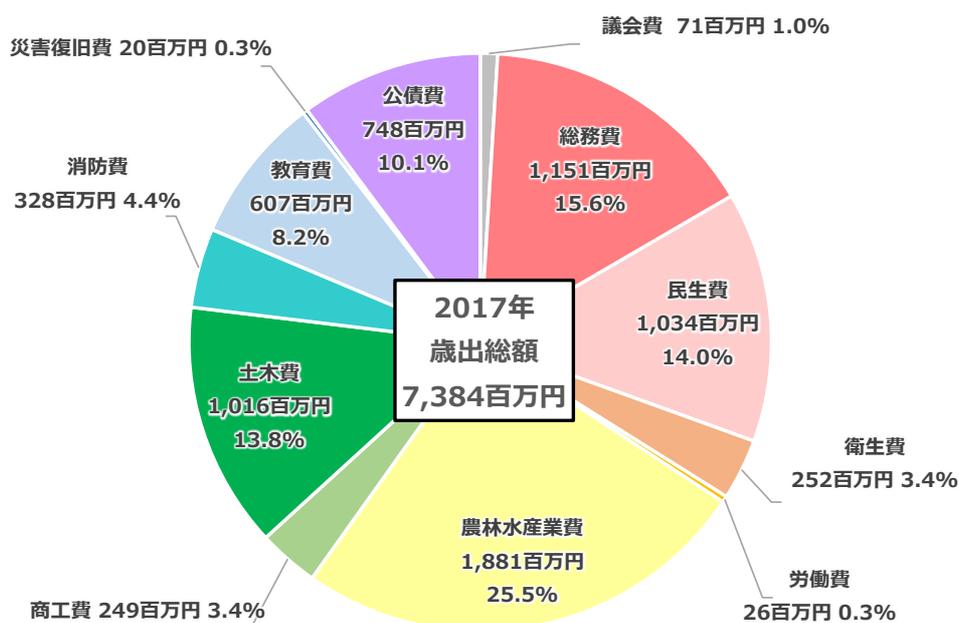
図 1-7-1 財源別歳入（一般会計）の推移（資料：厚真町）

## 第1章. 現状と課題

目的別歳出は、公債費、土木費、民生費が約半数を占めており、2007年から2017年にかけて総務費および民生費、農林水産業費の割合が増加傾向にあります。（2018年は震災の影響から参考値として掲載）



目的別歳出  
1,717百万円増加



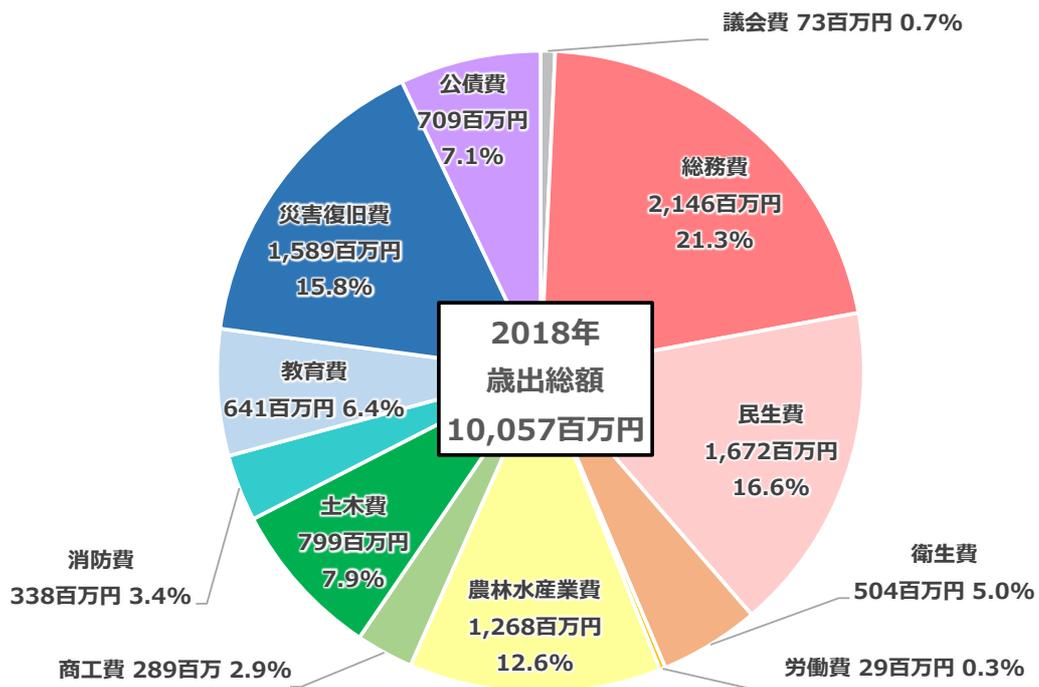
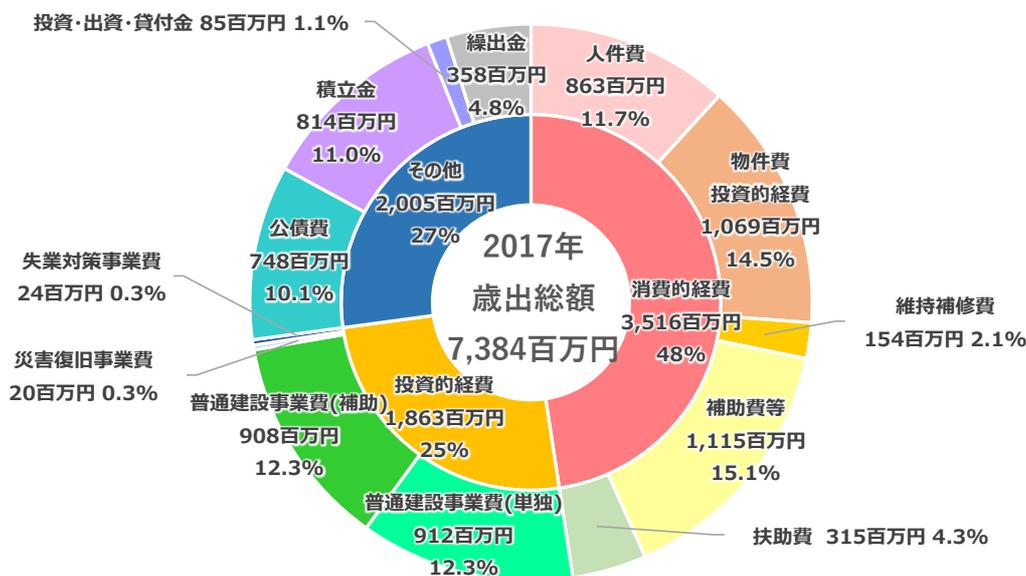
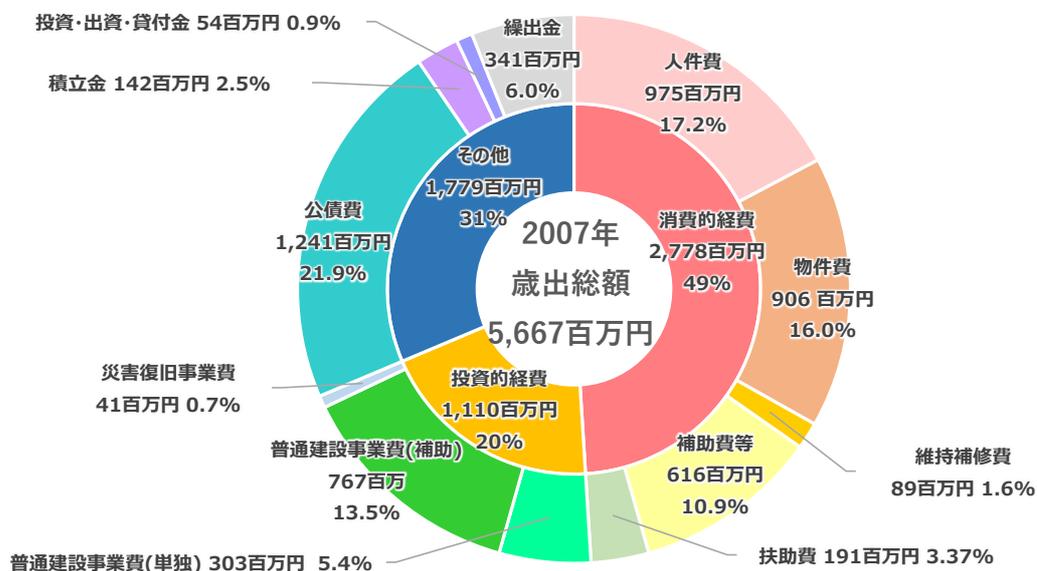


図 1-7-2 目的別歳出（一般会計）の推移（資料：厚真町）

## 第1章. 現状と課題

性質別歳出は、消費的経費が半数を占めており、2007年から2017年にかけては消費的経費の割合が増加傾向の一方、投資的経費は減少傾向にあります。（2018年は震災の影響から参考値として掲載）



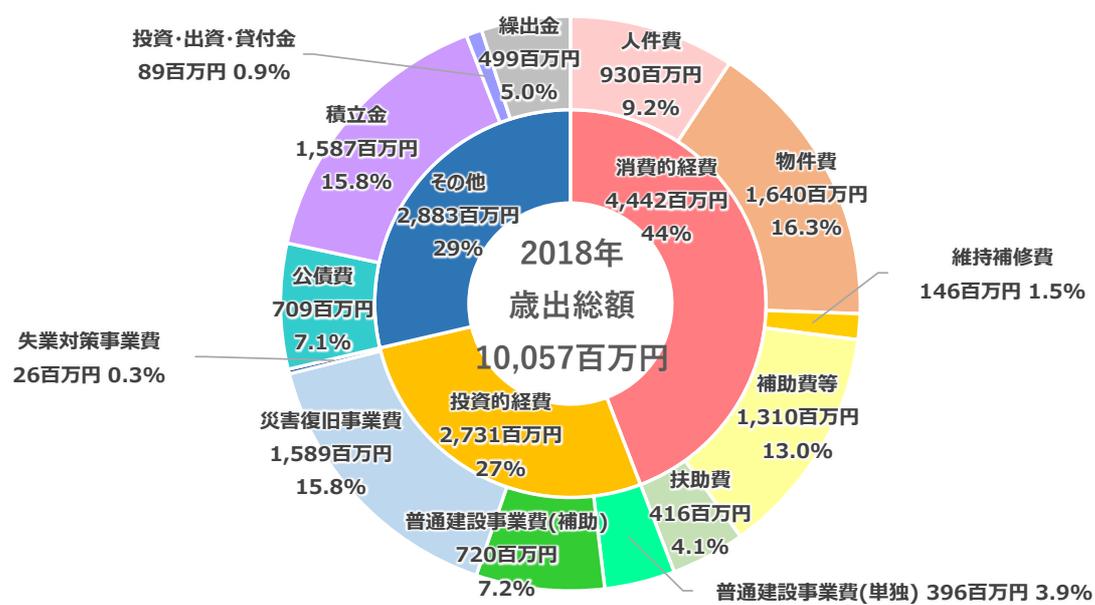


図 1-7-3 性質別歳出（一般会計）の推移（資料：厚真町）

(2) 公共施設等の現況及び将来の見通し

1970年代後半から1990年代前半にかけて建設された施設が過半を占めており、2020年時点で建設後30年以上経過している施設が約66%となっています。また10年後には約96%が建設後30年を迎えます。

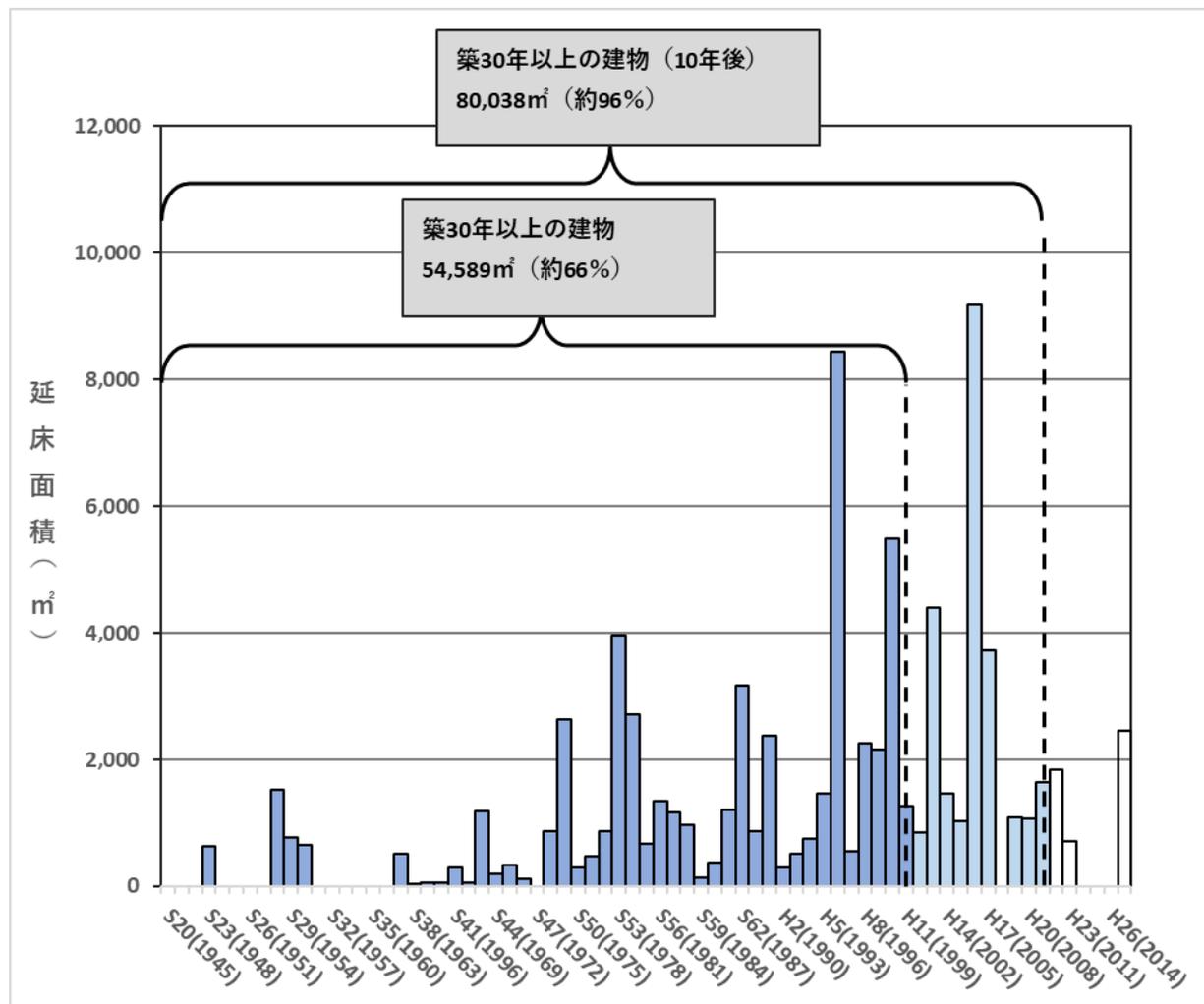


図 1-7-4 築年別の延べ床面積の状況 (資料：厚真町公共施設等総合管理計画)

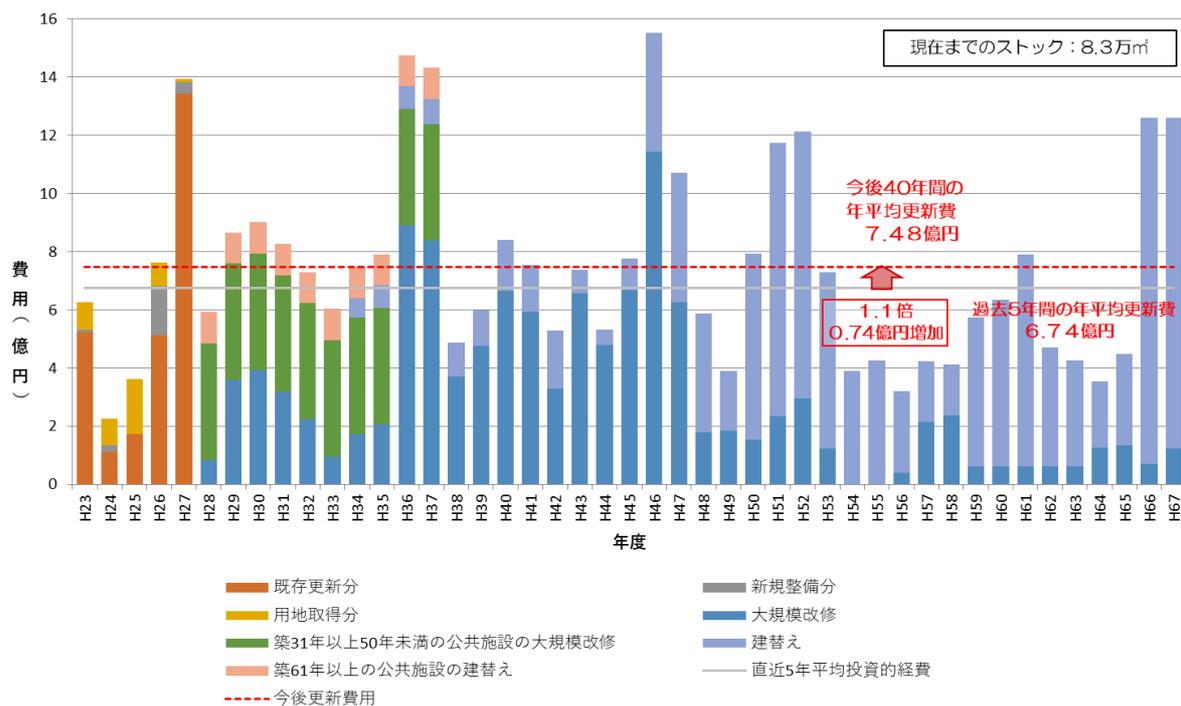


図1-7-5 建替・改修時期を迎える公共施設に要する費用（資料：厚真町公共施設等総合管理計画）

1-8 都市構造上の評価

本町の現況都市構造について、評価項目ごとの各指標を偏差値にして、人口規模が類似する他都市の平均と比較した結果は以下のとおりです。

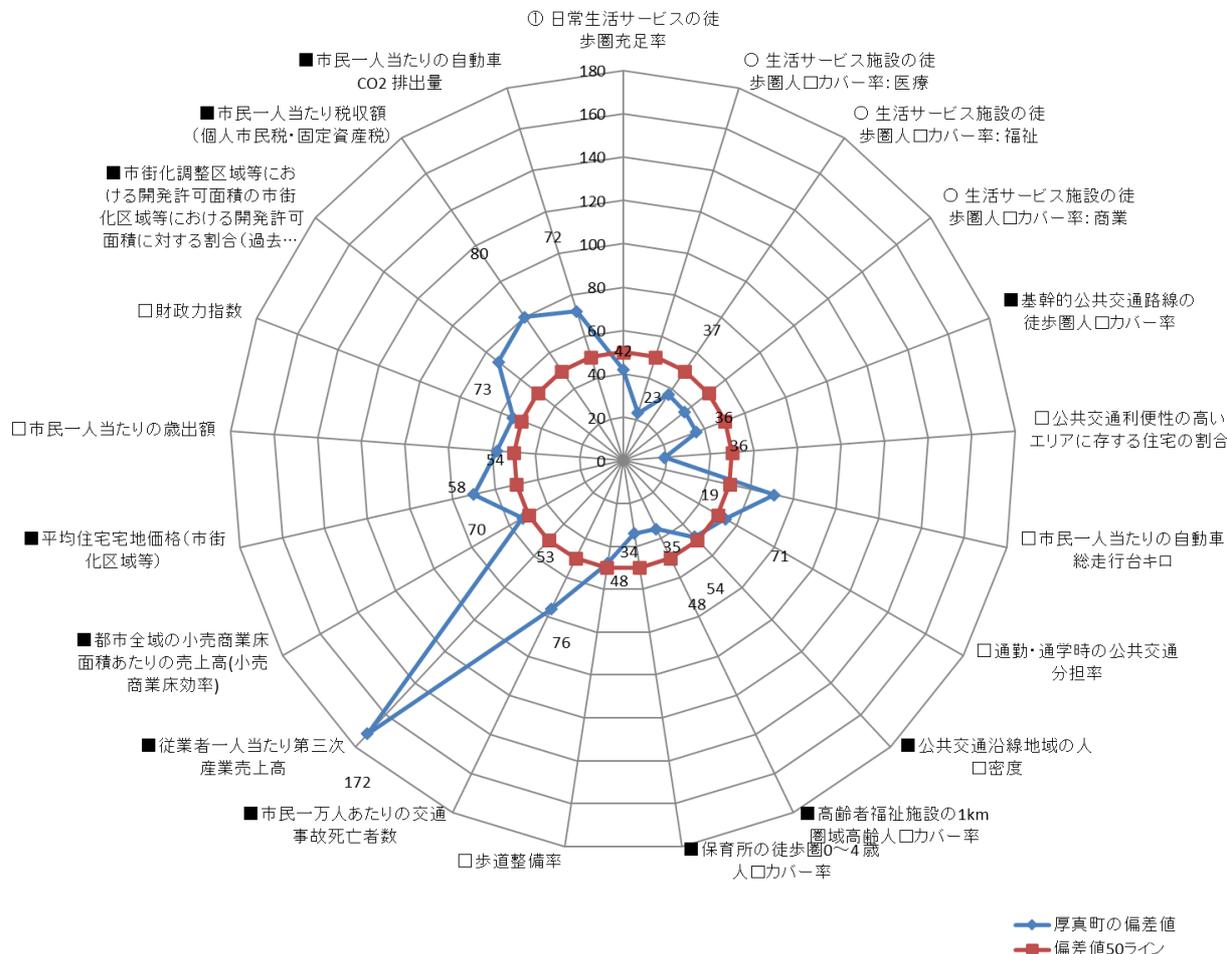


図 1-8-1 都市構造評価指標のレーダーチャート

(資料：都市構造の評価に関するハンドブック (国土交通省))

表 1-8-1 都市構造の評価

評価分野	分析結果
生活利便性	<ul style="list-style-type: none"> <li>類似都市と比較して、特に公共交通の利便性が平均より下回っています。</li> <li>自動車交通の利用は平均より上回っています。</li> </ul>
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が居住している徒歩圏域の高齢福祉施設、乳幼児が居住している徒歩圏の保育所が平均より下回っています。</li> <li>→市街地中心部への居住誘導の促進が必要です。</li> </ul>
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>類似都市と比較して、交通事故の件数が上回っています。</li> <li>→安全性の高い道路整備が必要です。</li> </ul>
地域経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3次産業売上高で、類似都市平均を大きく上回っています。</li> <li>平均住宅価格が類似都市の平均を上回っています。</li> </ul>
行政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>白地地域における開発行為の割合や税収が類似都市と比較して高いです。</li> <li>→効率的な行政運営が求められます。</li> </ul>
エネルギー・低炭素	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車の利用が活発であるため、多量に二酸化炭素が排出されています。</li> <li>→徒歩や自転車による移動が容易なまちづくり対策が必要です。</li> </ul>



## 第2章. アンケート調査結果

### 2-1 調査の概要

本アンケートは、「厚真町立地適正化計画」の策定に向けて町民の意見を反映させるべく、住まうことや日常の外出状況、暮らしについて調査したものです。

以下に、その概要を整理します。

#### (1) 調査対象と調査方法

① 調査対象	厚真町に居住する満18歳以上の男女計900人を年齢、居住地のバランスを考慮の上、無作為抽出
② 配布・回収方法	郵送方法
③ 調査時期	配布日 令和2年8月20日 投函期限 令和2年9月15日

#### (2) 回収率

① 配布数	900票
② 回収数	388票
③ 回収率	43.1%

#### (3) 調査項目

問1 年齢・性別

問2 職業

問3 居住地区

問4 住みやすくするために最も必要なこと

問5 住み続けるために最も必要な行政の支援等

問6 徒歩で行ける範囲にあってほしい施設

問7 目的地まで歩いて行こうと思える距離

問8 外出する場合の頻度や行き先、移動手段

(通勤・通学、役場や郵便局等、通院、知人宅、日常の買物、それ以外の買物、外食や娯楽)

問9 人口減少や少子高齢化が進むと最も問題になるもの

問10 現在お住まいの地区に住み続けたいか

問11 町内に住み続けたい理由

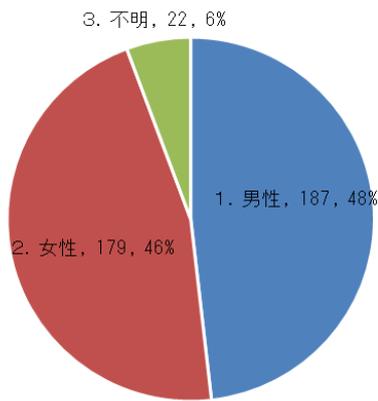
問12 町内に住み続けたくない理由

自由記述

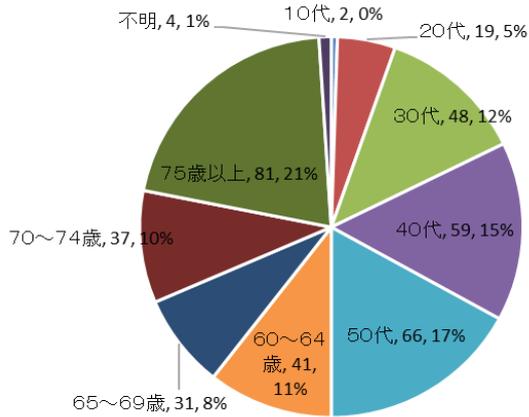
2-2 調査の結果

■問1～問3 性別・年齢・職業・居住地

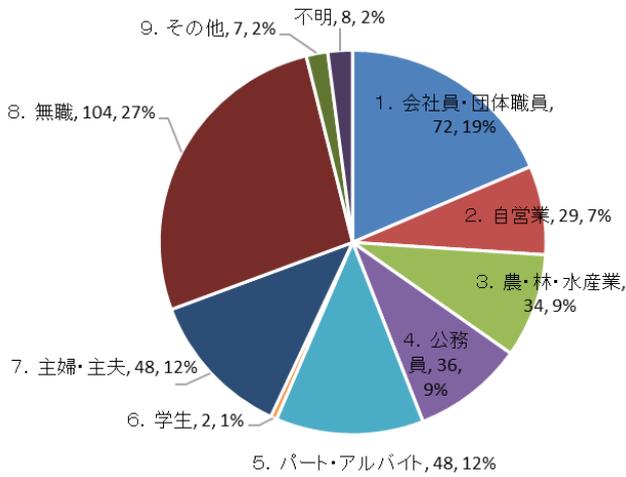
【性別】



【年齢】

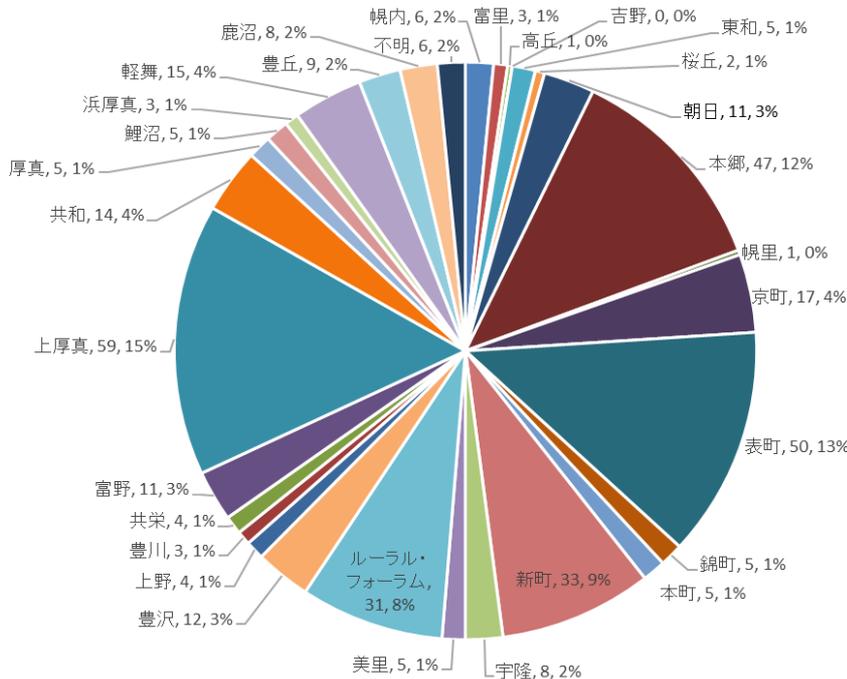


【職業】

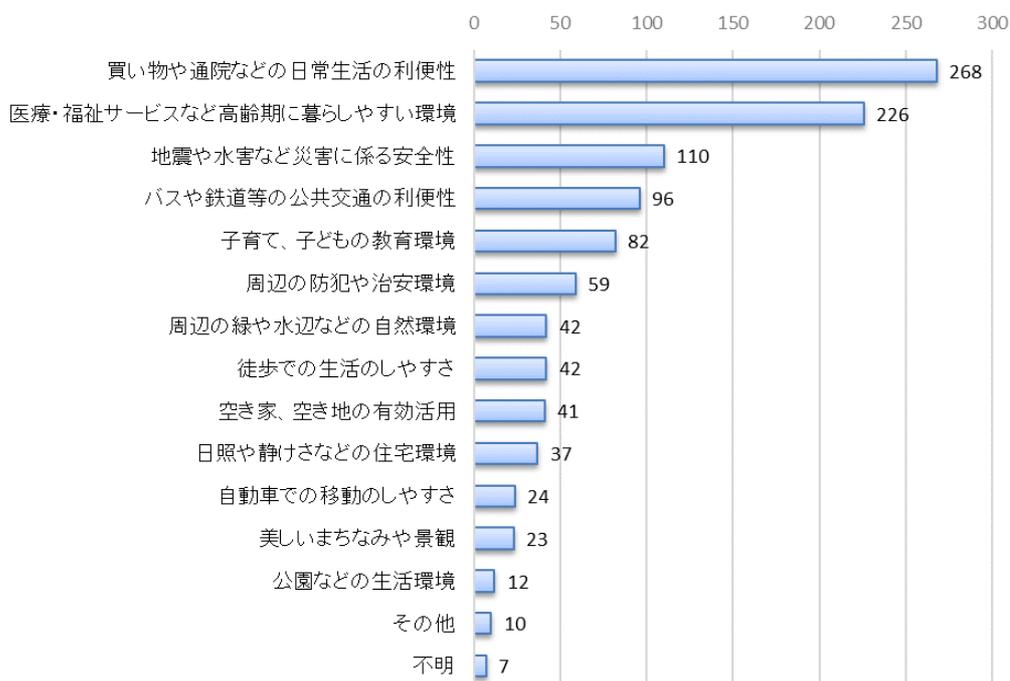


・性別、年齢との概ね均衡に回答が得られた。  
 ・職業別では、就業者が約60%、未就業者が約40%となっている。  
 ・居住地では、京町、本町などの「厚真市街地」が約28%、「上厚真市街地」が15%、ルーラル・フォーラム地区が8%となっている。

【居住地】

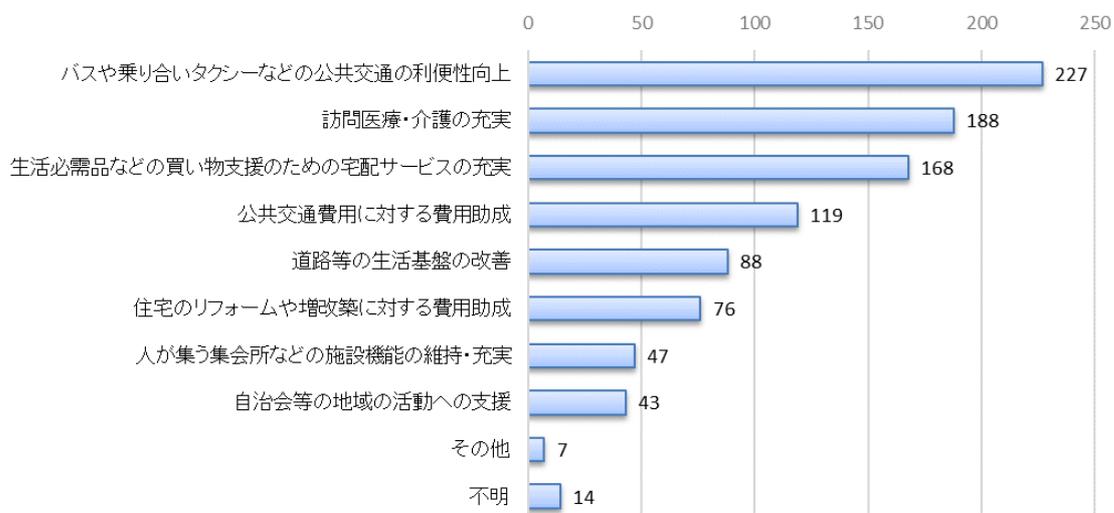


■問4 住みやすくするために最も必要なこと



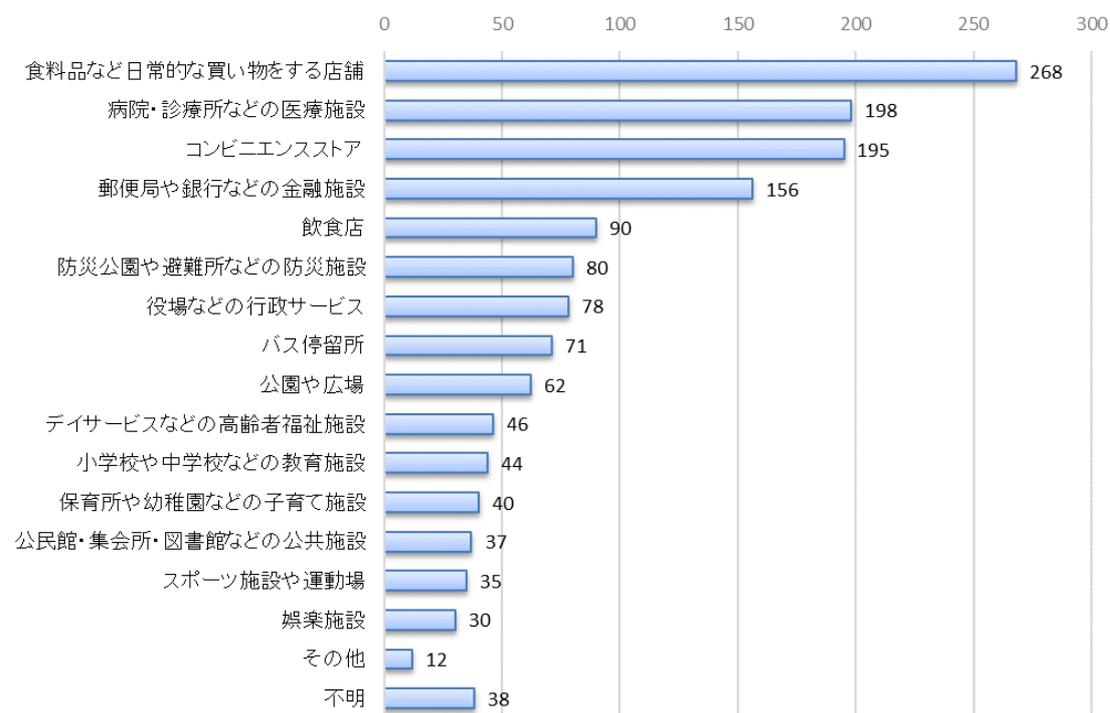
- ・「買い物や通院などの日常生活の利便性」が最も多く、次いで「医療・福祉サービスなど高齢期に暮らしやすい環境」と続く。
- ・震災から2年経過し復旧復興事業もある程度進んでいることから「地震や水害など災害に係る安全性」については第3位となっている。
- ・「バスや鉄道等の公共交通の利便性」は4位であるが多くはない。

## ■問5 住み続けるために最も必要な行政の支援等



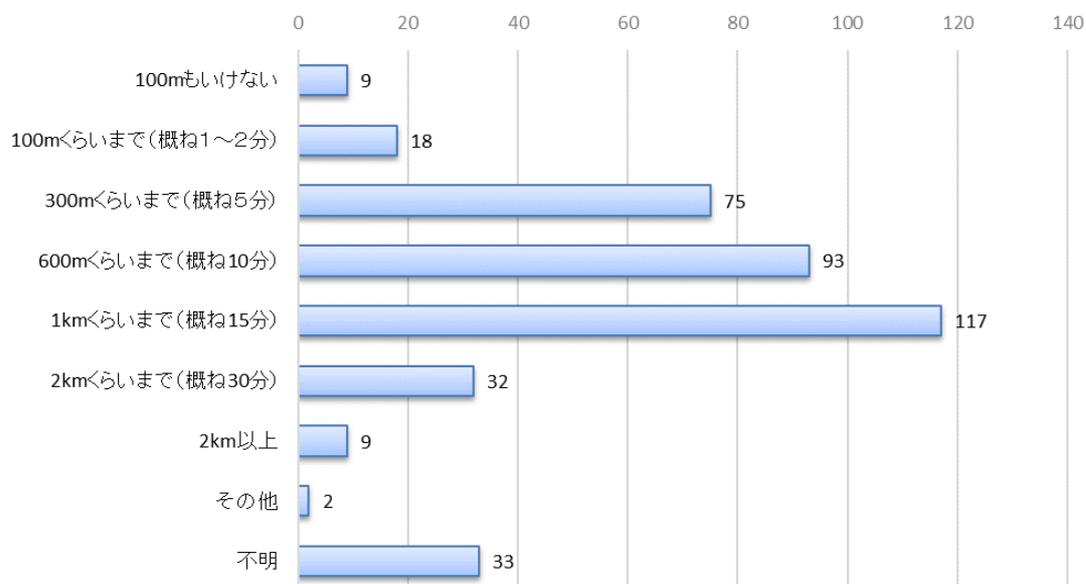
- ・ “最も必要なこと”で「公共交通の利便性」は第4位とそれほど多くなかったが、ここでは「バスや乗り合いタクシーなどの公共交通の利便性向上」が第1位となっている。
- ・ 次いで、「訪問医療・介護の充実」「買い物支援のための宅配サービスの充実」が続く。
- ・ 4位は「公共交通費用に対する助成」であることから、“日常生活利便”“高齢者向けサービス”への支援が多く望まれていると推察される。

■問6 徒歩で行ける範囲にあってほしい施設



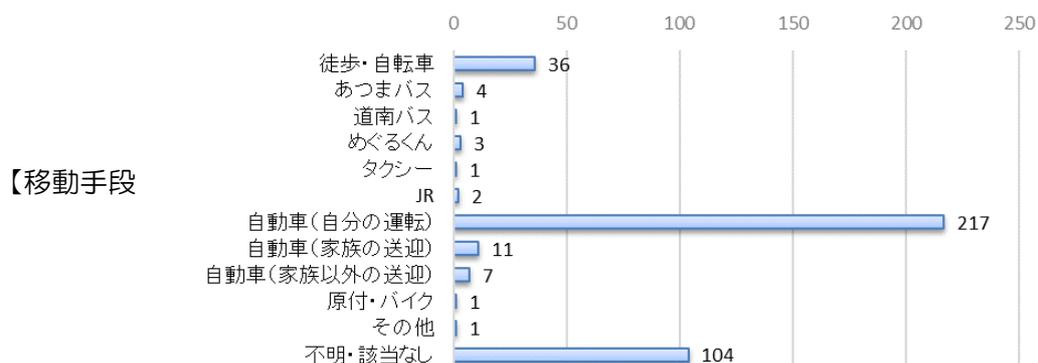
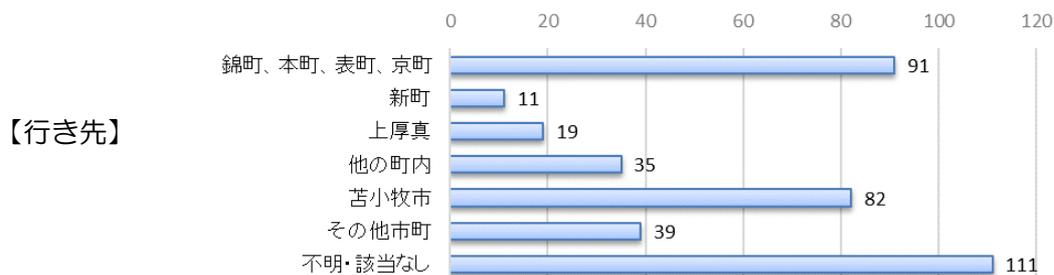
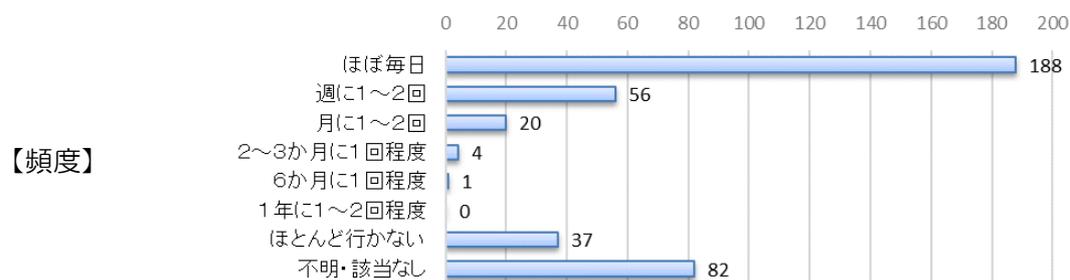
- ・「日常的な買い物をする店舗」、「医療施設」、「コンビニエンスストア」「金融施設」の日常利用が求められる施設が上位を占めている。
- ・次いで、「飲食店」であるがそれほど多くない。

## ■問7 目的地まで歩いて行こうと思える距離



・「1km (概ね 15分)」が最も多く、15分以内が全体の8割を占めている。

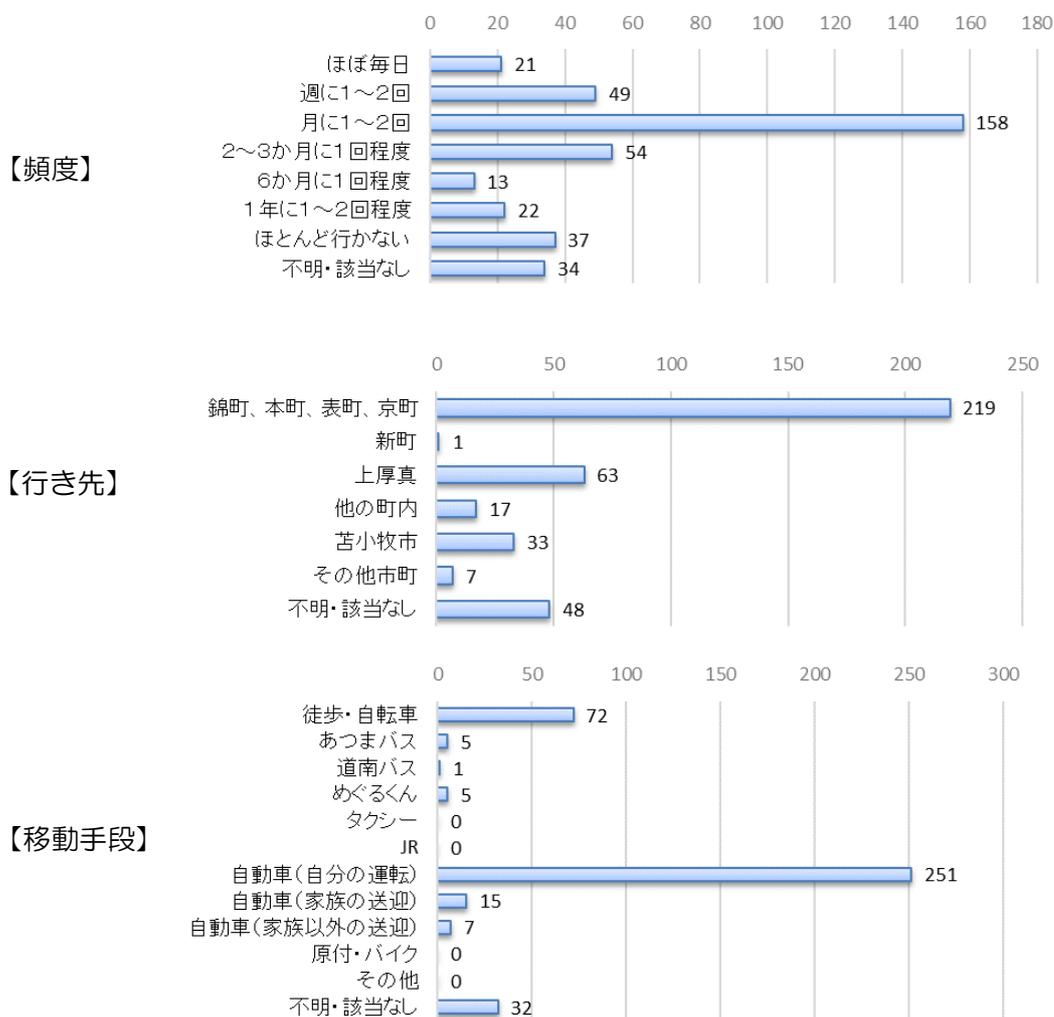
■問8 外出する場合の頻度や行き先、移動手段 『通勤・通学』



・ 目的が“通勤・通学”のため、「ほぼ毎日」が最も多く、そのほとんどが「自分の運転による自動車」である。

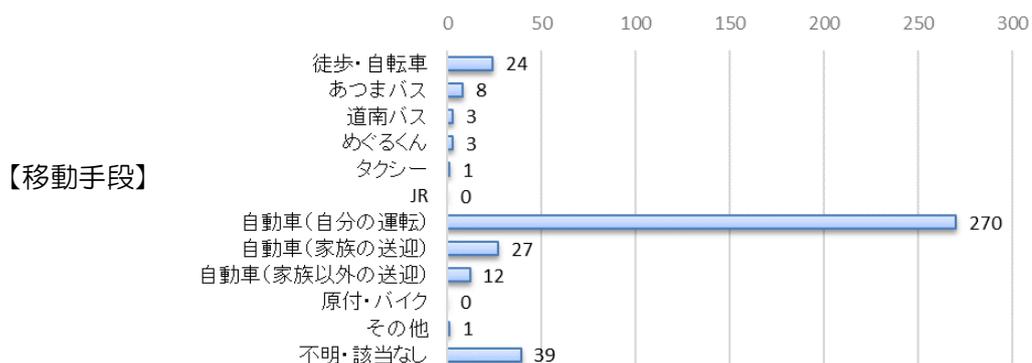
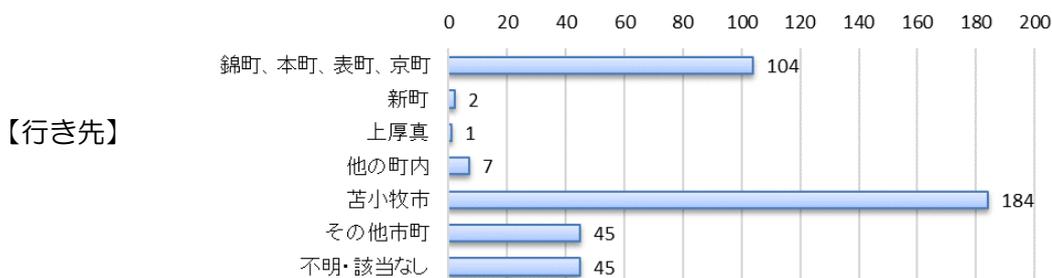
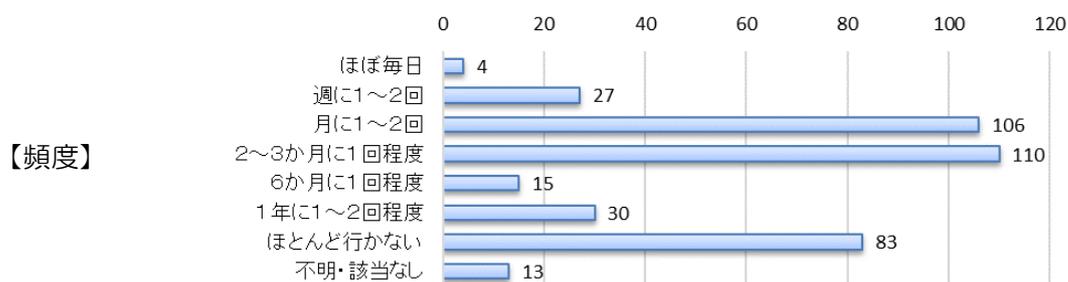
・ 行き先については、「錦町、本町、表町、京町（以下「厚真市街地）」と苫小牧市で二分している。

■問8 外出する場合の頻度や行き先、移動手段 『役場や郵便局等』



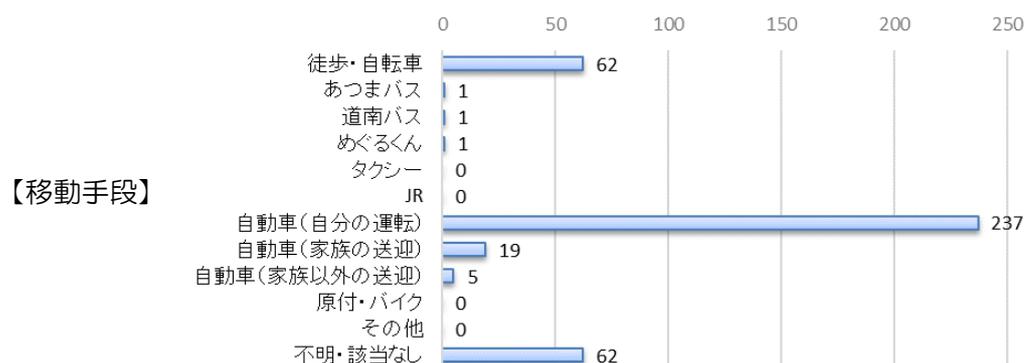
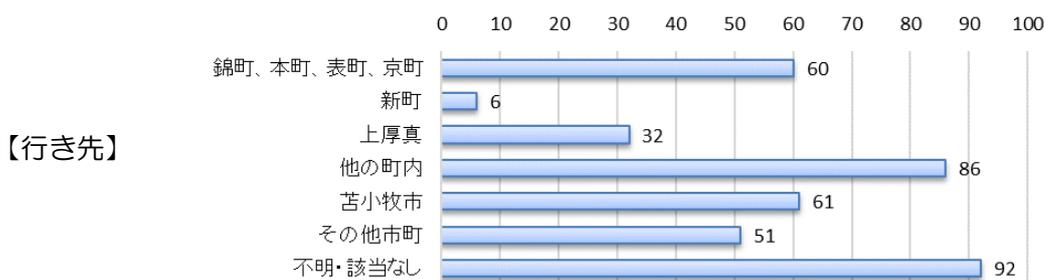
- ・ 目的が“役場や郵便局等”では、「月1~2回」が最も多く、そのほとんどが「自分の運転による自動車」、「厚真市街地」である。
- ・ 移動手段では、他の目的と比べて「徒歩・自転車」が多い。

■問8 外出する場合の頻度や行き先、移動手段 『通院』



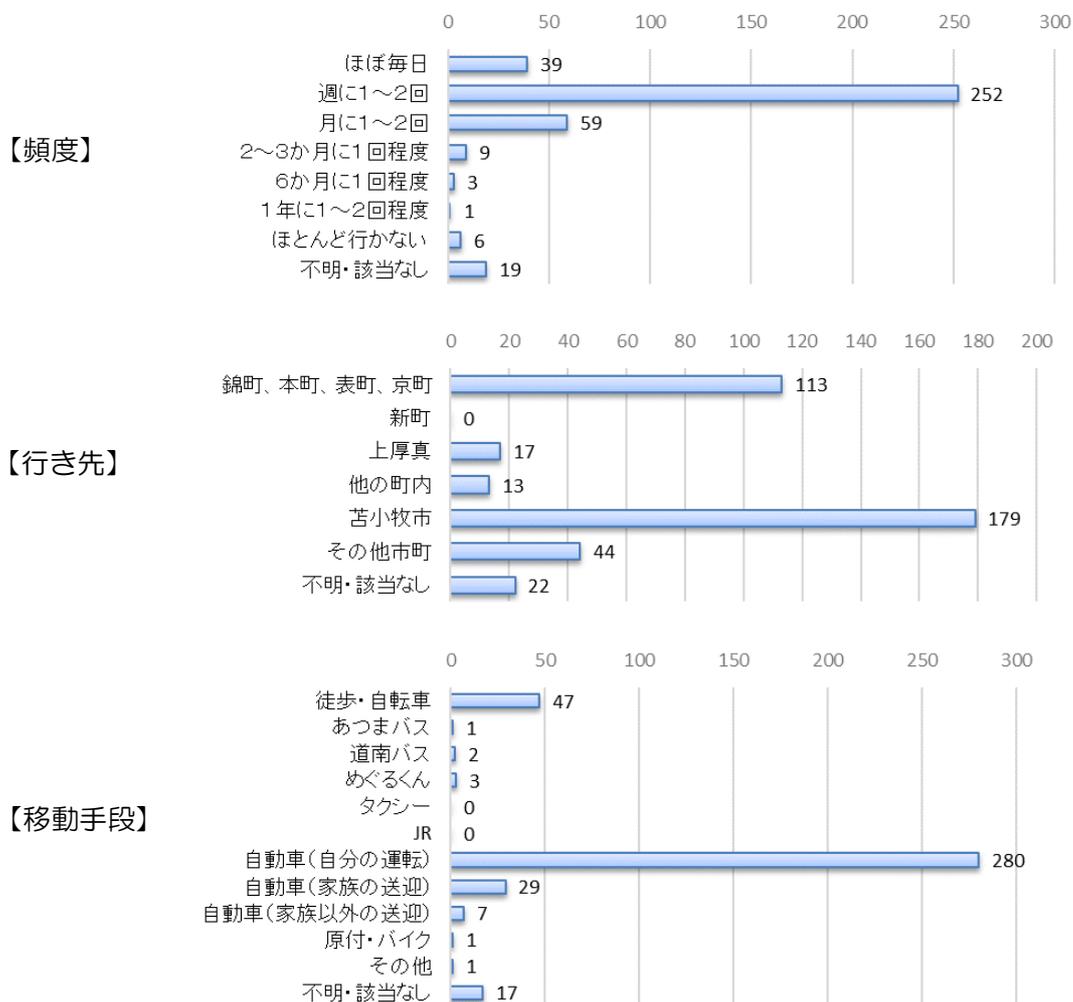
- ・ 目的が“通院”では、「月1~2回」、「2~3か月に1回程度」が最も多く、そのほとんどが「自分の運転による自動車」である。
- ・ 行き先については、「苫小牧市」が最も多く、次いで「厚真市街地」となっている。

■問8 外出する場合の頻度や行き先、移動手段 『知人宅』



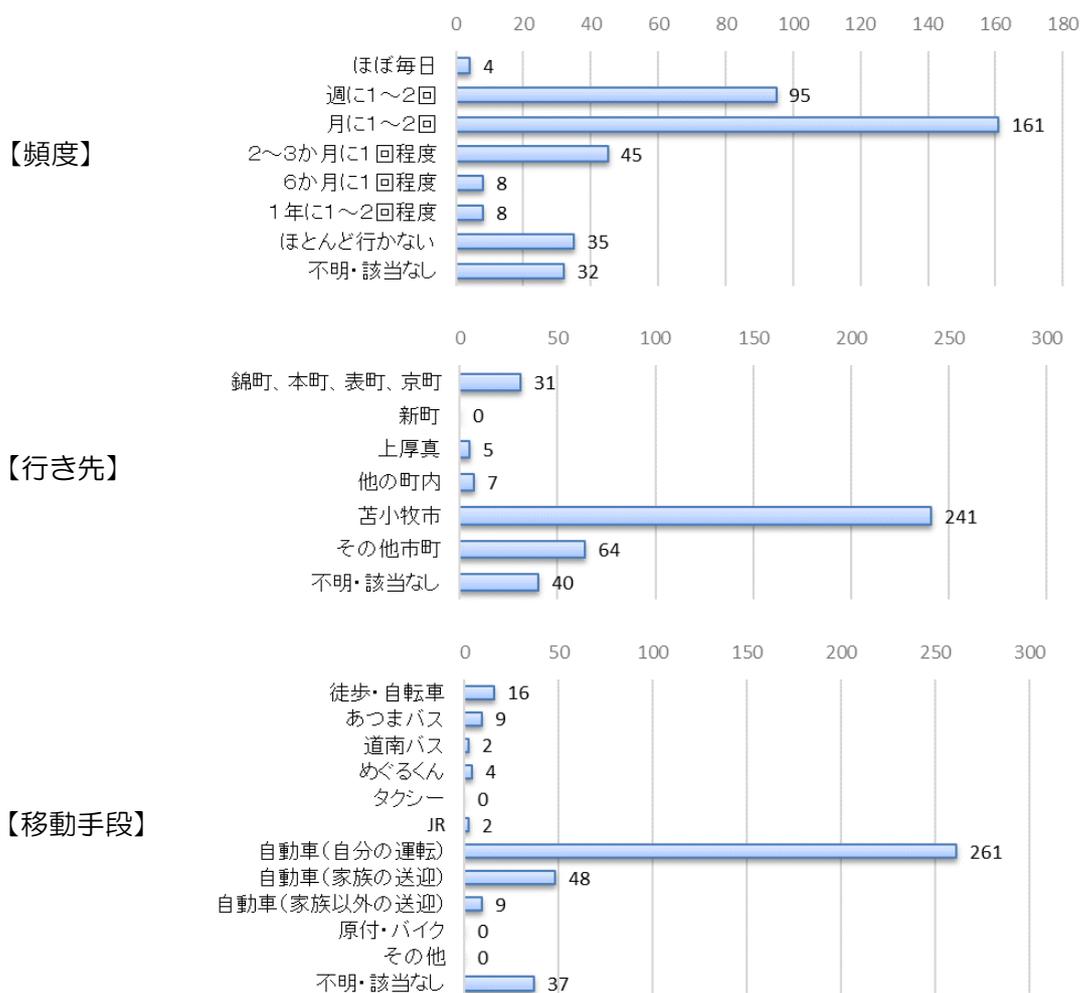
- ・ 目的が“知人宅”では、「ほとんど行かない」と「月1~2回」が最も多く、そのほとんどが「自分の運転による自動車」である。
- ・ 行き先については「他の町内」が最も多いが、他の行き先もそれぞれ選択されている。
- ・ 移動手段では、他の目的と比べて「徒歩・自転車」が多い。

■問8 外出する場合の頻度や行き先、移動手段 『日常の買物』



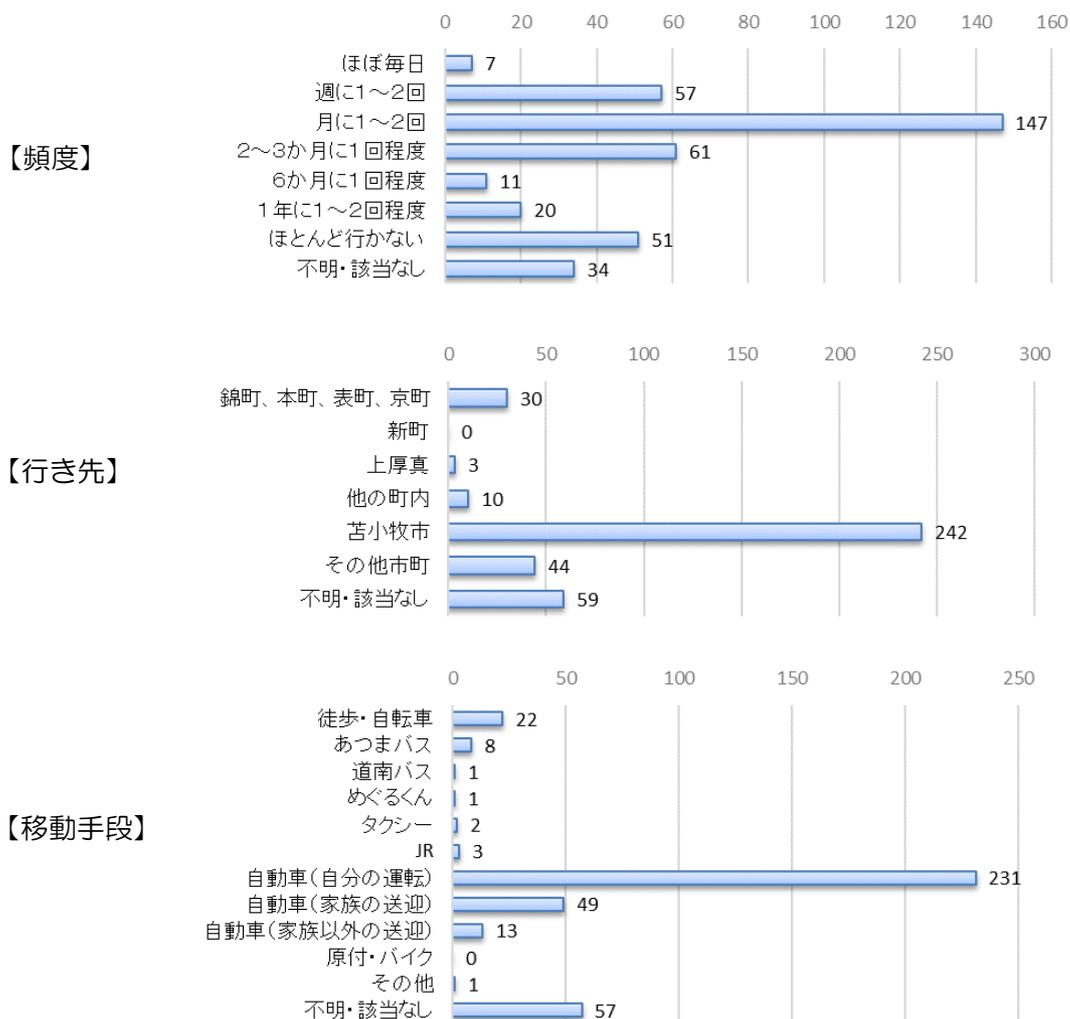
- ・ 目的が“日常の買物”では、「週1~2回」が最も多く、そのほとんどが「自分の運転による自動車」である。
- ・ 行き先については「苫小牧市」が最も多く、次いで「厚真市街地」となっている。

■問8 外出する場合の頻度や行き先、移動手段 『それ以外の買物』



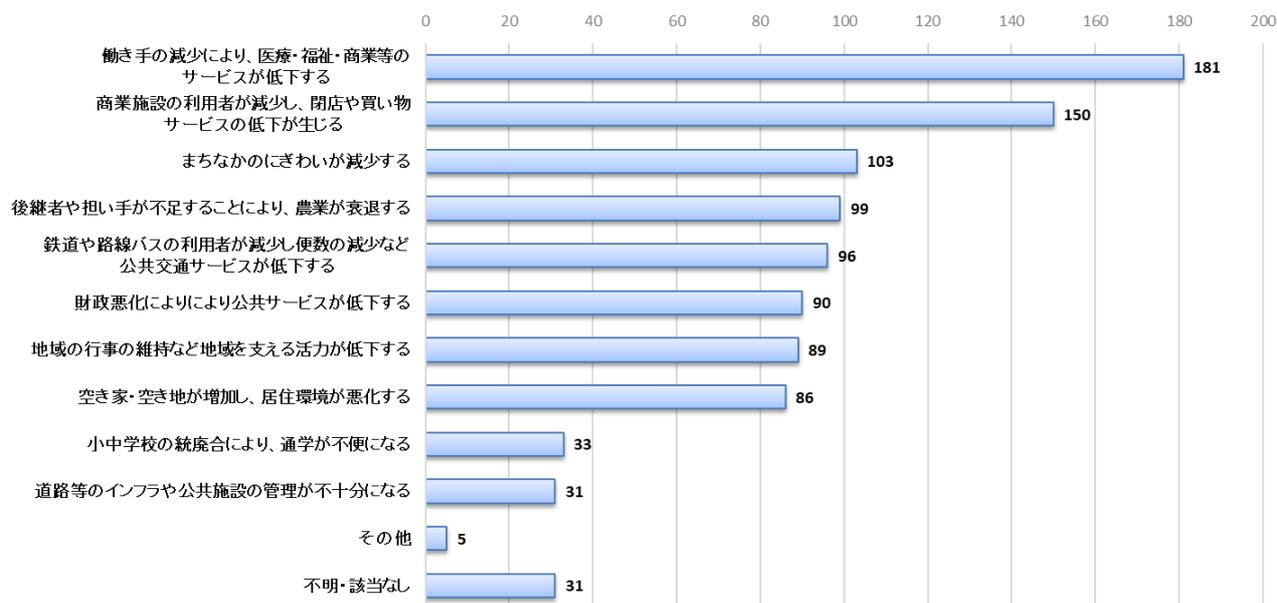
- ・ 目的が“それ以外の買物”では、「月1~2回」が最も多く、そのほとんどが「自分の運転による自動車」である。
- ・ 行き先については「苫小牧市」が突出して多く、次いで「その他市町」で、「厚真市街地」はその1/2の3位となっている。

■問8 外出する場合の頻度や行き先、移動手段 『外食や娯楽』



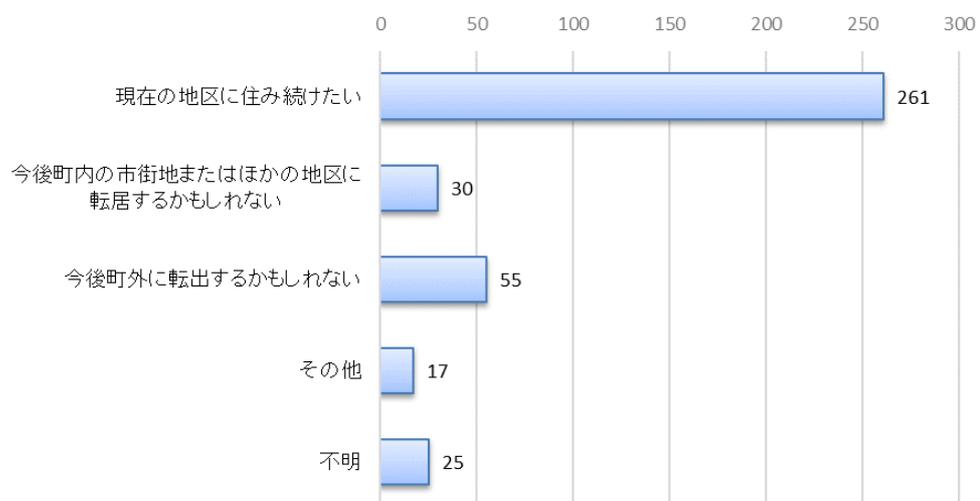
- ・ 目的が“それ以外の買物”では、「月1~2回」が最も多く、そのほとんどが「自分の運転による自動車」である。
- ・ 行き先については「苫小牧市」が突出して多く、次いで「その他市町」で、「厚真市街地」は3位となっている。

■問9 人口減少や少子高齢化が進むと最も問題になるもの



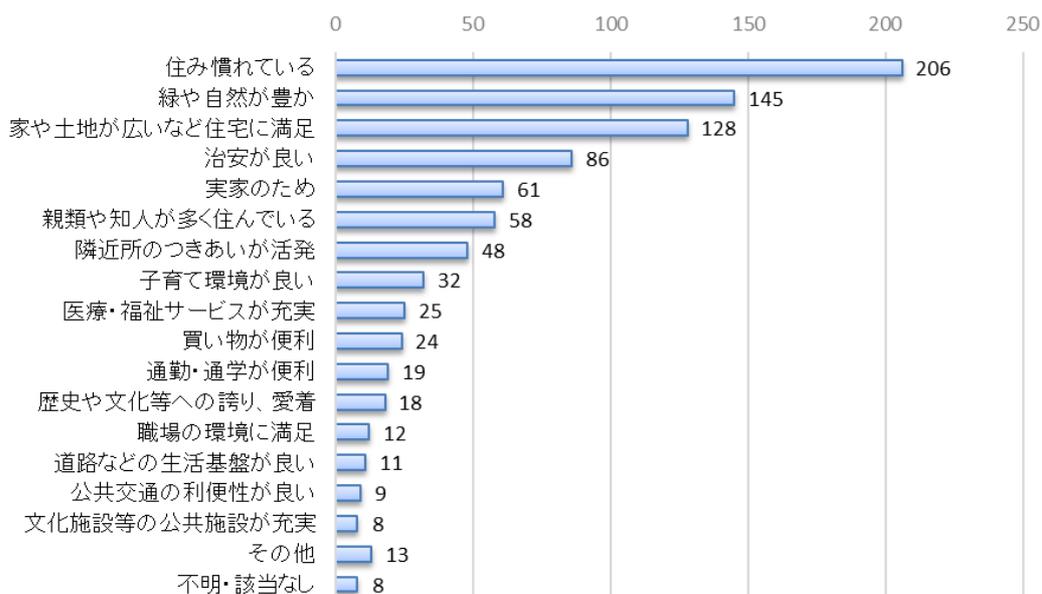
- ・「働き手の減少により、医療・福祉・商業等のサービスが低下する」が最も多く、次いで「商業施設の利用者が減少し、閉店や買い物サービスの低下が生じる」となっている。
- ・その他は概ね均等に選択されているが、「統廃合により通学が不便」、「公共施設の管理が不十分」はそれほど危惧されていない。

■問 10 現在お住まいの地区に住み続けたいか



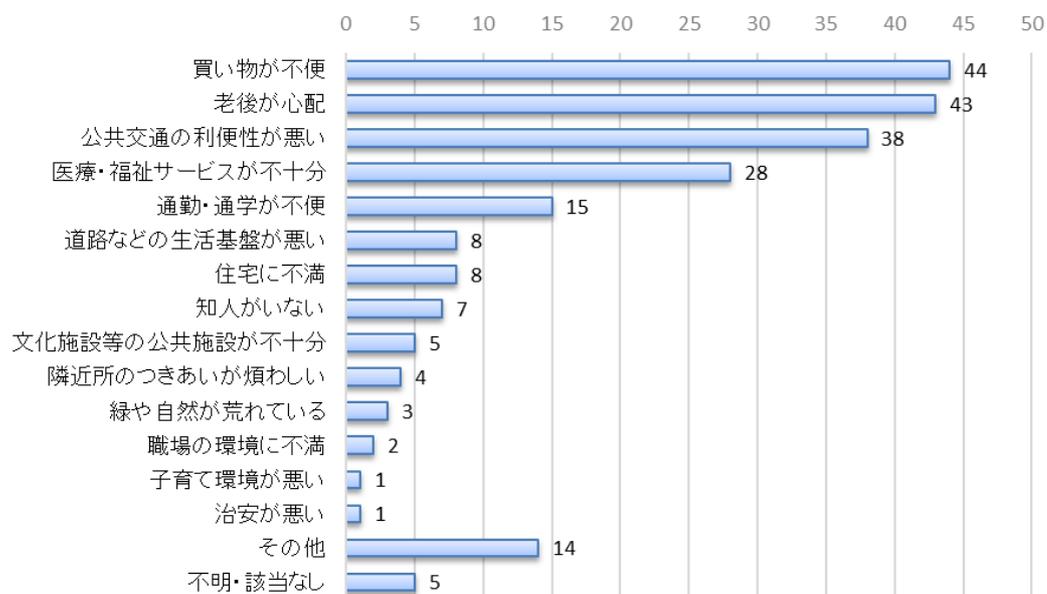
・「現在の地区に住み続けたい」が突出して多く、「町内に転居」、「町外に転出」は少ない。

## ■問 11 町内に住みたい理由



- ・「住み慣れている」が最も多く、次いで「緑や自然が豊か」、「家や土地が広いなど住宅に満足」、「治安が良い」と続く。
- ・「隣近所のつきあいが活発」、「親類や知人が多く住んでいる」など良好な人付き合いも理由として少なからず選択されている。

■問 12 町内に住み続けたくない理由



・「買い物が不便」、「老後が不安」、「公共交通の利便性が悪い」が上位を占め、次いで「医療・福祉サービスが不十分」と続く。

●調査結果まとめと見えてくる方向性

- ・ 日常的な買い物の多くは苫小牧市に行くものの町内も一定の多さがありますが、その移動手段は自動車となっています。一方、徒歩で行ける範囲内には日常的な買物をする店舗や医療施設、金融施設の立地が望まれておりその範囲は1 km 以内となっています。また、住みやすくするために必要なこととして買い物等の日常生活の利便性が望まれていることから、“1 km 圏内に日常生活の利便性向上が享受できる施設・サービス”を向上させることで、町内での充足性や経済循環が促進されるものと推察されます。
- ・ また、行政に求める支援として公共交通の利便性向上がもっとも多く望まれていることから、地域公共交通を充実させることで徒歩圏を超えた区域に居住する住民へのサービスを向上できれば、充足性や経済循環がさらに促進するものと推察されます。
- ・ 現在、移動手段は目的を問わず自動車が大部分を占めていることから、上記の促進によって低炭素社会への貢献に期待できます。
- ・ ほとんどの住民が住み続けたいと望んでいる一方、人口減少や少子高齢化が進むことにより、日常生活のサービスが低下することに危惧していることから、震災前までの転入増加傾向の回復が望まれます。

(調整用頁)